關東州の鹽田

◎挿繪の解說

**關東州の鹽田**　圖は旅順の北西、雙島灣に於ける鹽田の整地作業の有樣を、示したものである。多數の人が白く見える池の中に立つて作業してゐるのは、結晶池に沈澱してゐる泥土を、導き入れた海水によつて洗つてゐる所で、其の向ふに黑く見える砂地を二人一組になつて牽いてゐるのは、石製のローラーである。池面を前の樣にして洗つた後、泥・水を排出し、日に乾した後、斯樣にしてローラーで固め再び飽和鹹水を流入せしめて結晶させるのである。

**其の他**　尙ほ上記の外、牧畜業としては、牛・馬・豚・鷄等の飼養が行はれてゐる。鑛業としては見る可きものは州内には殆んど無く、然るに工業は背後に原料竝びに鐵・石炭等の原動力豐かなる滿洲を控へてゐるのと、勞力の賃金低廉なる苦力が多いために、近年著しく進歩してゐる。就中工業地帶として知られてゐるのは、海陸交通の要地たる大連であつて、主として、豆粕・豆油等を製し、其の外、車輛・機械類等の製造も行はれてゐる。

## 五　旅順

旅順の市街の圖

旅順は關東州の南端に近く、渤海灣口に位し、直隷海峽を扼する所にあり、三面は山に圍まれ、南一面は旅順灣にのぞみ、狹小の港口を開く一大要害である。市街は東西の二部からなり、東は舊支那の建設せるもの、西は其の後露國の經營せるものである。港内も東西二部に分れてゐるが、東港は水深けれども面積甚だ狹く、西港は面積は廣いが水淺く、何れも大艦巨舶の出入に不便をまぬかれぬ。明治四十三年六月に、其の一部を開放して商港としたのと、船舶の出入するものも多く、繁榮してゐるが、併し上記の如き不便があるのと、其の内陸地に對する地位的關係とから、港としては大連に及ばない。

併しながら、此の地は、關東州に於ける政治・學術の中心地であつて、關東廳・要塞司令部・各種法院・工科大學・師範學堂・各種の中等學校・關東廳博物館等の所在地となり、人口は約三萬餘、其の附近一帶は、明治二十七八年の日清戰爭竝に明治三十七八年の日露戰爭當時の激戰地で、爾靈山（二〇三高地）椅子山・松樹山・二龍山・東鷄冠山・白玉山表忠の塔・白玉神社・水師營等は、最も著名なる戰跡である。

◎挿繪の解說

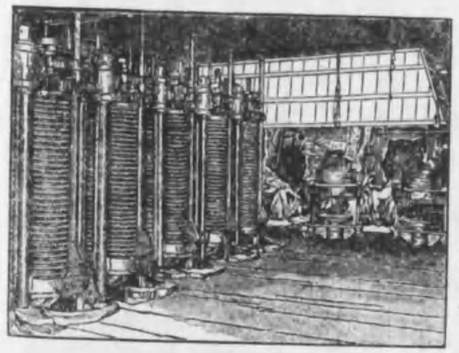
**爾靈山上の記念碑**　爾靈山（二〇三高地）は、其の名の示す如く二〇三米ありて、旅順四近の最高點

爾靈山上の記念碑

者は七千餘、露軍の遺棄したる死體は五千四百の多きに達した程であるから、如何に其の激戰なりしかを知る事が出來よう。今其の山上には揷繪の如き乃木大將の筆になる「爾靈山」の文字を浮彫にした碑が建つてゐる。此の碑は當時兩軍の使用せし彈丸を集めて作れるものであると言ふ。尙ほ此の山の西麓には、乃木保典氏戰死の蹟がある。

◎揷繪の解說

**豆粕製造工場**　圖は大連第一の、日淸豆粕製造工場の內部を示したものである。圖の左方に見えるのは、大豆を煮て圓板狀となし、夫れを壓搾機の中にいくつも積重ねたものである。豆粕は、斯樣な壓搾裝置によつて壓搾せられて製せられるので、普通斯うした工場で、此の地の奪取如何は、旅順攻略の成否を決する重要地點であつたから、我が軍の最も惡戰苦鬪した所である。即ち明治三十七年九月十九日から十二月五日に至る間、彼我互に爭奪すること六回、其の戰によつて出せる我が軍の死傷



豆粕製造工場

大連港の埠頭

を油房と稱してゐる。豆油と言ふのは斯うして壓搾して得たる油を言ふので、豆粕は其の搾粕である。關東州內に油房業の起つたのは、明治三十九年後であるが、特に盛になつたのは、歐洲大戰後に、米國方面の化學原料、殊に石鹼・火藥の原料及び食料として、豆油の需要が增したのと、又歐洲方面に其の販路を開く樣になつてからで、今日に於ては、此の豆粕・豆油は主要なる輸出品となつてゐる。而も大連は油房業の一大中心地である。

◎揷繪の解說

**大連港の埠頭**　大連港の埠頭は、第一埠頭（長さ六〇〇米・幅一七〇米）、第二埠頭（長さ六〇〇米・幅一二〇米）、第三埠頭（長さ六〇〇米・幅一二〇米）、第四埠頭（長さ六〇〇米・幅一八〇米）等が主なものであるが、圖は其の第二埠頭の光景を示したものである。圖の中央に見える建物は船客待合所で、手前にある半圓形の屋根のある所が、其の入口である。船客は此の待合所から、直ちに汽車に乘込むことが出來、また階廊から汽船に乘ることも出來る樣になつてゐる。待合所の岸壁側には、長さ百六

十米のベランダを有し、其の内部には、滿鐵埠頭船客案内所・汽船會社並に銀行の出張所・食堂・娯樂室・化粧室・婦人室・圖書室・賣店等の設備があり、同時に五千人を容れても、尙ほ餘裕があると言はれてゐる。尙ほ又圖の後方遙かに、左方から突出してゐるのは防波堤で、之に相對して右方にも防波堤の先端部が見えてゐるが、何れも其の先端に燈臺を有してゐる。

## 六　大　連

大連は元青泥窪と稱する一漁村であつたのを、露國の租借時代にダルニーと命名し、多くの費用を投じて新市街を建設し、大規模の築港計劃をたて、南滿洲鐵道を敷設したので、次第に繁華な町となり、次いで明治三十七年五月廿八日に我が軍の手に歸し、翌年の紀元節に大連と命名して、此の地の發展に努力し、港灣の設備を整へ、諸種の事業も興したので、遂に今日の如き繁榮を極めるに至つたものである。現在、人口二十八萬五千餘（昭和七年末）、州内第一の大都會となつてゐる。

市内には、民政署・滿鐵本社・滿鐵醫院・滿鐵ヤマトホテル・市役所・正金銀行大連支店・遞信局・地方法院・各國領事館・各種の工場・諸會社・中等諸學校等があり。市街はバリー式になつてゐて、中央に大廣場があり、其處から山縣通、奥町、大山通等、日露戰役當時の武將の名を冠したる數條の大通りが放射狀に出てゐる。而して更に此の外に五つの小廣場があつて、各一方の中心をなし、又幾多の小通りを設けて、恰も鉄網狀に連結せられ、市内には諸處に公園を設け、且つ電燈・電話・瓦斯・水道等其の他の文化的施設が皆備はり、又道路は車道と歩道の區別を嚴重にし、歩道の兩側にはアカシヤ・ポプラ等の街路樹を植ゑる等、全く近代都市としての美觀を充分に發揮してゐる。（挿繪の解說「大連」參照）

市街は大連灣に臨み、旅順の北東約四十粁、門司を距ること凡そ一千百八十四粁（所要日數三日間）の地點にあり。滿洲の門戸に當り、世界交通の要地で、港灣は廣くて深く、波靜かで埠頭の設備がよく整ひ（挿繪の解說「大連港の埠頭」參照）、而も冬季も港内が結氷しないので、四時船の出入が繁く、我が内地及び支那の諸港との海上の交通が頗る便利である。

尙ほまた陸上交通に於ては、我が南滿洲鐵道の起點に當つてゐるから、滿洲・支那・シベリヤ各地との陸上交通も頗る便利である。隨つて、滿洲の重要輸出品たる大豆・豆粕・石炭等は、一旦南滿鐵道（連京線）によつて此の地に運ばれ、こゝから我が内地及び支那等に積出され、又滿洲の重要輸入品たる我が國産の綿織物・綿絲・麥粉等は、多く汽船で此の港に陸揚げされて、然る後南滿鐵道（連京線）によつて滿洲の各地へ送られるのである。豆粕は主として滿洲産の大豆を原料として、滿洲各地でも製造されてゐるが、其の生産高の最も多いのは大連である。（挿繪の解說「豆粕製造工場」參照）、而して是等の豆粕は、何れも玆から海外に積出され、其の大部分は横濱・神戸に送り出されてゐる。昭和六年度に於ける豆粕生産價格は三千萬圓を越えて居り、豆油も一千三百萬圓以上に及んでゐる。

大　連

◎插繪の解說

**大連**　圖は大連市街の大廣場の南方にある滿鐵經營のヤマトホテルの屋上から、北方を眺めた景觀を示したもので、中央部の公園やうの所が大廣場である。大廣場の前方にある銅像は初代關東都督、大島義昌將軍の銅像であつて、街路は此の大廣場を中心として放射狀に出てゐる。圖に見える左方の通りが有名な大山通で、此の通りに沿つて左側に無線電信塔の見える建物が遞信局、通りの右側即ち圖の正面に見える建物が正金銀行大連支店である。而して、其の右側に見える通りは奥町である。街路には、何れも街路樹が植ゑてあつて、人道と車道とは區別されてゐる。尙ほ圖の後方に白く一線の見える所は、大連灣の一部である。

◎配當時間—二時間

**第一時限**

## 指導の過程

1　本時は教科書五十三頁の「海岸」までに就き、大體吟味の項に記載せる如き内容に就て指導する。

2　卽ち先づ第一に租借地とは如何なるものかに就て明かにし、つた理由を知解せしめねばならぬ。而して後、現在我が政府の、にし、又關東州の地理的價値を闡明すべきである。

3　それには先づ、本州の區域・面積・人口等の大要を明かにし、更に極東に於ける位置（自然的にも、關係的にも）に就て理解せしめ、此の地が我が國のアジヤ大陸に對する經濟的發展の策源地たる所以、並に軍事上、交通上重要なる地域を占める事實を明かにすることが大切である。

4　固より關東州の地理的價値は、如上によつてのみでは決定されない。更に本地域の地勢・産業・都邑・交通等の大要を理解せしめることによつて、始めて闡明出來る。だから本時のみの指導で前記の意圖を完全に果すことは出來ない。卽ち旅順・大連及び大連を起點とする南滿鐵道（連京線）の經營等を說くことによつて、始めて完全に了解させ得られるのである。故に本時は、單に位置上から、此の點に就ての、想察をなさしめおく程度でよい。

5　本時の指導内容たる住民・地勢・産業等に就ては、餘り詳說の要はない。唯本州内の農業の不振なる理由、並に天日製鹽業の盛なる理由等に就ては、或る程度まで考察せしめておくがよい。

6　尙ほ作業としては、兒童の鄕里から、大連に至る主要なる交通路をあげしめ、それに要する日數

及び時間、賃金等を調査させて見たい。

**第二時限**

1　本時は、旅順・大連等を中心として指導し、是等の都邑の現況並に特色・發達原因等を明かにすると共に、あはせて、前時に意圖せる事柄を、一層明かならしめる。

2　尙ほ指導上の一般注意としては、大連と旅順とを對比的に取扱ひ、その港灣としての特質を明かにすることが大切である。

3　而してまた旅順附近の戰跡に就て、適當に之を敷衍して、先輩同胞の辛慘苦衷を感得せしめ、以て之が繼承國民としての自覺を促すこと等も忘れてはならない。

4　更に又國語讀本卷七「大連だより」、同卷九の「水師營の會見」等と聯關的に取扱ふことや、大連港を經由しての、我が國と滿洲國との取引關係（此の際南滿洲鐵道の連京線に就て簡單に附說する）を明かにする事なども肝要な事柄である。

【備考】第一時・第二時ともに、隨時「環境の整理」の項に揭げたる如き直觀方便物を活用して、指導の實際を具體的ならしむ可きは喋々するまでもない。

**參考附說**

(1) **租借地の意義**　租借地と云ふのは、或る國が他國から條約によつて、有期限內、或は無期限に、其の領土を無租稅、無償で借受けてゐることであつて、其の期限中は該地域に對する租貸國の領土權は全く停止せられ、租借國の統治權がこゝに働くことになるのである。

我が國の租借地たる關東州は、明治三十一年五月二十七日パプロッフ條約により、期間を二十五年と定めて、露國が支那から租借してゐたものであるが、其後日露戰役の結果、明治三十八年九月五日ポーツマスに於ける日露媾和條約第五條、並びに明治三十八年十二月二十二日、日清滿洲善後協約第一條によつて、此の地の租借權は我が國に移ることゝなり、更に其後大正四年五月二十五日に至つて、南滿洲及び東部內蒙古に關する日支協約により、租借期限を九十九年に延長することとなつてゐたものであるが、昭和七年三月新たに滿洲國獨立し、同國はすべての日支條約を繼承することになつたので、當然、關東州は滿洲國から、我が國が租借せることになつたのである。

尙ほ、關東州の北境以北、即ち四、蓋平の川口から、蓋平・岫巖の二市街を經て、東、大洋河の上流蔡家堡子に到る約一萬三千二百三十方粁の地域は中立地帶となつてゐる。

(2) **旅順附近の戰跡**　戰跡として名高いものは、日淸の役よりも日露役に多い。日露戰役中の最も激戰地としてしられてゐるのは乃木將軍の『爾靈山險峻難攀、男子功名期克難、鐵血灑山山形改、萬人齊仰爾靈山』と詠まれた、彼の爾靈山であるが、此の地に就いては既に插繪の解說にて記述したから再記の要はあるまい。

(3) **白玉山**　白玉山は旅順驛の前面に聳ゆる高さ百二十米位いの丘陵であるが、其山上に白玉神社があり、納骨堂を建てゝ戰死者二萬二千七百十九人の英靈を祀つてある。

尙ほまた其の南方には、是等戰死者の英靈を慰め、其遺烈を記念せんがために、東鄕・乃木兩將軍の發企で建てられた圓筒形鐵筋コンクリートの表忠塔が建てられてゐる。其の高さは六十六米、海面よりすれば百九十米である。明治四十年七月三日に起工して、同四十二年十一月二十八日に出來上つたもので、工費は約二十五萬圓を要した。

(4) **松樹山**　有名な露國の砲壘のあつた所で、我が軍は屢々決死の突擊を行つたが攻略することを得ず、或る時は總員三千人からなる白襷隊が暗夜に乘じて砲壘に突入した事もあつたが、其半ばを失ひたるのみにて、矢張目的を達する事が出來なかつたので、坑

道を開掘して、爆發によつて全砲臺を顚覆せしめ遂に之を占領するに至つた所である。

(5) **東鷄冠山**　有名な地中戰を行つた所で、敵味方約二米の間にあつて、旬日に亙つて土嚢戰を爲したと言ふのは、此の砲臺のことである。

(6) **水師營**　旅順港の陷落して後、乃木將軍と、ステッセル將軍との會見した所であることは、餘りにもよく人に知られ過ぎてゐる事柄である。旅順の北方、戸數三百餘の一部落である。

(7) **南山**　南山は、金州の南西約一粁の所にある小山で、旅順とは可なり隔つてはゐるが、日露戰役に於ける激戰地として知られてゐる所である。卽ち此の地は、夫れでなくとも狹少なる遼東半島の先端部にあるのに、更に東方に大連灣が深く灣入して居り、又西方には、金州灣が灣入してゐるので半島中最も狹少なる地域を占め、露軍にとつては、北方より陸路旅順に迫る我が軍に對して、防戰するには、最好適地であるため、彼は此の地勢を利用して頑強に抵抗したが、遂に我が軍は、明治三十七年五月二十六日に此の地を占領したのである。此の地の戰に、我が軍の死傷者は約四千と云はれてゐるが、今も尙ほ敵軍の築造せる塹壕の跡が殘つてゐる。乃木將軍の『征馬不前人不語、金州城外立斜陽』と詠吟されたのは、此の時の戰の事である。

# 第六　我が南洋委任統治地

## 一　區域　二　地勢

### 指導の主眼

委任統治の意義を明かにし、我が南洋委任統治地の性質とその境域を闡明して、此の地域が我が國の委任統治地たるに至つた理由を知解せしめなければならぬ。然る後、現在我が政府が如何なる政治組織によつて、是等の諸島を統治しつゝあるか、その大要を知らしめ、本地域の我が國勢伸展上に及ぼす價値の如何を感得せしめることが、本課指導の主眼である。

### 環境の整理

世界地圖—南洋地圖—太平洋主要航路圖—主要島嶼の擴大圖—南洋土人の風俗・アンガウル燐礦採取場・コヽ椰子・パンの木等の林の實況及びサイパン・トラック島の景觀を示す繪畫・寫眞の類—コヽ椰子・パンの木・コプラ・椰子油・高瀨貝等の實物並に標本類。

### 指導事項の吟味

一　區域

1　委任統治の意義と南洋委任統治の性質
2　我が南洋委任統治地は、赤道以北の舊ドイツ領
3　我が國統治の由來
4　島數……六百二十三―小礁を加へると一千以上
5　面積……二千百五十平方粁―略々沖繩縣に等しい
6　人口……約七萬六千（昭和七年四月一日現在）……內地人凡そ二萬六千（同上）
7　南洋廳……コロール島

二　産業

1　氣候……四季の別なく、氣溫は年中高い
2　產業は不振……その理由
3　さとうきびの栽培
　製糖業―本島第一の產業
　其の他……コプラと燐礦
4　內地との定期航路

## 教材の敷衍

### 一　委任統治の意義

委任統治と云ふのは、通常一國が、他の國、或は土地の管理權を有する同盟等の委任に基いて、其の國に代つて、其の國の領土の一部に統治權を行使することであつて、我が國の南洋に於ける委任統治地とは、歐洲大戰の結果、國際聯盟規約なるものが結ばれ、其の第二十二條によつて、元獨逸領ミクロネシヤで、マリヤナ・カロリン・マーシャルの三群島に就いて、聯盟に代つて我が統治權を行使することになつたものを言ふのである。

### 二　委任の性質

委任の性質は、人民發達の程度、領土の地理的地位、經濟狀態、其の他類似の事情によつて差異があり、我が南洋諸島は、

「受任國領土の構成分子として、其の國法の下に施政を行ふを以て最善とす」

と定めてある所の、即ち第三種に屬するものである。されば我が國は、我が國の領土の一部分として、我が國の國法の下に、適當なる施政を行ふことを得るのであるが、然し又同時に、我が國は、此の委任地域に關しては、詳細なる事情を記した年報を、國際聯盟の理事會に提出して、其の審査を經なければならぬ事になつてゐるものである。

【備考】彼の滿洲事變が發端となり、延いて夫れが國際聯盟上の問題となつて、遂ひに我が國は、多年理事國の一として、その發展のために盡力して來た聯盟から、脫退するに到つた。是に於て、第一に問題視されたのは、我が國が國際聯盟を脫退せる以上、當然南洋の委任統治地は、聯盟に返還す可きものであると言ふ點であつた。

此の問題は、今日尙ほ全く解消したと言ふわけではないが、滿洲が、北部大陸に對する生命線であれば、又此の南洋諸島は、南太平洋方面に於ける、我が國の生命線であると言ふので、我が國は、實力を以てしても、その返還には應じないと言ふ、强固な決意を示してをり、又條文の解釋に於ても、當然此の主張は、容れられなければならぬものである。

我が國が、實力に訴へてもと言ふのは、徒らに檜車を押すのではなく、若し他國が多勢の力を賴んで、强壓的に我に臨んだ場合に於て、我が正論を貫くための、決意を示したものに過ぎない。事實委任團體たる聯盟を脫退したるが故に、委任國たることも辭さなければならぬ理由は一も存しない。現に聯盟に加入してゐない國が、同樣の委任統治を行つてゐる事實もあり、殊に我が南洋委任統治地は、歐洲大戰に際して、我が海軍の奮鬪により、一時占領せる所なるに於て何更である。

故に我が國は、今後も、從來通り、每年その統治狀況を記せる年報を、聯盟理事會に提出しながら、何時までも我が國の領土の構成分子として、我が國の國法の下に、施政を行つてゆき得るのである。

## 三　區域

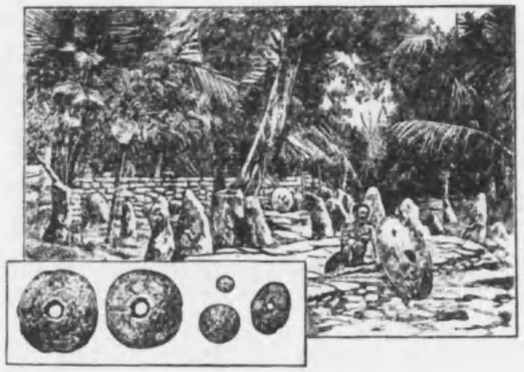
我が國の委任統治地たる南洋諸島は、小笠原諸島の南方に位し、赤道以北、即ち東徑百三十度五十分から、同百七十二度十分、北緯二度五十五分から、同二十度三十分に至る間の、所謂熱帶圈内の大洋中に散布してゐる約六百二十三（小礁を加へると一千有餘）の小島から成立つてゐる。是等の小島は、之を其の分布の上から大別して、マリヤナ・カロリン・マーシャルの三群島に分ち、且つ之を總稱してミクロネシヤと呼んでゐるが、マーシャル群島に屬するナウル島は、赤道以南にあるので、我が國の統治地域外となつて、英國の統治する所となり。又マリヤナ群島中のグアム島（米國領）は之を除外し、斯くて赤道以北の舊ドイツ領の全部、即ちカロリン諸島・マーシャル諸島の全部と、マリヤナ諸島の大部分が、我が國の統治する處となつたのである。

而して是等の諸島は、何れも大正三年八月に、日獨國交が破れて以來、我が海軍の活動によつて占領したものであつて、ついで千九百十九年（大正八年）に至つて、國際聯盟から委任せられて我が國が統治するに至つたものである。島嶼の數は頗る多いけれども、何れも微細なる小島からなつてゐるので、面積は頗る狹く、其の總面積は僅かに約二千百五十平方粁に過ぎず、略々我が内地の沖繩縣に等しく、人口は昭和七年四月一日現在で、其の總數七萬五千九百九人、其の中、日本人は二萬五千七百六十六人である。

## 四　政治

南洋諸島は、大正三年我が海軍の占領後、一時トラック島に南洋防備隊司令部を置いて、軍政を兼ねて民政事務を掌理せしめてゐたのであつたが、大正十一年に官制が改正されて、純然たる民政が布かれるに至り、パラオ諸島中の一島コロールに南洋廳を置いて、南洋廳長官をして諸般の政務を統理せしめることになつた。而して此の南洋廳下には、サイパン・パラオ・ヤップ・トラック・ポナペ・ヤルートに六支廳をおき、各支廳管内には、病院・郵便局・學校等があり、又パラオ・サイパン及びポナペの三島には、地方法院が設けてある。

◎挿繪の解說



土人と石貨

**土人と石貨**　圖はヤップ島に居住する土人と、彼等の使用する石貨とを示したのである。ヤップ島に居る土人の多くは馬來族で、其の他に若干のメラネシヤ族がゐる。性質は至つて溫和で、正直であるが、保守的傾向が多く、且つ怠惰である。男子は褌・女子は腰簑を着けるのみで、別に衣服を用ひない。石貨はパラオ諸島から搬來される結晶質の石灰岩で、添圖に見る如く、其の大いさは一定してゐない。大きいものは直徑八、九十糎から、一米乃至二米に及ぶものがあり、又小さいものでは八、九粍から、八糎乃至九糎位のものもある。中央に孔を穿つてあるのは、運搬の便宜を計るためである。尙ほ本島では、石貨の外に貝貨も用ひられてゐる。

## 五　氣候

本群島は、全部熱帶圈内にあるので、四季の別なく、一年中を通じて溫帶の夏季の氣候で、所謂「常夏の國」である。併しながら、其のすべてが、太平洋中に散在する狹小なる孤島であるが故に、海洋の影響を受けて凉風の絶えないのと、毎日の如く驟雨があるために、氣候が調節されるから、人の想像する樣な焦熱の氣候ではなく、一日中の最高氣溫で、九十度に昇ることは殆んど稀で、大抵七十四五度から、八十四五度を上下してゐる位であるから、内地の盛夏の候よりも却つて凉しい。殊に熱帶地特有の風土病・マラリヤ等の惡疫も無く、又毒蛇・猛獸の棲息する等の事もないから、生活は極めて安易である。

尙ほ本群島は内地及び臺灣を襲ふ颱風の發生地であるが、管内に於ては暴風にまで達する事は極めて稀れである。勿論廣い範圍に亘る群島の事であるから、時には暴風の被害を蒙ることもあるが、さうした場合は、海洋中の一孤島であるため、内地の同程度の暴風による被害よりも一層甚だしき慘害を蒙ることもある。土人が風神を最も恐れてゐるのも、時々さうした慘害を蒙るがためであらう。雨量は一般に東部に多く、西部に少い。昭和六年中の平均氣溫及び雨量は左の通りである。

| 地名 | 氣溫 平均 | 氣溫 高極 | 氣溫 低極 | 雨量 |
|---|---|---|---|---|
| パラオ | 二六・九 | 三一・八 | 二〇・八 | 三、四九七・九 |
| サイパン | 二五・六 | 三一・四 | 二〇・八 | 一、七〇五・四 |
| ポナペ | 二六・五 | 三二・〇 | 二〇・四 | 三、五二三・六 |

## 六　産業

第六　我が南洋委任統治地

南洋諸島は何れも土地が狹く、平地が尠いから、産業は餘り發達しないが、熱帶圈内にあつて、氣溫が年中高く、降雨量が多いので、植物の生育に適し、到る所に椰子樹・檳榔樹・バナヽ・鳳梨・パンの木等の熱帶植物が繁茂してゐて、土人に主要な食料を供給してゐる。

農業は土地が狹いのと、多く火山岩又は珊瑚礁から成つてゐるのとで、耕地が至つて尠く、爲めに未だ發達してゐないが、併し現在（昭和七年四月調）に於ては、約三萬五千六百人餘（中内地人七六〇人）は農業に從事してゐるので、次第に農産品の産出高を增加しつゝある。就中マリヤナ諸島中のサイパンでは、近年甘蔗の栽培が盛に行はれて、其の結果、製糖業が著しく發達して來た。製糖業は、本諸島中の第一の産業で、昭和六年總工産額、一千二十二萬九千九百七十六圓中、砂糖産額は九百六十三萬二千九百二圓に達してゐる。而して又椰子の實の胚乳を乾燥せしめて製するコプラの製造も盛で、カロリン諸島の西部にあるアンガウル島で採堀される燐礦（挿繪の解說「燐礦採掘場」を參照）と共に、砂糖に次ぐ主要なる産物として、多く内地に積出されてゐる。

次に畜産としては其の飼養管理が未だ幼稚で、殆ど見る可きものはないが、主なる家畜の飼養頭數を見ると次の如くである。（昭和六年末調査）

牛の頭數……四千三十九頭
山羊の頭數……二千八百七十五頭
豚の頭數……一萬一千六百三十六頭
鷄……七萬六千六百六十六羽
鷲……二千六百十八羽

次にまた水産物は、椰子・燐礦に次ぐ富源で、鰹・高瀨貝・海參を主とし、鮪・鮫・鱶等を産するも、島民は自家用の魚介類を採るに過ぎず、主なる輸出水産物漁業は、占領前より邦人の經營する所で、海鼠は、海參として、支那に輸出されてゐる。

燐礦採掘場

◎挿繪の解說

**燐礦採掘場**　圖はパラオ諸島中のアンガウル島に於ける燐礦採掘場の光景を示したものである。同島の燐礦は群島隨一の財源で、目下南洋廳の官營に屬してゐる。パラオ島は高さ三十米乃至四十米の隆起珊瑚礁で、廣さは約七・七平方粁に過ぎない小島であるが、燐酸に富める海鳥糞は、石灰岩に作用して、地表一面に厚さ一、二米の燐礦を形成してゐる。礦質には灰白色粘土狀のものと、褐色粒狀のものとの二種があつて、前者は、石灰岩に作用して生じたもので、後者は、前者が雨水に流されて、地下の空隙に沈積したものである。採掘の方法は先づ地面の密林・雜草を除いて匙鍬又は鶴嘴等を以て、手掘するので一日の採掘量は平均二噸半か三噸位のものである。

## 七　交通

本群島の交通は、專ら船で、陸上では南洋興發株式會社（サイパン島にある唯一の製糖會社）の事業鐵路が、サイパン島で開放されてゐるに過ぎない。

尙ほ南洋諸島の主要なる島々と、內地との間には、日本郵船會社の汽船が定期に往來してゐるが、その外、群島內を運行して、所謂交通線の支線をなすものに、南洋貿易株式會社の離島航路（命令航路）もある。現在群島に於ける開港地はサイパン・バラオ・アンガウル・トラック・ヤルートの諸港であつて、是等の港から積出す主なる輸移出品はコプラ・燐礦石・砂糖等を主とし、海參・高瀨貝等が其の次位にある。而してまた輸移入品の主なるものは、米・罐詰類・酒・煙草・織物・石油・金屬器具・建築材料並に雜貨等の如きものである。

## 指導の過程

◎配當時間—一時間

1　先づ南洋諸島に就て、兒童の既に知つてゐる事項に就き、發表せしめ、適切な發表をした兒童があれば、夫れ等の事柄から授業を展開させるがよいが、若しさうでなければ、第一に委任統治の意義に就て簡單に說話し、更に南洋の我が委任統治の性質を明かにする。

2　然る後、本諸島の地理的價値に就て說明するのであるが、その場合是等諸島の價値を、單に此の地方の物產、例へば製糖業とか、燐礦或は熱帶物產とか言つた樣な、所謂生產物のみによつて決定してはならぬ。それよりも寧ろ、南太平洋に於ける我が國發展の策源地、並に航路發展上の要地としての價値を知らしめ、又國防上の重要地域としてのそれを、明かにすることが大切である。卽ち何等生產價値なき洋上の一孤島でも、國防的見地から、蔑視す可からざるものゝあることを知解せしむ可きである。

3　ドイツが敷設したヤップ島から上海に至る海底電線は、現在我が國の所有に歸してゐるから、此の點も、適當の機會に知解さしておきたい。

4　尙ほ本敎材の取扱に於ては、尋常小學國語讀本卷九に出てゐる「第二トラック島便り」を參照するがよい。

## 參考附說

(1)　**パンの木**　パンの木は桑科に屬する熱帶喬木で、南洋諸島の原產であるが、之に就いて、故山崎博士は、其の著「我が南洋」中に次の如く記されてゐる。「……殊に著しく感じたのはパンの木である。堂々たる大木をしてをるものが少くない。各島殆ど之を見ないことはないが、殊にカロリン諸島に多く、トラック・ポナペなど、その美林を以て藏はれてゐる。そして之に頭大の大きな實を結ぶ。之を蒸燒にし、又は搗いて餅にして、土人の最も大切なる食料とする。甘藷に似た淡白な風味になか〳〵捨てがたい所がある。その幹はタマナの木と相並んでカノー（舟）を造るに屈竟の材を供給してゐる。これらの老木には種々の寄生植物、殊に蘭科などの珍しいものが宿つてゐるのも、大いに人の目をひくことである。」云々。

(2)　**椰子の利用**　同じく「我が南洋」中に、椰子の利用について次の如く述べてある。

「そも〳〵椰子は南洋土人の生命であると同時に、又今日の文明工業界に缺くべからざるものとなつてをる。その利用の途の廣いことに於て何物にも比類がない。その實は年中治と間斷なく結ばれてをり、次に極めて堅い内果皮があつて、その中に仁（胚乳）のやうな白い色をした胚乳がある。又果實のまだ全く熟してゐないものは、その中に甘美な多量の漿液を貯へてゐて、この地方に於ける絶好の飲料となつてをる。その胚乳は脂肪に富み、土人は之を細かくかきて日常の食料に供し、その油を取つて調理に用ひ、又皮膚に塗つてをるものもある。トラック島の土人の如きは殊にその著しいもので、彼等はこの油にアフアンといふ生姜の類の植物から搾りとつたテークといふ赤黄色の粉末狀の塗料を交ぜて顔面に塗り、又全身に塗る。それ故彼等の皮膚はてら〳〵一面に光つてゐる。彼等はそれで蚊や蠅などの昆蟲のたかるのを防ぎ、又驟雨に逢つても水をはじいて風を引かぬと言つてゐる。又此の胚乳は、之を取出して乾燥したものが有名なコプラ（椰子の乾核）で、輸出品として最も重要な位置を占めてゐる。コプラの海外に送られ加工して得られた椰子油は、化學工業界の需要が甚だ大きいのである。即ち石鹸・人造バタ・化粧品などの原料として甚だ大切なものになつてゐる。

椰子の實の堅い果皮は土人の爲には椀となり食匙となり、水壺・香匣・藥味入・煙草入となり、又トラック土人の耳朶に房々として垂れる耳環の材料ともなり、或は腕環・頸飾として用ひられ、その他種々の什器に作られて用途が甚だ廣い。ヤルート島などでは之から木炭を作つて洗濯物の火熨斗に用ひてゐるものすらある。纖維質の中果皮は長く水に浸して置くと、よくほとびて細い強靱な纖維を得ることができる。そして之から絲・繩・蓆など種々のものが作られる。土人の家屋に釘を用ひる事が少ない代り、多くは此の椰子繩で結んである。それが又誠に美しい幾何學的の意匠を造くした模樣に結ばれてある。

まだ果實にならぬ前に、花梗を切斷して其の切口に容器を挾んで置くと、朝から夕までに八合乃至一升の液が集る。之を四時間も放置するときはその液が醗酵してアルコールが出來てくる。之を蒸餾すると、一種の酒が出來る。更に之を煮詰めるときは糖蜜が得られる。ドイツ領時代には一には飲酒の弊を矯め、又一には果實の減損を防ぐ爲に此の酒を作ることを禁じてゐたさうであるが、予はヤルート島で、現に樹頭に壜のかかつてゐるものを見、又その酒と蜜とを味つて見た。

猶此の外に椰子の幹は建築材として用ひられ、その葉は屋根をふくに利用せられる。殊にその葉は甚だ強靱であるので、籠など

を造るのに適する。深林の中で果實を集めた場合とか、その他何かに開いた複葉を巧みに編んで瞬く間に小綺麗な籠を造りあげる。予は造つた手提籠を携へ、手廻りの小道具一切を入れてゐる。實に椰子には生命と呼ばれてをるのである。」

(ロ) **南洋土人の生活**　南洋土人の生活に就ては、前に挿繪の解説（土人と石貨）の所でも簡單に觸れてあるが、尙ほ左に、栗原寅次郎氏の「改造世界地理精説」中に記載されてゐる一文を借記して、參考に供しよう。

一本諸島の氣候は海風の關係上緯度に比較して頗る温和なるが上、食料亦豐富なるを以て、住民は一般に懶惰柔弱なり。加ふるに今日迄其の主權を握りたる白人が、常に宗教の力を以て彼等を去勢すると同時に、武器を悉く沒收して、只管威服に力めたるを以て、彼等は今日何等の野心も赤希望もなく、獨特の樂器を奏して歌舞飲酒の淫樂中に太平の日を過しつゝあるなり。

其衣食住の方面を見るも、服裝は多年隣來人の感化を受けたれば南洋土人に似合はず整ひ居り、中には洋裝擬ひの風をなすものあるも、尙トラック島の如きには、風呂敷様のものゝ中央に穴を穿ち頭を通して被り、椰子の油を全身に塗れるものあり。住居は地上に椰子の葉を敷きて床となし、屋根は地上より僅かに一米内外の高さに植物の葉を以て葺き、壁も同様木の葉を以て圍ひ、六十種四方位の入口を開きて伽藍して出入し、家中には一家雜然と生活せり。

又食物は各洲到る處椰子實・バナナ・芋類等生育するを以て、之を採りて多く生食し又時には火に焙りて食ふ。一般に淫風盛んにして、一夫多妻乃至一妻多夫の風を存し、殆ど結婚の形式さへも認められず、稍西洋化したるもの〻中にては一夫一婦の制を行ひ居れりと云ふ。要するに彼等は一般に開化の程度低く、慾望は凡て物質的肉的のもののみにして、治者の何人たるかに關せず、只安逸に其日を送れば足れりとせるなり。

# 第七　日本の總說

## 指導の主眼

本課に於ては、從來取扱つて來た、日本各地方の地理的諸現象を、此處に一括して、綜合的・系統的に眺め、夫れによつて、我が國の國勢、並に世界的地位を明かにし、延いて國民的自覺を、喚起せしめる事が、指導の主眼でなければならぬ。

現行の地理教科書は、人爲的の、詰り地方的單元を用ひて記してある關係上、稍々もすると、教授そのものも、個々の事實に就いて斷片的に指導されることが多く、全體として纏つた、卽ち大局的見地からの指導に於て、缺けると言つた樣な弊を伴ひやすいのであるが、尠くとも斯うした弊は、本課の取扱ひに於て、充分に補ひ得るやうにしたいものである。吳々も、本課を、單に從來取扱つて來た事の總復習と言つた樣な、輕い意味に於て取扱つてはならぬ。

## 環境の整理

世界及び日本の交通圖―日本地圖―日本山系圖―同水系圖―等溫線分布圖―海流圖―雨量圖―地方別耕地比較圖―日本産業分布圖―同統計圖―同重要物産のドットマップ―人口分布圖―主要貿易品の貿易額の比較圖―主な貿易取引先の貿易額の比較圖―主な開港場の貿易額及び輸出入額の比較圖―教科書挿繪の擴大圖―其の他主な教材の繪畫・寫眞・實物・標本等。

## 指導事項の吟味

### 一　山

1　日本列島の山の大要

2　山系（南西に向ふ主な山脈の形成する山系／北東に向ふ主な山脈の形成する山系）

3　山系の形成する三つの大弓形

4　三弓形と樺太・朝鮮半島とによつて、日本海・オホーツク海・東支那海が區別される

5　山系に沿うて列島を縱走する火山脈

6　火山脈と著名火山―形勝地―溫泉

7　日本列島は、世界の主な火山及び地震地帶

### 二　川・平野

1　日本列島の大分水嶺と川の流向

2　川の性質と、人生との關係

3　川の沿岸平地と人生との關係

### 三　農業

1　耕地の面積……總面積の約六分の一

2　主な農産物……米・麥・豆・さつまいも・さとうきび・茶・煙草・蔬菜・果物等
(イ)　用途……大部分は食用、一部分は工業品原料
(ロ)　輸出品……茶・薄荷等が多少、他は大抵輸入
(ハ)　輸入品……米も輸入される、綿（工業原料）は全部外國（主に米國・印度）から輸入―額は輸入品中第一位
3　我が國の將來と農産物
4　肥料　人造肥料……獨逸・英國からも輸入する
　　豆粕……滿洲から輸入する
　　魚肥・油粕

**四　養蠶業**

1　世界第一の養蠶國
2　主な養蠶業地……長野・群馬・愛知・埼玉の諸縣
3　生絲……第一の輸出品―主として横濱・神戸から、米國へ送られる
4　主な絹織物業地……京都・福井・群馬・石川の諸府縣
5　主な輸出品……富士絹・縮緬・羽二重等

**五　牧畜**

1　氣候・地味・地勢の關係で振はない
2　羊毛（全部輸入）―毛織物（一部輸入）
3　牛・馬……大體需要を滿してゐる
4　牛皮・牛肉……輸入が尠くない

**六　林業**

1　森林面積……本邦總面積の約二分の一
2　主な木材　ひのき……木曾谷・阿里山
　　杉……米代川・吉野川各流域
　　朝鮮松・から松・もみ……鴨綠江流域
　　とど松・えぞ松……北海道本島・樺太
3　大製材所……熊代港・嘉義・新義州
4　木材の輸入先……米國・シベリヤ・カナダ
5　パルプ製造及び製紙業地……北海道・樺太等の生産高增加

**七　水産業**

1　世界第一の水産國……其の理由
2　主な漁獲物
(イ)　いはし……全國各地の近海
(ロ)　かつを・まぐろ・鯛……暖流の流れる太平洋近海及び東支那海
(ハ)　にしん・かに……寒流の流れる北海道・樺太の近海
3　主な集散地……下關と函館
4　主な水産製造物……かつをぶし・しめ粕・乾物・鹽漬・罐詰等
5　重要輸出品……かにの罐詰・するめ・昆布等
6　製鹽業……瀨戸内海・朝鮮・臺灣―不足分は關東州や支那から輸入

**八　鑛業**

第七　日本の總說

1 石炭 ｛主な採掘地……筑豐・三池・石狩・常磐の諸炭田
　　｛積出港……若松・三池・室蘭の諸港
2 鐵 ｛鐵鑛……支那・マレー半島から輸入する
　　｛鐵・鐵材……米・獨・英・印度から輸入する
3 銅……主に別子・足尾・小坂・佐賀關・日立の諸鑛山で採掘・製錬される
4 金鑛 ｛産地……大分・鹿兒島・靜岡の諸縣及び北海道本島の北東部・朝鮮の北西部
　　｛製錬高の多い處……佐賀關・日立・鯛生・朝鮮の雲山・昌城等
5 石油 ｛産地……主に新潟・秋田の二縣
　　｛輸入先……米國・マレー半島

## 九　工業

1 工業の發達した主なる理由
2 主な工業地區……阪神・京濱・北九州・名古屋附近
3 主な工業品……生絲・絹織物・綿織物・綿絲・綿織物・酒・煙草・毛織物・人造肥料・砂糖・洋紙・麥粉・アルコール・ビール・工業藥品・醬油・陶器・メリヤス等

## 一〇　貿易

1 年貿易額……四十四億圓を超える
2 主な輸出品……生絲・絹織物・綿織物・綿絲・陶器
3 主な輸入品……綿・鐵・鐵材・木材・羊毛・機械類・豆粕等
4 主な貿易港……神戸・横濱・大阪・名古屋・門司
5 主な取引先……米國・支那・印度・英國・マレー諸島・獨逸・オーストラリヤ等

## 一一　交通

1 產業の進歩と陸海交通の發達
2 航空路の現況
3 鐵道の延長……約二萬七千キロメートル
4 東京を中心とする鐵道幹線
5 幹線を連絡する鐵道連絡船
6 鐵道の最發達地……關東・濃尾の平野・近畿地方の諸平野・北九州の諸平野
7 軌路の主な起點……横濱・神戸・大阪
8 世界有數の海運業國
9 汽船の總噸數……約四百萬噸
10 港の設備と燈臺
11 國内通信……郵便・電信・電話殆ど完備
12 諸外國との通信……海底電線・無線電信・ラヂオ等で世界各地と連絡

# 教材の敷衍

## 【地　勢】

### 一　山

**山岳**　日本列島中には山岳・丘陵が到る處に起伏し、殊に本州の中央部並に臺灣島の中部は、地勢極めて嶮峻で、三千米以上の高山が少くない。

**◇本邦に於ける三千米以上の高山**（＊印は火山）

| | | |
|---|---|---|
| 新高山 | （臺灣） | 三九五〇米 |
| 秀姑巒山 | （臺灣） | 三八三三米 |
| 南湖大山 | （臺灣） | 三七九七米 |
| 白根山 | （山梨） | 三一九二米 |
| 劍ヶ嶽 | （長野） | 三一八〇米 |
| 赤石嶽 | （長野・靜岡） | 三一二〇米 |
| 前穗高嶽 | （長野） | 三〇九〇米 |
| 鹽見嶽 | （長野・靜岡） | 三〇四七米 |
| ＊乘鞍嶽 | （長野・岐阜） | 三〇二六米 |
| 聖嶽 | （長野・靜岡） | 三〇一一米 |

【備考】尙ほ臺灣島には多數あるが、玆には富士山より高いもののみ記せり

| | | |
|---|---|---|
| 次高山 | （臺灣） | 三九三一米 |
| マボラス山 | （同上） | 三八〇六米 |
| ＊富士山 | （靜岡・山梨） | 三七七六米 |
| 奥穗高嶽 | （長野・岐阜） | 三一九〇米 |
| 荒川嶽 | （靜岡） | 三一四六米 |
| 唐澤嶽 | （長野・岐阜） | 三一〇三米 |
| ＊御嶽 | （長野・岐阜） | 三〇六三米 |
| 仙丈ヶ嶽 | （長野・山梨） | 三〇三三米 |
| ＊立山 | （富山） | 三〇一五米 |

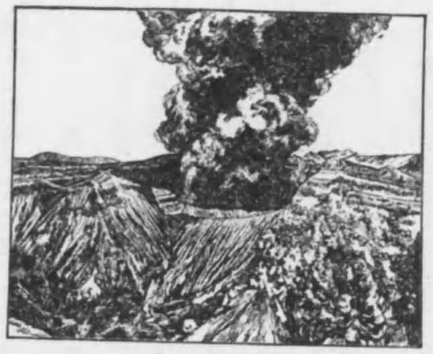
**山系**　山脈は、中央部から南西又は北東に向つて列島を縱走し、相連なつて、數箇の山系をなし、其の中主なるものが列島の分水嶺となつてゐる。南西に走る山系を總稱して南彎山系と云ひ、北東の夫れを北彎山系と言つてゐるが、今此の南北兩山系の主要山脈を表解式に示せば次の如くである。

- 北彎山系
  - 東—阿武隈山脈・北上山脈・千島列島の山脈
  - 中—關東山脈・三國山脈・奥羽山脈・蝦夷山脈（北見・日高）・樺太山脈
  - 西—越後山脈—出羽丘陵
- 南彎山系
  - 南—赤石山脈・紀伊山脈・四國山脈・九州山脈・琉球列島の山脈・臺灣山脈
  - 北—飛驒山脈・中國山脈・筑紫山脈

而して北彎山系に於て最も主要なる山脈、卽ち大分水山脈は（中）に記せる諸山脈である。尙ほ朝鮮半島中の主要なる分水山脈は、南部では大白山脈と小白山脈、北部では大白山脈と同方向を取つて蓋馬高臺を通過する狼林山脈並に北境を限る長白山脈である。

**地形**　日本列島を走る前記の諸山系は、相連つて三つの弓形を造つてゐるので、隨つて是等の山系を根幹として出來てゐる列島の形狀も、亦自ら三つの弓形をなしてゐる。卽ち中央部の弓形には、北海道本島・本州・四國・九州等があり、北東部の弓形には千島列島、南西部の弓形には薩南諸島・琉球列島・臺灣等がある。而して是等の三つの弓形と、樺太・朝鮮半島とによつて、太平洋と、アジヤ大陸との間に、日本海・オホーツク海・東支那海が區劃されてゐる。

**火山脈**　火山脈は、大抵上記の諸山系に沿ふて列島を縱走してゐるが、唯一つ富士火山脈のみは、二大山系の接合地帶を南北に走つて、本邦を二分し、太平洋中で、伊豆諸島・小笠原諸島となつてゐる。縱走してゐるものには、北東部に那須火山脈・千島火山脈があり、南西部には、白山火山脈・阿蘇火山脈・霧島火山脈等がある。而して是等の諸火山脈中には、富士山を始め、開聞岳（薩摩富士）大山



阿蘇山の噴火口

（出雲富士）鳥海山、（出羽富士）羊蹄山、（蝦夷富士）等の如く、圓錐形の火山が多く、阿蘇山・霧島山・箱根山・淺間山・三原山等の如く、絕えず煙を噴いてゐるものも尠くない。

◎挿繪の解說

**阿蘇山の噴火口**　阿蘇山は二重式活火山にして、其の舊火口の廣袤は實に世界第一であると言はれてゐる。卽ち其の大いさは、東西約十六粁、南北約二十八粁、其の中の平地には三町十一ヶ村、數萬の人口があつて、各種の產業が發達してゐる。現在活動しつゝある噴火口から盛に噴煙してゐる光景を示したものである。

◇主要火山の噴火回數

| | | （慶應以前噴火） | （明治以後噴火） | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 淺間山 | （上野信濃） | 五三 | 二〇六 | 二五九 |
| 阿蘇山 | （肥後） | 八一 | 一八 | 九九 |
| 燒岳 | （信濃飛彈） | 一 | 六八 | 六八 |
| 霧島山 | （日向大隅） | 二八 | 三〇 | 五八 |
| 樽前山 | （膽振） | 二 | 二四 | 二六 |
| 三原山 | （伊豆） | 一三 | 一三 | 二六 |
| 櫻島 | （薩摩） | 二五 | 一 | 二六 |
| 岩木山 | （陸奥） | 一七 | 〇 | 一七 |
| 富士山 | （駿河甲斐） | 一五 | 〇 | 一五 |
| 白山 | （加賀飛彈） | 六 | 〇 | 六 |

**景勝**　斯くの如く我が國は火山が多く、世界でも主な火山地帶として知られてゐる程であるから、火山の附隨物たる溫泉が各所に湧出し、又其の附近一帶は景勝に富んでゐるから、保養・遊覽に適する所が尠くない。

◇著名な溫泉

| | | | |
|---|---|---|---|
| 熱海 | （靜岡縣） | 修善寺 | （靜岡縣） |
| 鹽原 | （栃木縣） | 道後 | （愛媛縣） |
| 有馬 | （兵庫縣） | 北投 | （臺灣） |
| 登別 | （北海道） | 鬼首 | （宮城縣） |
| 和倉 | （石川縣） | 山中山代 | （石川縣） |
| 伊香保 | （群馬縣） | 草津 | （群馬縣） |
| 別府 | （大分縣） | 雲仙 | （長崎縣） |
| 東萊 | （朝鮮） | 箱根 | （神奈川縣） |
| 武雄 | （佐賀縣） | 城崎 | （兵庫縣） |
| 永乙 | （朝鮮） | 三朝 | （鳥取縣） |

◎挿繪の解說

**雲仙岳**　雲仙岳は長崎縣島原半島の中央部にあつて、海拔千三百六十米を算し、其の中腹には硫黃

泉が物凄いまでに沸出してゐる。殊に其の周圍には數多の群峯が起伏し、諸所に諏訪池、其他の小池が散點して、實に自然の一大公園をなしてゐるが、近年玆に、更に人工を加へて公園の設備を施したので、一層景勝の美を增すに至つた。圖は今其の附近の有樣を示したもので、正面に聳ゆるのが雲仙岳、近景は公園地である。圖中に見える建物は溫泉旅館並に別莊等であるが、此の地は多く英・米・佛・支等の外人の來遊する者が多いので、洋風の建物が多い。

**地震**　我が國は上記の如く、世界で主な火山地帶をなしてゐる上に、土地の成立が頗る複雜であるから、又世界で有名な地震地帶として知られてゐる。殊に大正十二年九月一日の關東大地震の如きは其の最も著しい例で、最近に於ける世界第一の大地震であると言はれ、災害の大なることも、全く他にその例を見ない程である。次に我が國の主なる地震帶をあげて見よう。

(1) 東京灣利根川地震帶
(2) 信濃川地震帶
(3) 富士火山地震帶
(4) 大和伊賀伊勢地震帶
(5) 淀川地震帶
(6) 阿蘇火山地震帶
(7) 霧島火山地震帶
(8) 外側地震帶（太平洋岸）
(9) 內側地震帶（日本海岸）

## 二　川

**流向**　日本列島の中央部から北では、前述の如く、列島を縱走してゐる山系が分水嶺となつてゐるので、川は利根川・北上川・阿武隈川・十勝川等の如く太平洋方面に注ぐものと、江ノ川の如く日本海に入るもの、或はまた筑後川の如く東支那海に注ぐもの、並に常呂川等の如くオホーツク海に注ぐものとがある。

次に中央部から南には、二條の主な山系が大分水嶺となつてゐるから、吉野川・木曾川・天龍川等の如く太平洋方面に注ぐものと、江ノ川の如く日本海に入るもの、或はまた旭川・太田川等の樣に瀨戶內海に注ぐもの等がある。尙ほ此の外、朝鮮半島に於ては、豆滿江（日本海）・洛東江（東支那海）・鴨綠江・大同江・漢江・錦江（以上黃海）等の如きがあり、臺灣にも東支那海に入る淡水河・濁水溪・下淡水溪等がある。

**河川と人生**　川は何れも大體に於て、水量が豐富であるが、併し狹少なる地域に、而も前記の如く、丘陵起伏する處多きため、大抵は流れが早く、其の流路も屈曲が多いから、水運の便少く、其の上大雨連日に及ぶと、忽ち河水氾濫することもある。洪水によつて受ける損害は、直接損害と、其の復舊工事に要する損害とで、內地だけでも毎年數千萬圓に上ると言はれてゐる。

併しながら、何と言つても、水量の豐富なることは、灌漑に便利であるから、農業の發達を助けること多く、特に米作の發達を促してゐる。又流域に山地多く、流れの早いことは、水量の豐富なると相俟つて、盛に發電に利用されてゐる。石炭・石油による動力には際限があるが、水力電氣による動力は無限であるから、河水を利用して水力電氣を起すことは、近時世界の趨勢となつてゐるので、此の點から言へば、我が國は甚だ惠まれてゐるわけである。されば近年我が國の水力電氣事業は、著しく發達し、水力電氣も七百萬馬力を起してゐる。而して是等の電氣は、電燈・電車の動力・工場の動力等に廣く利用されてゐる。

富士川

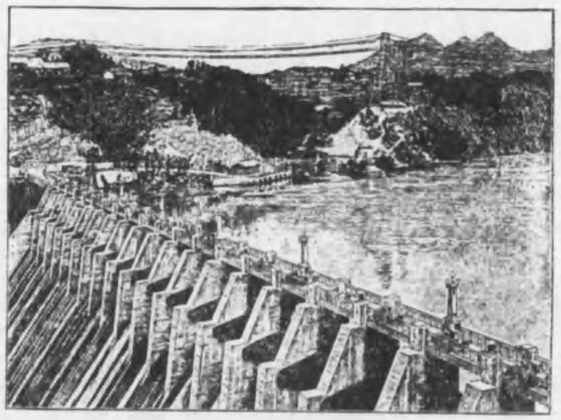
◎挿繪の解說

**富士川**　富士川は源を山梨縣（甲斐）に發し、赤石山脈・富士火山脈等の溪谷を南流して、太平洋に注ぐ我が國三大急流の一である。「今朝ちりし甲斐の落葉や田子の浦」と言ふ句によつても、いかに此の川の流が急であるかを知ることが出來る。殊に此の川の兩岸の岩石は見もので、わざ〳〵富士川下りと稱して此の川を船で下るものも尠くない。圖は卽ち其の川下りの一風景を示したもので、圖に見えてゐるのは、山梨縣南巨摩郡伊沼及び飯富村附近の光景である。川岸は石垣を以つて固め、又無數の蛇籠を置き、杭木を以つて嚴重に固定してあるが、之によつても如何に水勢の强いかを察することが出來る。川の對岸に見えるのは共和村である。

【備考】　此の川は慶長十二年、角倉了以が幕命によつて舟路を開いたが、同十九年に至つて再び舟路が塞がり爲めに再度幕府は了以に其の改修を命じた。併し當時了以は病中の故を以つて、其子與七（玄之）を遣して之を改修せしめて、遂に今日の如き水運の基礎を築いた。角倉了以は天文二十三年に生れ、慶長十九年七月十二日に、齡六十一歲で歿してゐる。

◎挿繪の解說

**木曾川にあるダム**　圖は岐阜縣惠那郡大井町から北西凡そ四粁の行程にある大同電力株式會社のダム（堰堤）の有樣を示したものである。同會社は、木曾川を利用して水力電氣を起すために、數箇所に、斯樣なダムを設けてゐるのであるが、其の中でもこゝにあるのが一等大規模で、木曾川を橫斷し、長さは凡そ二百八十米餘、高さは凡そ五十七米に及び、其の上部は圖に見る樣に、一般の橋上と同じで、自由に通行出來る樣になつてゐる。工事費は約五百萬圓を要したと言ふことであるが、斯の如く河水全部を堰止めて發



木曾川にあるダム

電設備をしたのは、我が國では此のダムが最初である。發電所はダムの下にあるが、其の取入口はダムの上流凡そ七十七米餘の右岸にある。

## 三　平野

**平地と人生**　平地は殆んど河川の沿岸に開けてゐて、何れも産業・交通に利用されてゐるが、就中大きな平野は、大きな河川の下流や、其の川口附近の海岸に面して發達してゐる。之は無論河川の流向が、自然の地形に左右されることにもよるのであるが、又一面河川が其の上流地域から盛に土砂を運搬し來り、中流以下に於て其の川幅が廣くなるに連れて、流勢が弱り、夫れ迄運び來つた土砂を多く流域に沈下せしめるので、是等の土砂の堆積から、肥沃な平野が形成されるとか、或は更に川口まで運搬し來つた土砂が、川口附近一帶の海岸に沈積し、次第に其の堆積物が海面を埋めて三角洲となり、更に永い歲月の間に、廣い平野を形成すると言ふことも考へ得られるのである。

兎に角、斯うした平野は、産業・交通に利用され、隨つて都邑も開け、あらゆる人文活動は、是等の平地を中心として營まれるのである。

**主な平野**　而して是等の平地の中、主なるものは次の通りである。

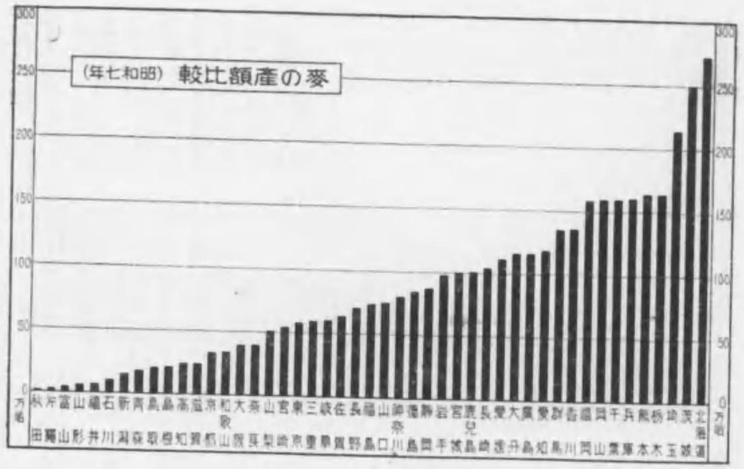
○關東平野……主に利根川の本流並に支流によつて灌漑される。
○越後平野……信濃・阿賀二川によつて主に灌漑される。
○濃尾平野……木曾川・長良川等によつて灌漑される。
○筑紫平野……主として筑後川によつて灌漑される。
○近畿の諸平野……淀川・櫛田川によつて主に灌漑される。
○石狩平野……主として石狩川によつて灌漑される。
○臺灣西部の平野……淡水河・濁水溪・下淡水溪等によつて灌漑される。
○朝鮮西部の諸平野……大同江・漢江・錦江等によつて灌漑される。

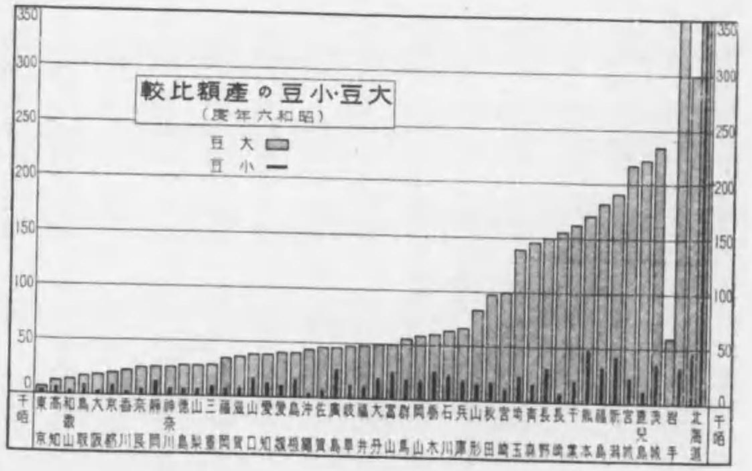
以上の中でも關東平野・濃尾平野・大阪平野・九州北部の諸平野は、商工業の發達が著しく、交通も亦頗る便利であるから、都邑も多く發達してゐる。東京を始め横濱・名古屋・京都・大阪・神戸・福岡等の大都會は、何れも皆此の平野にある。

## 【産　業】

### 一　農　業

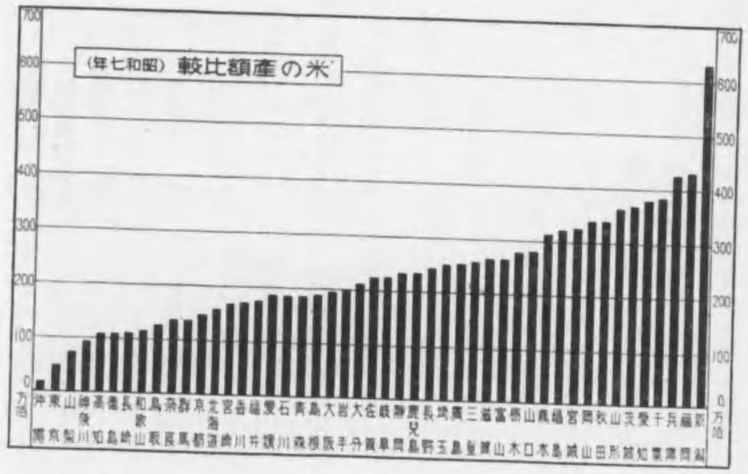
我が國は、古來瑞穗の國と稱されてゐる程で、氣候・地味共に農業に適して居り、國民の大部分は斯業に從事してゐるので、土地はよく利用されてゐる。併しながら、國土が島や半島から成り立つてゐるので、地域が狹少であつて、到る處、山地が多くて平地少く、農耕地の面積は、國土の總面積に比して約六分の一に過ぎない。而して是等の農産物は、米・麥・豆・さつまいも等で、此の外、甘蔗・茶・煙草・蔬菜・果物等の産額も尠くないが、人口稠密であるから、未だ全





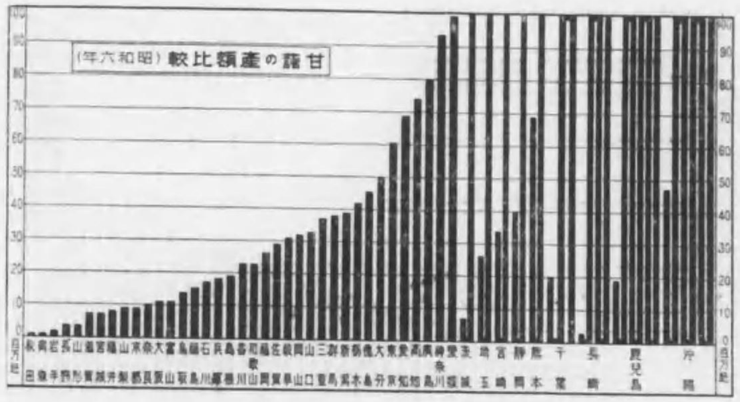



部の需要を充すことが出來ず、海外に向つて輸出するものとしては、僅かに茶・薄荷等が多少存するのみである。

**米**　米は元來南部アジヤの原産で、熱帶植物であるけれども、夏季高溫度を有する地域には成熟するので、我が國の産地は臺灣（年二回の收穫がある）から本州を經て北は北海道に及んでゐる。昭和七年度に於ける年收穫高は、內地の總額六千三十九萬石（一〇八・九三ヘクト立）を越え、朝鮮では約一千六百三十五萬石、臺灣に凡そ七百五十八萬石（昭和六年）の産があるが、それでも尙ほ內地の需要を滿すに足りず、佛領印度支那・暹羅・印度・米國等から年々輸入を仰いでゐる有樣である。

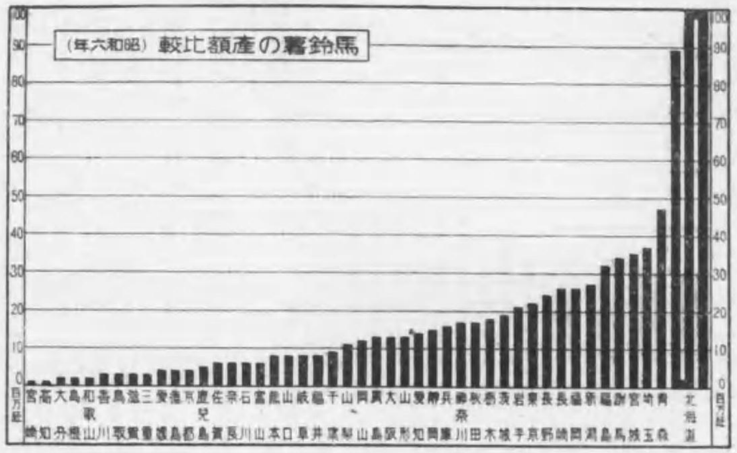
**麥**　麥類は氣候溫暖で、乾燥な土地に適するが、氣候に順應する性質を持つてゐるので、溫熱兩地にても適する以外に、比較的寒地にても栽培することが出來る。我が國では關東地方を主産地とし、本州の各地並びに九州・朝鮮等から之を産し、其の年産總額（昭和七年）は各種類を合して、內地約三千九百八十萬ヘクト立、朝鮮九百萬ヘクト立である。麥も米に次ぐ重要食料であつて、需要が多いから、其の供給力不足し、殊に小麥の如きは、加奈陀・米國・濠洲・支那




等の諸外國から輸入を仰いでゐる。

**大豆**　醬油・味噌・豆腐等を好む日本人にとつては、大豆はまた米・麥に次ぐ大切な食料品であるが、其の主産地は朝鮮で、昭和七年の産額は約七百四十五萬頓、內地からは約四百四十八萬頓を出してゐるが、單に食料としても不足する處に、更に近年工業の發達と共に豆粕・豆油等に製せられるに至つたので、一層其の需要增加し、支那・滿洲等から盛に輸入してゐる。

**甘藷と馬鈴薯**　甘藷は關東地方以西に多く産し、琉球・南九州・臺灣地方にも亦産する。昭和六年度に於ける內地一年間の産額高は、約三十三億八千二百萬斤で、就中沖繩縣・鹿兒島縣等では、何れも五億一千九百萬斤以上の産がある。次に馬鈴薯は、甘藷に反して、關東地方以北に多く産し、北海道地方、東北地方等を其の主産地としてゐる。敎科書には、馬鈴薯はあげてないが、南部に於ける甘藷に匹敵す可き作物なるが故に茲に擧げた次第である。是等は何れも主要なる食糧品たるのみならず、又澱粉製造の原料となり、或は釀造の原料として用ひられてゐる。





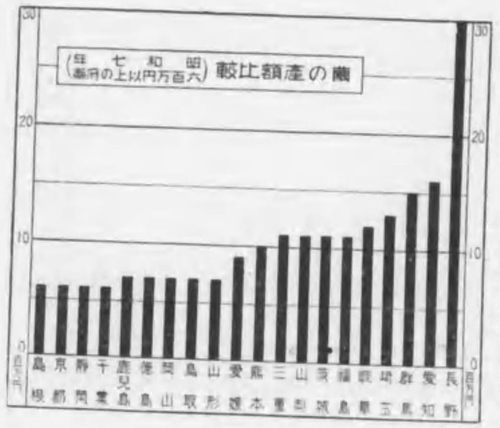

**◇本邦農業の趨勢**

上記の農產物は、本邦に於ける主要なる農業生產品であるが、併しながら、夫れ等は何れも我が國で消費され、否寧ろ其の消費にすら應ずることが出來ずして、多くは海外に供給を仰いでゐる現狀である。海外に向つて輸出されるものとしては、前記の如く、僅かに茶・薄荷等の如き類が多少あるのみであつて、國民の主要食糧品たる米でさへ、尙ほ海外に供給を仰がなければならない。殊に我が國の工業上最も必要なる綿は、近年朝鮮半島南部の黃海斜面で多少の栽培を見るの外は、殆ど之をアメリカ合衆國・印度・支那・埃及等から輸入してゐるのであつて、實に我が國輸入品中の第一位を占めてゐる。

然るに一方我が國に於ては、逐年人口の增加（一年平均七

○萬人以上の增加」をなし、益々食糧の需要は多くなるばかりであると共に、各種の工業が發達するに連れて、其の原料としての農產品も著しく需要を增加する。されど耕地の擴張、農業の發達は之に伴はない現狀に於ては、愈々益々、農產物の輸入を餘儀なくするに至るであらうことは、必然の理である。

斯樣に考へて來る時、農業は國民の食糧問題から見ても、相當之を保護し、發達せしむ可き事は勿論、更に其の上、農業の改善及び農村社會政策の改良、國內未開耕地の開拓、海外への移民發展等に着眼す可きである。




際しては、是等の點に就いてもよき理解を與へ、以て第二の國民たる兒童に、國民的自覺心を喚起せしめたい。

## 二　養蠶業

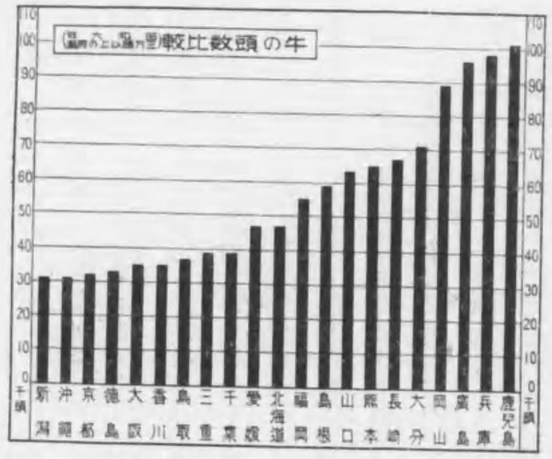
一口に養蠶業とは言つても、蠶の種類は一樣ではなく、家蠶・柞蠶・天蠶・（山蠶）等種々あるが、其中で主要なものは、支那・日本・西部アジヤ諸國・南部ヨーロッパ等に多く飼養されてゐる家蠶である。家蠶は南部アジヤの原產であつて、今尙ほヒマラヤの森林中には、野生のものが棲息してゐると言ふ。柞蠶は支那本部及び滿洲等に飼養され、天蠶は我が國の長野・廣島等に飼養されてゐるが、半野生のため室內に飼ふ事が出來ず、多くは樹上に放飼されてゐて、其の產額は至つて僅少である。隨つて我が國で養蠶業と言ふのは、普通家蠶の飼養を言ふのである。

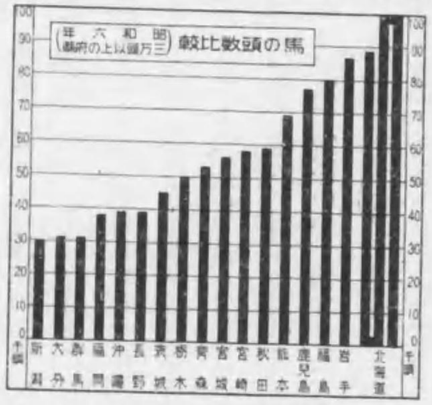
世界に於て養蠶業の最も盛なのは、日本・支那・イタリヤの三國で、就中日本は其の首位を占めてゐる。我が國の養蠶業は太古天照大神に始まると古事記に見えてゐる位で、其の起源は可なり古い。

## 三　牧畜

元來牧畜は耕地と林地との間に存する未耕の原野に於て營まれるものであるが、我が國は國土の狹少なる上に、古來農業が發達し、苟しくも耕地となり得る處は開拓され、大抵耕作が行はれてゐて、殘された地域には、地味瘠薄な山嶽が多いから、牧場としての適地に乏しく、而も氣候は濕潤に過ぎるので、良家畜の蕃殖に適しないから、餘り牧畜業が發達してゐない。

併しながら、近年家畜を食用に供することも次第に多くなり、又衣服に毛織物を用ひることも逐年增加しつゝあり、其の上皮革の製造・軍馬・農耕・運搬等にも使用されて、其の需要が著しく增加して來たので、近年漸く此の方面に注意が拂はれる樣になつて來た。併し我が國で最も多く需要される羊毛は、我が國の氣候が牧羊に適しないために、未だ需要の半を滿すことも出來ず、殆ど其の全部をオーストラリヤ・イギリス・支那・アフリカ等の海外諸國から輸入するの止むなき事情にある。尤も毛織物は、輸入した夫れ等の羊毛によつて、內地で製造されるから、輸入品は其の一部だけに止まつてゐる。さ




つたので、大體其の需要を滿してゐるが、併しやはり牛皮・牛肉の輸入は少くない。

れど、牛・馬等の飼養は、小規模ではあつたが、古來相當に行はれてもゐたし、更に近年各地（牛は中國地方・九州地方・朝鮮半島、馬は北海道・奥羽地方・九州地方等を主産地とし、特に臺灣では水牛の飼養が行はれてゐる）で盛に飼養されるに至

## 四　林業

我が國は島や半島から成つてゐて、四面皆海であるから、雨量に富み、森林の繁茂に適し、且つ一帶に山地が多いから、到る所に美林が多い。卽ち臺灣の大森林を始めとして、宮崎・熊本・鹿兒島・高知・和歌山・長野・靜岡等の中部以西に於ける諸地方並に秋田・青森・北海道・樺太・北朝鮮等の諸地方は、峻嶮なる山嶽から、低平なる丘陵地に至るまで、鬱々たる美林に包まれ、吾等をして、風光明媚の快感を感ぜしむる位である、殊に樺太・北海道・朝鮮・臺灣等の交通不便な山地には、未だ斧鉞を入れない林地さへある程である。主要なる木材としては木曾谷の檜・杉、阿里山の檜、米代川流域の杉及び羅漢柏、吉野川流域の杉及び檜、鴨綠江流域の朝鮮松・落葉松等が著名である。而して是等の林産物は、主として建築・造船・薪炭・鐵道枕木・家具類・製紙原料のパルプ・燐寸軸木等に用ひられてゐる。

尙ほ以上の如く木材の産額が多いので、近年各地に製材業が盛になり、諸所に大いなる製材所が出來たが、其の中で著名なるものは秋田縣の能代港にある秋田木材株式會社、臺灣の嘉義並に朝鮮の新義州にある官營の製材所等である。而して是等の木材は其の良質なるものを、支那・印度等に僅かに輸出するのみで、殆んど其の大部分は我が國で消費してゐる。而も其の需要は年々增加するので、毎年不足を告げ、北米合衆國・加奈陀・シベリヤ等から輸入して、之を補つてゐる有樣である。

次に木材を原料とするパルプの製造業及び製紙業も近年著しく進歩し、北海道の苫小牧・江別、樺太の大泊・豐原・知取等の諸工場から生産する高が次第に增加して、今や需要の大部分を充してゐる。

## 五　水産業

我が國は四面海を以て圍まれる島嶼と、三面に海を控へる朝鮮半島から成つてゐるので、海岸線長

く、且つ其の近海には寒暖の二海流を有するが故に、水産は頗る豐富である。殊に我が國は、古來獸肉よりも魚肉を以て其の食膳を飾ることが多かつたので、水邊の住民は多く漁業に從事してゐた等の關係から、古來水産業は盛に行はれ、世界屈指の水産國となつてゐる。殊に近年は漁港の設備も整ひ、トロール船等を使用する大規模の漁法も起るに至つたので、漁獲區域は單に沿海のみにとゞまらず、遠く小笠原諸島や露領カムチヤツカ半島、並に支那沿岸にまで出漁するものがあるに至つた。水産物は之を大別して、漁獲物と、製鹽との三種に分つことが出來る。

太平洋近海に於けるいわしの漁獲

◎挿繪の解說

**太平洋近海に於けるいわしの漁獲**　本圖は元の農商務省水産講習所第二十二回卒業記念の寫眞帖から採錄されたものである。而して圖は同期の卒業生が、靜岡縣燒津で、と言ふことである。大敷網の實習をしてゐる所である。

**漁獲物**　漁獲物の中、鰮は全國各地の近海で取れるが、主に暖流の流れてゐる處で多く漁獲される。其の外、鰹・鮪・鯛・鰤・鯖・柔魚・鯨等も主に暖流に洗はれる地方に於て漁獲され、鰊・鱈・鯨・明太魚・らつこ・おつとせい・昆布・かに等は、主に寒流の流れる地方に於て漁獲される。

◇各種漁獲物主産地

| 漁獲物 | 産地 | 産額 | 産地 | 産額 | 産地 | 産額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 鰯 | 北海道 | 三、四一一、八九三円 | 長崎 | 一、二九八、一九三円 | 愛媛 | 一、四六二、一一六円 |
| 鯛 | 山口 | 一、一六〇、一六九 | 同 | 七〇九、九七九 | 同 | 七一三、三九八 |
| 鳥賊 | 北海道 | 三、〇〇八、二七九 | 青森 | 四九三、六七三 | 岩手 | 一、三二七、〇二二 |
| 鰊 | 同 | 七、二一三、一七四 | 同 | 五三〇 | 秋田 | 八五 |
| 鮪 | 三重 | 一、三二五、八三三 | 長崎 | 七六四、九〇五 | 神奈川 | 一、三二四、三六二 |
| 鰹 | 愛・知 | 八〇三、七八九 | 靜岡 | 三二四、八三五 | 大阪 | 四一四、三〇一 |
| 鮪 | 靜岡 | 八二五、五〇七 | 神奈川 | 四〇〇、三五七 | 鹿兒島 | 四八二、五一五 |
| 鯖 | 神奈川 | 五八四、八八六 | 高知 | 三二七、九二六 | 福井 | 五〇九、六九三 |
| 鰺 | 同 | 五一五、八〇九 | 靜岡 | 三一三、一三八 | 高知 | 三六九、四三七 |
| 鰈・鮃 | 北海道 | 五四六、六三五 | 愛知 | 一八八、一五九 | 廣島 | 二八四、三七四 |
| 鮭 | 同 | 二、四三五、六四六 | 岩手 | 一七〇、二四三 | 新潟 | 二三九、二四一 |
| 鮎 | 岐阜 | 四四三、〇五九 | 島根 | 一八四、六九二 | 兵庫 | 三九〇、六八三 |
| 鰒 | 北海道 | 二、二三四、〇六三 | 新潟 | 二二〇、九六六 | 石川 | 一九七、四六二 |
| 鮎 | 同 | 四二〇、二六一 | 兵庫 | 一九九、一一八 | 廣島 | 二二八、一四一 |
| 鰻 | 愛知 | 三七〇、四六〇 | 靜岡 | | 東京 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 鱒 | 北海道 | 一、八八一、一二三 | 新　潟 | 一三二、八二二 | 岩　手 | 一〇三、八九三 |
| 鰯 | 愛　知 | 三四〇、五八〇 | 廣　島 | 二八五、四七七 | 山　口 | 一八一、三七五 |
| 昆布 | 北海道 | 二、〇一四、五五三 | 青　森 | 三二一、五四九 | 岩　手 | 三七、五〇三 |
| 鰹 | 和歌山 | 四一四、五四一 | 高　知 | 三八四、八一九 | 三　重 | 二五二、四九八 |
| 鮪 | 香　川 | 四七四、八六六 | 愛　媛 | 二三〇、三七三 | 同 | 一五八、九四五 |
| 石花菜 | 靜　岡 | 五九二、一九六 | 東　京 | 四一二、八三六 | 和歌山 | 一四九、〇三八 |

備考　右は昭和六年の産額二百萬圓以上に上れる漁獲物につき、其の主産地及び産額を示せるものである。

**水産製造物**　漁獲されたる夫れ等の水産物は、大抵は其の儘食料に供せられるが、又各種の水産製造物にも作られる。次に昭和六年度に於ける製造額二百萬圓以上のものを掲げて見よう。

◇主要水産製造物

| 種別 | 昭和四 | 昭和五 | 昭和六 |
|---|---|---|---|
| 鯖鮮及竹輪 | 三一、八四一千貫 | 三〇、二二九千貫 | 二六、七三三千貫 |
| 鰹節 | 一八、五六四 | 一一、〇二五 | 一二、四五二 |
| 乾海苔 | 一三、九六七 | 一〇、二二九 | 一一、八〇二 |
| 鰯煮乾 | 一二、二六三 | 一〇、〇〇六 | 八、六一七 |
| 鰯粕（肥料） | 一〇、一七二 | 八、一七二 | 八、〇八〇 |
| 鮪（素乾） | 一〇、五五八 | 七、五〇四 | 六、四四三 |
| 味醂乾 | 二、八五九 | 二、八七九 | 三、四五二 |
| 昆布（素乾） | 六、二〇三 | 四、八八五 | 三、二三一 |
| 鰊粕（肥料） | 三、九五八 | 三、六六三 | 三、二二七 |
| 鰯（鹽乾） | 五、一一五 | 三、五六一 | 二、九九八 |
| 個煮 | 三、〇六八 | 二、七五五 | 二、五五〇 |
| 生節（食料） | 三、八七九 | 三、七九九 | 二、二七四 |
| 身缺鰊 | 四、一六八 | 二、六二八 | 二、〇八四 |
| 鰯節 | 二、六六〇 | 二、五二三 | 二、〇七二 |

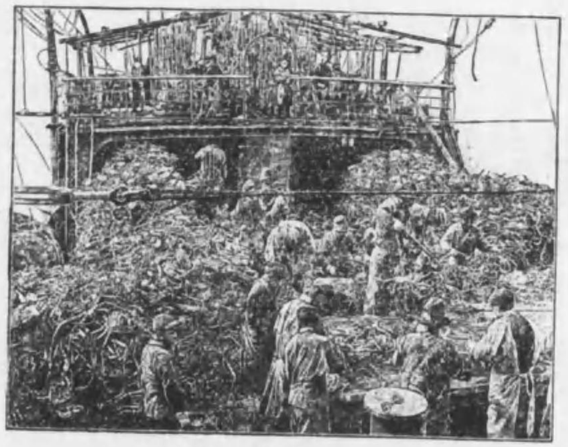
**製鹽業**　我が國で、製鹽業の最も發達してゐるのは瀨戶內海沿岸、臺灣の西海岸、關東州の海岸等でも製せられる。而して瀨戶內海沿岸のものは、火力を以て海水を煎熬して製するのであるが、朝鮮・臺灣・關東州の製法は天日製鹽で、太陽熱に依つて海水を蒸發させて製するのである。

昭和六年末に於ける製鹽高は、內地で約五億二千百二十六萬瓩、朝鮮半島に於て約一億四千六百三十二萬瓩、臺灣に於て一億百四十五萬瓩を製されてゐるが、それでも尙ほ不足をつげるので、關東州や支那等から輸入を仰いでゐる現狀である。

◎挿繪の解說

**かに工船內の作業**　蟹工船と言ふのは、海上で漁獲した鱈場蟹を陸上の工場に揚げないで、直ちに

船内で罐詰に製造する設備のある船を言ふのである。圖中島の様に見えてゐるのは、卽ち其の蟹工船の内部を示したもので、今蟹の懸つた網を甲板に積上げた様を示したものである。蟹工船は三千五百噸内外の汽船で、乘組員は二百四五十名許りである。此の船の活動するのは、鱈場蟹の多いオホーツク海で、遠くカムチヤッカ半島の近海にまで出漁する。最近露國の監視船と領海問題で衝突し、亂暴なる襲撃を受けてから、之が防衛手段として、陸軍省から機關銃の拂下げを受け、各工船内に備へ付けるに至つた。



かに工船内の作業

**石炭**　石炭は全國到る處に分布し、炭田の地質は、中生紀から第三紀に亘り、就中第三紀の炭田が最も多い。卽ち九州・北海道及び本州各地の炭田の主要なるものは全部之に屬してゐる。產額の最も多いのは福岡縣の筑豐炭田、三池炭田で、全產額の半以上を出し、之に次ぐものが、北海道の石狩炭田、茨城縣から福島縣に亘る常磐炭田等である。昭和六年度に於ける石炭の總產出量は、約二千八百萬噸、その年總價格は約一億五千百九十五萬圓餘である。

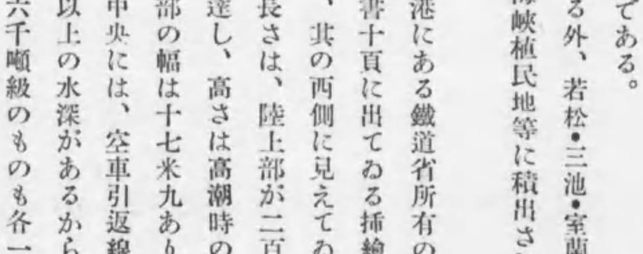
### 六　鑛　業

我が國は地質の錯綜せると、山岳の起伏せるとにより、各地に種々の鑛物を產するが、其の中主なるものは、石炭・鐵・銅・金・石油等である。

而して是等の石炭は、內地の需要に應ずる外、若松・三池・室蘭等の諸港から貿易品として支那・香港・フイリピン・海峽植民地等に積出されてゐる。

◎挿繪の解說

**室蘭にある石炭積出しの棧橋**　圖は室蘭港にある鐵道省所有の石炭專用高架棧橋の有樣を示したものである。敎科書十頁に出てゐる挿繪「室蘭にある製鋼所」にも製鋼所用の埠頭と並んで、其の西側に見えてゐるから、對照しながら說明するがよい。此の棧橋の長さは、陸上部が二百二十一米九、水上に面してゐる分が三百六十米九に達し、高さは高潮時の水面から約十八米九餘に及んでゐる。而して其の上部の幅は十七米九ありて、其の兩側に石炭車到着線が各一條あり、又其の中央には、空車引返線各二條を設けられてある。棧橋の兩側直下は七米九以上の水深があるから、三千噸乃至四千噸級の運炭船各二隻。五千噸乃至六千噸級のものも各一隻を同時



室蘭にある石炭積出しの棧橋

に繫留することが出來、石炭車によりて運ばれた石炭は、棧橋の兩側に備へられたる各二十組の石炭船積漏斗から、直ちに船中に積込まれる樣になつてゐる。尙ほ橋上には、夜間積込みに便するために澤山な電燈が備へてある。

**鐵**　鐵は石炭に次ぐ重要なる鑛産物であるが、鑛山少く、其の主要なるものとしては、內地に、岩手縣の釜石、北海道膽振の輪西、福島縣の大寺等があり、朝鮮に利原・下聖・載寧の鑛山があるが、何れも產額が尠く、國內の需要を充すに足らない。併しながら八幡製鐵所が、支那や海峽植民地から、多量の鐵鑛を輸入して、製鍊するに至つたから、其の製鍊高は著しく增加するに至つた。されど尙ほ國內に於て鐵を材料とする各種の工業が發達するに連れて、益々其の需要は增加し、尙ほ多くの供給不足を告げるので、アメリカ合衆國・獨逸・英國及び印度等から、鐵並に鐵材の輸入をなしてゐる。

**銅**　銅は主として內地に於て採掘され、其の產額多きことでは、米國・智利等に次いで世界屈指である。昭和七年度に於ける其の年產額總計は、約三千九百十二萬圓に達してゐる。主要なる銅山は、足尾（昭和六年度の年產額、六一八萬圓）を第一とし、別子（同上六〇九萬圓）・佐賀關（同上四六五萬圓）・小坂（同上四四三萬圓）・日立（同上三八五萬圓）等である。

**金**　金鑛は主に大分縣（佐賀關・鯛生）、鹿兒島縣（三井串・木野・山野）、靜岡縣（蓮臺寺）、新潟縣（佐渡）、其の他、日立・別子・小坂等の諸鑛山並に北海道本島の北東部にある鴻ノ舞、朝鮮の北西部にある雲山・昌城・三成、臺灣の北部にある瑞芳・金爪石等の諸鑛山から多く製鍊される。

**石油**　石油の最も多量に產するのは新潟縣で、之に次ぐのは秋田縣である。昭和六年原油產額百萬圓以上の石油鑛山をあげると次の通りである。

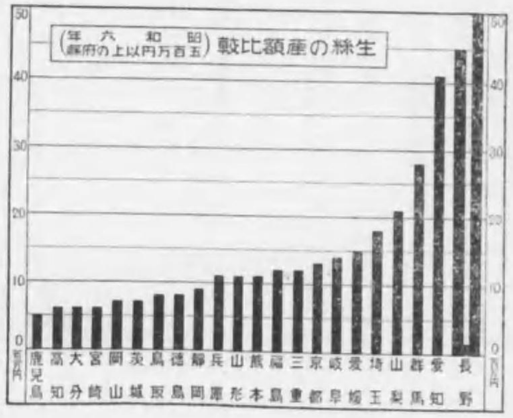
◇主要石油鑛山

| 名稱 | 所在 | 鑛業權者 | 數量 | 價額 | 產額 | 價額計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 瓦斯 | 圓 |
| 刈羽 | 新潟 | 中野興業 | 四四二、一三八㎘ | 一、四一四、八四三円 | 七五一、二三〇円 | 二、一六六、〇七三 |
| 高町 | 〃 | 日本石油 | 四四一、七二三 | 一、四一三、五一三 | 一二三、五九三 | 一、五三七、一〇六 |
| 新津 | 〃 | 〃 | 三八七、七〇五 | 一、〇〇七、八〇九 | 三七、七四二 | 一、〇四五、五五一 |

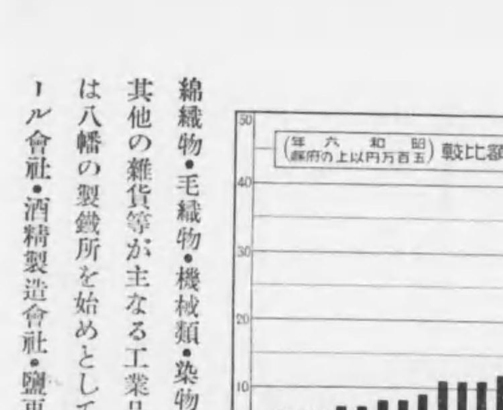
石油の需要は近年急激に增加したので、到底國產のものだけでは足りないから、北米合衆國並にジャワ・露領アジヤ等から原油・重油・揮發油・燈油・機械油等約千八百噸近くを輸入してゐる。

## 七　工業

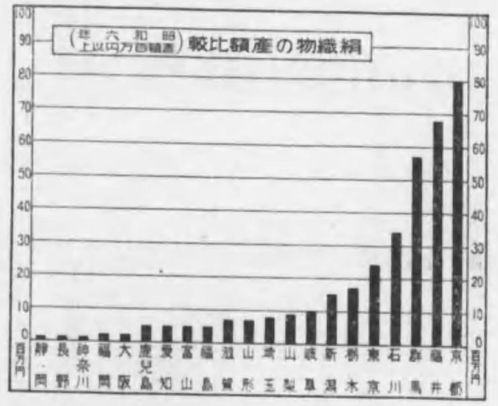
我が國は古來家庭的工業を事とし、大規模の工場は極めてすくなかつたが、近年次第に發達し、家庭工業から機械工業に移つて來た。殊に歐洲大戰の影響を受けて長足の進歩をなし、今日に於ては豐富なる石炭並に水力を利用して動力を起し、內外の原料を用ひて盛に各種の工業品を製出して、世界に於ける有數な工業國となつてゐる。殊に大阪灣沿岸・東京及橫濱の附近・九州の北部・名古屋附近は、何れも我が國に於ける一大工業地區をなしてゐる。



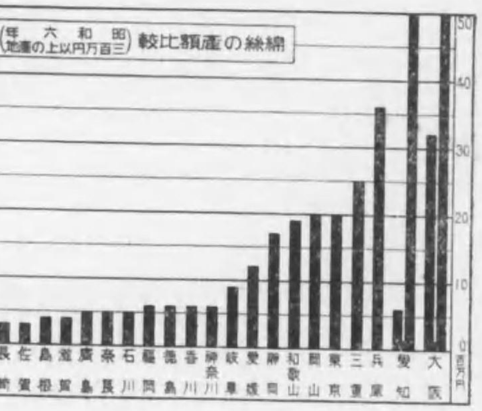

綿織物・毛織物・機械類・染物・砂糖・肥料・洋紙・麥粉・船舶・藥品其他の雜貨等が主なる工業品となつて居り、九州地方の北部には八幡の製鐵所を始めとして、製糖會社・セメント會社・帝國ビール會社・酒精製造會社・鹽再製工場・硝子會社・製紙會社等が棟

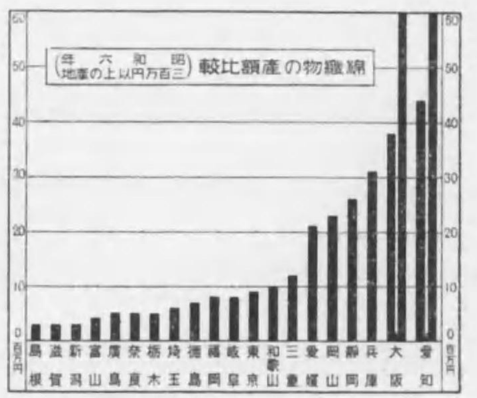



横濱附近の工業品の約三分の一は綿絲及び綿織物であつて、尙ほ其の外、製革・メリヤス・藥品・酒類・マッチ・電線・針金・木製品・銅器・煉瓦・靑銅器・眞鍮器・セメント・セルロイド製品・化粧品・石鹼・砂糖・諸機械・人造肥料・ゴム製造・履物等凡そ七十數種に及び、其の東部大和川の河口にある堺市からは、セルロイド・清酒・肥料・煉瓦・醬油・金具品・及び其の産額は、綿絲・綿織物・時計・陶器の製出が多い。




而して是等の工業品中最も主要なものは、純國產の生絲並に絹織物と、外國產の綿を原料とする綿絲及綿織物であつて、



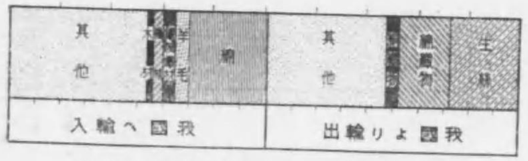




其産額は、夫々遙かに他の工業品の産額を凌いでゐるばかりで無く、我が國の貿易の盛衰と密接なる關係を有してゐる。

## 八　貿易

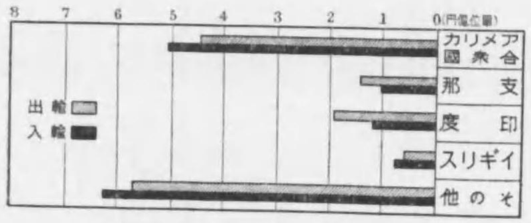
我が國の貿易は、上記の如き各種産業の發達と共に近年著しく隆盛に向つて來た。即ち明治元年に於ては、其の貿易總額は僅かに二千六百萬圓餘に過ぎなかつたものが、同三十八年には八億一千萬圓

に上り、更に大正三年には十三億六千二百萬圓に上り、昭和四年には、約四十三億六千五百萬圓、同八年には、十八億四千六百萬圓と言ふ數字を示してゐる。隨つて我が國は、今日では世界の主要なる貿易國である。



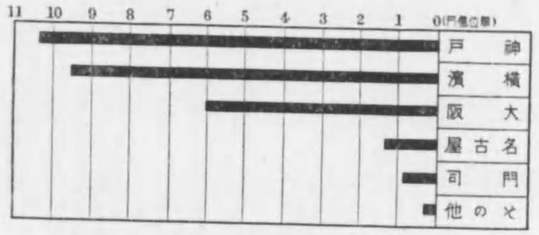

主な貿易品の貿易額の比較（昭和七年）

總輸出額約十四億九百九十九萬圓・總輸入額約十四億三千三百四十萬圓



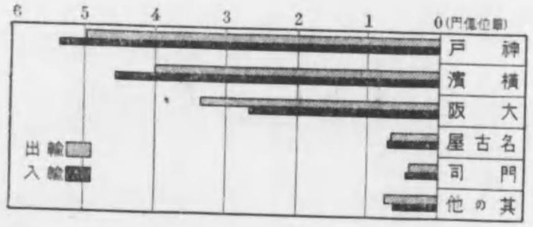

（上　同）

主な貿易取引先の貿易額の比較




（上　同）

主な開港場の貿易額の比較




（上　同）

主な開港場の輸出額入額の比較

## 參考附說

### (1) 主要貿易（品別）

| 品目 | 輸出 | | 輸入 | |
|---|---|---|---|---|
| | （昭和六年） | （昭和七年） | （昭和六年） | （昭和七年） |
| 生絲 | 三五五・四百万円 | 三八二・三百万円 | 二九六・三百万円 | 四四七・五百万円 |
| 綿織物 | 一九八・七 | 二八八・七 | 八六・一 | 八七・五 |
| 人絹製品 | 三九・七 | 六〇・五 | 五〇・九 | 六〇・五 |
| 絹織物 | 四三・一 | 五〇・三 | 四八・〇 | 六五・〇 |
| メリヤス製品 | 二一・二 | 二六・九 | 四四・一 | 五四・八 |
| 陶磁器 | 一九・三 | 二二・九 | 三二・九 | 四九・五 |
| 罐詰食物 | 一八・九 | 二二・八 | 三七・七 | 四二・一 |
| 小麥粉 | 九・五 | 二〇・五 | 四三・四 | 三五・〇 |
| 綿絲 | 八・五 | 二一・五 | 四四・三 | 三四・五 |
| 玩具 | 九・八 | 一五・一 | 二八・二 | 二七・三 |
| 鐵製品 | 一〇・二 | 一四・二 | 一四・五 | 一六・五 |
| 紙類 | 二一・〇 | 一四・〇 | 一三・二 | 一六・〇 |
| 石炭 | 一五・〇 | 一三・四 | 一一・八 | 一五・三 |
| ランプ及部分品 | 七・八 | 一二・七 | 一六・三 | 一四・八 |
| 鐵 | 七・四 | 一二・二 | 一一・九 | 一四・九 |
| 木材 | 九・九 | 一一・三 | 一四・七 | 一四・五 |
| 棉花 | | | | |
| 羊毛 | | | | |
| 機械類 | | | | |
| 鐵類 | | | | |
| 鑛油 | | | | |
| 小麥 | | | | |
| 豆類 | | | | |
| 木材 | | | | |
| 油粕 | | | | |
| 石炭 | | | | |
| 鑛 | | | | |
| 生ゴム | | | | |
| パルプ | | | | |
| 自動車及同部分品 | | | | |
| 麻及麻織物 | | | | |
| 採油用種子 | | | | |

第七　日本の總說

(2) 主要貿易（國別）

| 國名 | 輸出 | 輸入 |
|---|---|---|
| 關東州 | 四一・九百万円（昭和六年） | 五一・六百万円（昭和七年） |
| 滿洲國 | 一〇三・七 | 七七・二 |
| 海峽植民地 | 一三三・二 | 一一六・九 |
| 印度 | 〇・五 | 〇・一 |
| 香港 | 二三・二 | 一一〇・四 |
| 支那 | 九〇・二 | 六五・五 |
| 英領印度 | 四六・二 | 四〇・四 |
| 蘭領東印度 | 四二二・九 | 四二五・三 |
| 佛領印度支那 | 六・四 | 五・七 |
| シャム國 | 二〇・九 | 三一・一 |
| フィリピン諸島 | 九・〇 | 一四・九 |
| 其他アジア諸國 | 三・三 | 一三・一 |
| ロシア | 一三・六 | 二二・四 |
| 中華民國 | 〇・二 | 一三・一 |
| 南洋諸島 | 七・一 | 一三・八 |
| ドイツ領 | 三五・七 | 四四五・一 |
| アメリカ合衆國 | 三四二・九 | 四 |
| 其他ヨーロッパ | 一六・五 | 一〇・八 |
| ノルウェー | 三・三 | 〇・一 |
| スエーデン | 八・六 | 一・六 |
| ダンチヒ | 一〇・四 | 一二・四 |
| スイス | 一四・三 | 五・七 |
| ベルギー | 四四・七 | 九・一 |
| タイ | 三・三 | 一二・四 |
| ラギアン | 六三・三 | 一八・九 |
| リベリア | 一二・四 | 五九・七 |
| スペイン | 七三・三 | 九・一 |
| ポルトガル | 一〇・四 | 一二・四 |
| イタリア | 二四・三 | 五・七 |
| オーストリア | 八二・九 | 四・一 |
| ハンガリー | 一〇・四 | 一二・四 |
| ルーマニア | 八・六 | 一・六 |
| ブルガリア | 三・三 | 一・五 |
| ギリシア | 六三・三 | 一八・九 |
| 其他ヨーロッパ | 一二・四 | 八・六 |
| 露領アジア | 三〇・九 | 一三・一 |
| 其他アジア諸島 | 九・〇 | 二二・四 |
| 其他アフリカ | 六・八 | 一四・九 |
| 其他アメリカ | 一四・九 | 二・一 |
| 其他オセアニア | 一三・一 | 一・一 |
| 其他 | 一・一 | 一・一 |
| 輸出總計品 | 一、一四九・九 | 一、四三一・四 |
| 輸入總計品 | 一、三三五・六 | 一、四三一・四 |

| 輸出 | 輸入 |
|---|---|
| 一二五・九百万円（昭和七年） | 一一〇・六百万円（昭和六年） |
| 一二〇・五 | 一三四・九 |
| 一一八・〇 | 一三六・八 |
| 一一九二・五 | 一一〇・四 |
| 一一二〇・六 | 六五・五 |
| 一一二・四 | 一三・一 |
| 一〇・三 | 〇・五 |
| 四・一 | 二・二 |
| 一一・六 | 一〇・一 |
| 五・一 | 二・五 |
| 一八・九 | 八・四 |
| 一二・四 | 一六・一 |
| 五九・七 | 二五三・二 |
| 一八・九 | 四・七 |
| 一二・四 | 二〇・四 |
| 八・六 | 一三・一 |
| 一・一 | 一・一 |
| 一・一 | 一・一 |
| 一、四三一・四 | 一、一四九・九 |
| 一、四三一・四 | 一、三三五・六 |

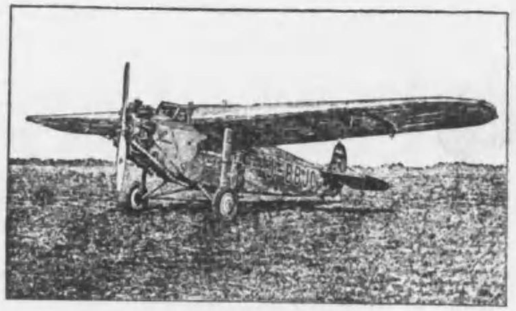
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 南阿聯邦 | 一・三 | 二・六 | 一九・三 | 一六・四 |
| 東部アフリカ | 二・三 | 三・四 | 一〇・九 | 一五・八 |
| 其他アフリカ | 一・〇 | 一・七 | 五・九 | 一一・六 |
| 濠洲聯邦 | 一一三・三 | 一三四・三 | 一八・四 | 三六・九 |
| 其他大洋洲 | 四・二 | 五・六 | 八・二 | 一〇・一 |
| 總計 | 一、二三五・六 | 一、四三一・五 | 一、一四七・〇 | 一、四一〇・〇 |

## 【交通】

### 一 航空

航空の業も既に實用に供せられる樣になり、昭和八年九月現在の定期航空路は、日本航空輸送株式會社（遞信省命令航空路）の、東京（羽田）を起點として、大阪に至り、更に福岡・蔚山・京城・平壤・新義州を經て大連に至る東京・大連線（二一、一〇八粁）、並に同じ會社の、大阪を起點とし、福岡を經て上海に達する大阪・上海線（一、四五〇粁）が主なるもので、此の外日本航空輸送研究所の經營に係るもので、大阪を起點とし、高松を經て松山に至る大阪・高松・松山線（二一九〇粁）、東京航空輸送會社（遞信省命令航空路）の東京を起點とし、下田に寄航して清水に至る東京・清水線（二六〇粁）及び、朝日定期航空會（遞信省命令航空路なれども不定期なり）の東京・新潟線（三八〇粁）等がある。

◎挿繪の解說



旅客飛行機

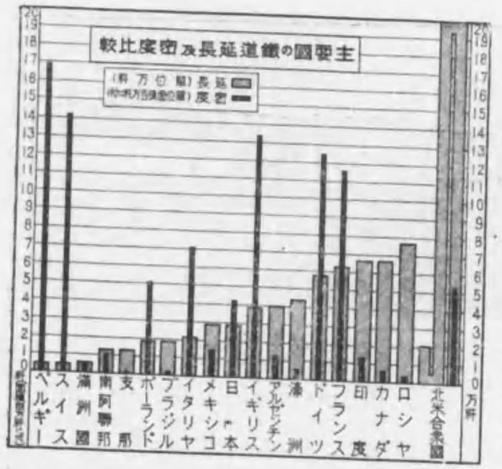
**旅客飛行機**　本圖は、日本航空輸送會社の旅客機の勇姿を見せたものである。同會社の飛行場は、從來立川にあつたが、昭和六年八月二十五日から品川灣に面する羽田に移轉し、此の地を東京飛行場と稱することになつた。故に羽田は、我が航空上の要地となつたわけである。

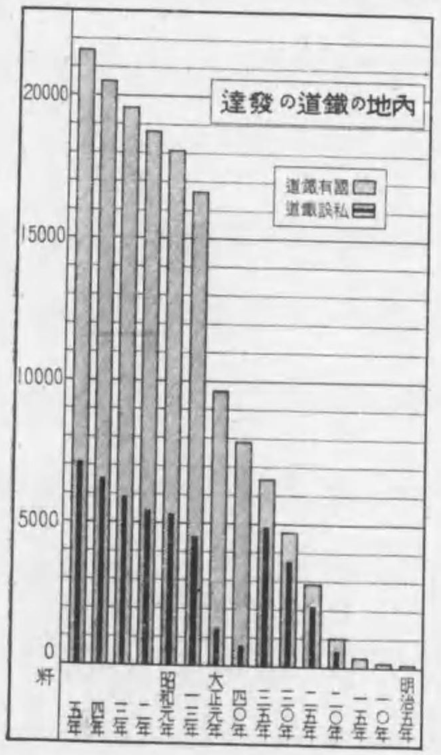
### 二 道路

道路の取扱は、稍々もすると閑却され勝であるが、近時自動車交通の著しく發達するに連れ、又軍事的見地から、決して等閑視することの出來ないものである。道路の中には、國道・府縣道・市道・町村道等の區別があるが、就中主要なものは國道で、東京の日本橋を起點として、各地の府縣廳所在地並に各師團司令部・海軍鎭守府・主要開港場・伊勢神宮等を連絡してゐる。現在其の延長は約八百三十五萬四千粁、府縣道が約一億四十二萬三千粁（外に準府縣道が三百六十五萬三千粁あり）市町村道を加算する時は、約九億五千百四十八萬粁を超えてゐる。而して是等の中、山間にあるものが、凡そ其の三分の一である。されば其の分布狀態から見る時は、敢えて他國に劣る所はないが、遺憾ながら道路其のものゝ構造に於ては、殆ど比較にならぬ位不完全である。

## 三　鐵　道

鐵道は明治五年に東京―横濱間に約十五哩敷設されたのが、其の最初であるが、其の後大正元年の頃には約五千哩を算するに至り、昭和元年に於ては、一萬五千三百三十五哩餘、卽ち二萬四千六百八十粁に及び、更に今日に於ては二萬九千粁を超えるの盛況を示してゐる。併し之を歐米列强の各本國鐵道延長に比較すると、我が國の本國は尙ほ百平方粁の面積に四粁三の鐵道を有するに過ぎず、列强



最新式蒸氣機關車

の最下位にあるから、更に之が延長を計ることの要あるは言を要しない。

扨て我が國の主要なる鐵道幹線は、東京を中心として、東北・東海・山陽の三線を連ね、本州本土を縱貫し、更に此の線は、連絡船によつて、北は北海道に至り、函館・宗谷の二線と連絡し、更に樺太の樺太本線と連なり、南は下關に於て、一は九州地方の鹿兒島線其の他と連絡船の便があり、一は朝鮮半島の釜山との間に連絡船の便があつて、京釜線・京義線と相連なり、遠く滿洲の我が南滿洲鐵道に連絡してゐる。

以上は我が鐵道の主な大幹線であるが、尙ほ此の外臺灣島には、臺灣縱貫鐵道があり、其の他各幹線からは大小の支線を分ち、或は本州を橫斷し、或は一地方の諸平野・九州北部の諸平野等は、產業・都邑の發達著しき地方なるが故に、交通の發達も特に開け、鐵道線路は縱橫に交錯してゐる。

◎插繪の解說

**最新式蒸氣機關車**　圖は六輪聯結式の最新式蒸氣機關車の外觀を示したものである。六輪聯結式と言ふのは、大輪卽ち動輪が六輪あるものを言ふのである。此の機關車は牽引力が强く、速度も早く、形狀・馬

力共に大である。機關車の前面には、上部の先端に一箇、中央部の兩側に各一箇の圓筒狀の照明があつて、中央部の照明の下方には妨碍物排除のための設備が施してある。尙ほ上部の照明の直ぐ後方にあるのは煙突、其の次の釜鍋を伏せたやうに見えるのは加減瓣及び蒸氣溜のある所で、其の次に汽笛がある。而して最後部は水・石炭を貯藏してある所で、其の前に屋根のある所は、機關手の作業場である。汽罐の正面に、C5334と記してあるが、Cと言ふのは動軸が三本あること、卽ち動輪の六輪ある事を示したものである、次の數字はC型中の番號である。

## 參考附說

### ◇本邦の主要隧道

| （名稱） | （所在） | （長さ） |
|---|---|---|
| 清水隧道 | 上越線 | 九七〇二米 |
| 丹那隧道 | 東海道線 | 七八〇七 |
| 笹子隧道 | 中央線 | 四六五六 |
| 猪之鼻隧道 | 篠ノ井線 | 三八四五 |
| 青山隧道 | 參宮急行線 | 三四三〇 |
| 生駒山隧道 | 大軌電鐵線 | 三三八〇 |
| 冷水隧道 | 九州筑豐線 | 三二七九 |
| 禮文華山隧道 | 長輪線 | 二七二六 |
| 第一飛鳥隧道 | 陸中山田線 | 二二六三米 |
| 矢岳隧道 | 肥薩線 | 二〇九六 |
| 第二白坂隧道 | 篠ノ井線 | 二〇八四 |
| 平瀨隧道 | 磐越線 | 二〇〇六 |
| 桃觀隧道 | 山陰線 | 一九九二 |
| 斗賀野隧道 | 高知線 | 一九五三 |
| 襲山隧道 | 國都線 | 一九三五 |
| 荷坂隧道 | 紀勢東線 | 一九一六 |
| 冠着隧道 | 篠ノ井線 | 二六五六 |
| 小佛隧道 | 中央線 | 二五四五 |
| 泉越隧道 | 熱海線 | 二四五七 |
| 長等山疎水 | 大津京都間 | 二四五一 |
| 新逢坂山隧道 | 東海道線 | 二三二五 |
| 坂ノ上隧道 | 豐肥線 | 二二八三 |
| 田代隧道 | 山口線 | 一八九七 |
| 由良隧道 | 紀勢西線 | 一八八五 |
| 東山隧道 | 東海道線 | 一八六五 |
| 水分隧道 | 大湯線 | 一八六〇 |
| 蘆谷隧道 | 山陰線 | 一八五九 |
| 稻穗隧道 | 函館本線 | 一七七六 |

## 四　航路

航路は橫濱・神戶・大阪を主な起點として、國內諸港と海外諸港との連絡は勿論、更に海外諸港との間にも幾多の航路を通じて、內外汽船が盛に往來してゐる。我が國の汽船會社中、最も大なるものは、日本郵船會社と大阪商船會社であつて、外國に對する遞信省の命令航路の主なるものは、何れも此の二會社で經營してゐる。故に右二會社の命令航路中主なる外國航路を參考までに、左に揭げて見よう。

### ◇日本郵船會社の主要外國航路

| 線路 | 起終點 | 寄港地 | 航海度數 |
|---|---|---|---|
| 郵便定期航路 | 橫濱、倫敦線 | 橫濱—倫敦 | 神戶＝上海＝香港＝新嘉坡＝古倫坡＝蘇士＝坡四土＝馬耳塞 | 每二週一回以上 |
| 郵便定期航路 | 橫濱、メルボルン線 | 橫濱—メルボルン | 神戶＝長崎＝香港＝マニラ＝ダヴアオ＝サースデー島＝ブリスベン＝シドニー | 每月一回以上 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 北米航路 | 桑港線 | 東廻 | 横濱―桑港 ホノルゝ | 毎四週一回以上 |
| | | 四廻 | 横濱―香港 神戸、長崎、上海、 | 毎三週一回以上 |
| | シヤトル線 | | 神戸―シヤトル 横濱、晩香波又はビクトリア | |
| 南米航路―四岸線 | | 東廻 | 横濱―バルパライソ ホノルゝ、マンサニヨ又はサリナクルス、 | 毎二月一回以上 |
| | | 四廻 | 横濱―香港 カイヤヲ、イキーケ 〈神戸、門司 | |

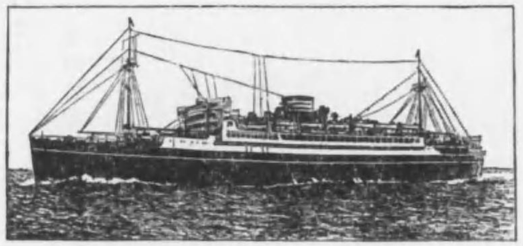
◇**大阪商船會社の主要外國航路**

| 線路 | | | 起終點 | 寄港地 | 航海度數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 南米航路―東岸線、横濱―ブエノスアイレス | | (往) | 神戸＝長崎＝香港＝新嘉坡＝喜望峰＝リオデジヤネイロ＝サントス | | 毎三月二回以上 |
| | | (復) | サントス＝リオデジヤネイロ＝クリストバル | | |
| 阿弗利加航路―東岸線、神戸―ケープタウン | | (往) | 門司＝香港＝新嘉坡＝古倫母＝モンバサ＝ザンジバル＝ダレサラ＝バイラ＝ローレンスマルクス＝ダーバン | | 毎月一回以上 |
| | | (復) | ダーバン＝ローレンスマルクス＝モンバサ＝ザンジバル＝新嘉坡＝門司 | | |

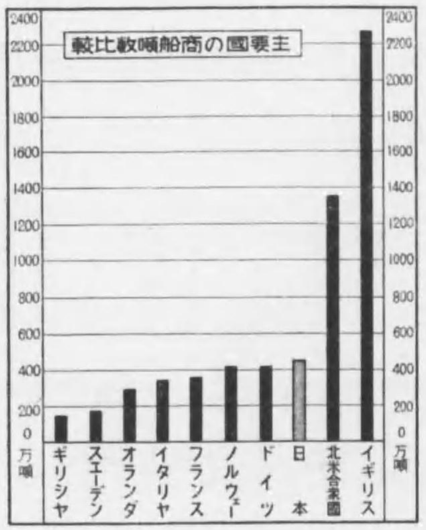
尙ほ以上の外、汽船會社としては、南洋郵船、日清汽船、北日本汽船、栗林汽船等の諸會社があり、南洋其の他、アジヤ大陸の沿岸各地と通航してゐる。斯の如く海上交通の頻繁なるに隨つて、又自ら造船業の進歩を促し、船の隻數も噸數も著しく增加するに至つた。

◎挿繪の解說

**我がアメリカ航路の大きな汽船**　圖は日本郵船會社の淺間丸が海上に浮べる樣を示したものである。此の汽船は長崎の三菱造船所に於て、昭和四年九月十五日に竣工されたもので、全長五百八十四呎、其の噸數は一萬六千九百五十五噸、乘組員は三百五十人、船客定員は、一・二・三等を合して八百三十九名、載貨重量は八千噸、貨物の容積六千噸と言ふ巨大な汽船である。尙ほ本船の排水量は二萬二千噸、速力は二十乃至二十一節で、甲板は七層から成つてゐる。



我が アメリカ航路の大きな汽船



## 參考附說

◇外國航路就航船（九千噸以上―昭和八年九月現在）

**歐洲航路―**

| 船名 | 噸數 |
|---|---|
| 宮崎丸 | 一〇、四一二 |
| 箱根丸 | 一〇、四二〇 |
| 榛名丸 | 一〇、四二〇 |
| 白山丸 | 一〇、三八〇 |
| 伏見丸 | 一〇、九三六 |

（以上　日本郵船、橫濱、倫敦線受命線）

**北米航路―**

| | |
|---|---|
| ×淺間丸 | 一六、九五五 |
| ×龍田丸 | 一六、九五五 |

（以上　日本郵船、桑港線、×印は受命線）

| | |
|---|---|
| 氷川丸 | 一一、六二二 |
| 平安丸 | 一一、六一四 |

（以上　日本郵船、沙市受命線）

**南米航路―**

| | |
|---|---|
| 平洋丸 | 九、八一六 |

| 船名 | 噸數 |
|---|---|
| 諏訪丸 | 一〇、六七二 |
| 香取丸 | 九、八四七 |
| 鹿島丸 | 九、九〇八 |
| 照國丸 | 一二、〇〇〇 |
| 靖國丸 | 一二、〇〇〇 |
| ×秩父丸 | 一七、四九八 |
| 大洋丸 | 一四、四五八 |
| 日枝丸 | 一一、六〇〇 |
| 樂洋丸 | 九、四九一 |

（以上　日本郵船、橫濱線受命線）

| | |
|---|---|
| りおでじやねいろ丸 | 九、六二六 |

（以上　大阪商船、東岸線受命線）

**濠洲航路―**

| | |
|---|---|
| 旭光丸 | 一〇、六九一 |
| 蘇格蘭丸 | 九、〇九四 |

（以上　山下、國際、川崎三社共營日本濠洲線）

**阿弗利加航路―**

| | |
|---|---|
| ありぞな丸 | 九、六一八 |
| まにら丸 | 九、四四五 |
| はわい丸 | 九、四五四 |

（以上　大阪商船、東岸線受命線）

| | |
|---|---|
| ぶえのすあいれす丸 | 九、六二五 |
| 坡四土丸 | 九、〇九三 |
| あふりか丸 | 九、四一五 |
| あらびや丸 | 九、四一四 |

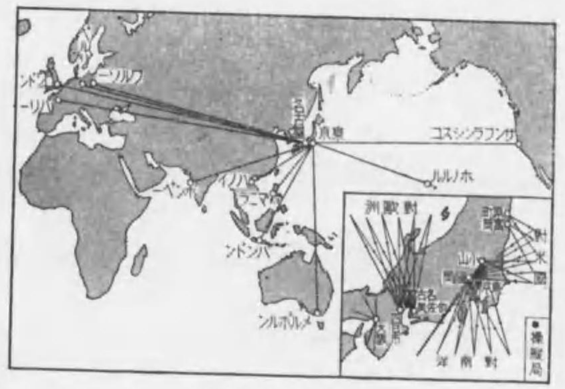
## 五　通信

郵便・電信・電話は國内到る處に通じてゐて、通信の便は殆んど完備してゐる。殊に郵便は政府の事業に屬し、如何なる山間僻地と雖も、郵便物の集配をなさゞる所は無く、郵便局の數は、內地のみにて既に九千數百個所に及び、又萬國郵便聯合に加盟してゐるから、外國航路の發達と共に、外國郵便も頗る便利である。

次にまた電信による通信も、内地間（主に陸上線並に地下線）は固より、萬國電信聯合に加盟してゐるから、諸外國とも海底電信によつて連絡してゐる。主なる海底電線は、鎌倉から小笠原の父島に至り、北米合衆國の太平洋海底電線と接續するもの。長崎から、ウラジボストック・臺灣・上海・大連等に至るもの等である。尙ほまた電信は、有線電信のみならず、無線電信もあつて、東京無線電信局を始め、各地に幾多の無線電信局を設置して、航海中の船舶には勿論、諸外國とも、自由に通信する事が出來る。

◇外國に對する無線電信局

| | | |
|---|---|---|
| 東京無線電信局操縱 | 原町送信所 | 福島縣原町 | 米國、布哇 |
| | 富岡送信所 | 福島縣富岡町 | 米國、布哇 |
| | 福岡受信所 | 埼玉縣福岡村 | 米國、布哇、南洋諸島、極東諸國、米國、布哇 |
| | 小山送信所 | 栃木縣小山町 | |
| 名古屋無線電信局操縱 | 依佐美送信所 | 愛知縣依佐美村 | 歐洲諸國 |
| 四日市受信所 | | 三重縣四日市市 | 歐洲諸國 |
| 遞信省直屬 | 大阪無線電信局 | 大阪市 | フイリツピン、印度支那 |
| | 落石無線電信局 | 北海道落石村 | カムチヤツカ |



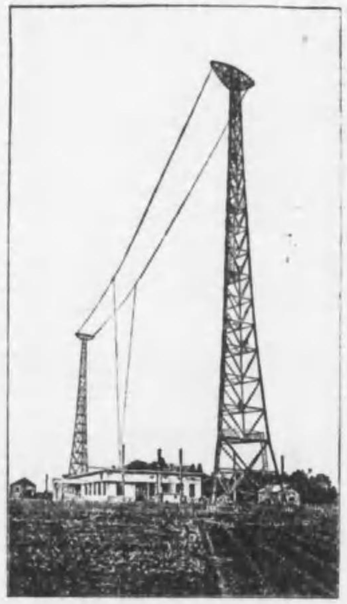

對外無線電信系路



更に又電話にも、有線のものと無線のものがあつて、主なる都邑には、其の設置を見ない所はなく、現在その加入者（有線電話）は、普通が約五十七萬三千餘（昭和七年）、特設が十五萬四千餘（同上）を算してゐる。而してまた、ラヂオ（無線電話）も、既に實用に供せられるに到つた。

◎挿繪の解說

**東京中央放送局新郷放送所**　圖は埼玉縣北足立郡新郷村にある東京中央放送局新郷放送所の有樣を示したものである。中央に見える洋風の建物が放送所で、兩側に高く突立つてゐるのはアンテナを支へる線を張るもの、其の間に見える二條の線が電波を放射するアンテナである。アンテナは高さ五十五米。長さ三十米餘あつて、二線間の隔りは六米である。放送機は英國マルコニー會社の製品で、空中線入力十キロワット、波長三百四十五米、週波數は八百七十キロサイクルである。此處と東京市の愛宕山公園にある演奏所とは、十三對の地下ケーブルで連絡されてゐる。



東京中央放送局新郷放送所

## 參考附說

◇ラヂオ放送局（昭和九年の時事年鑑より）

| 支部局別 | 呼出符號 | 電力 | 周波長 | 放送開始年月日 | 聽取者數 昭和七年 | 〃八年 八年度人口千人宛り加入者數 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 關東 東京中央 | JOAK | 一〇・〇キロワット | 八七〇キロサイクル | 大一四・七・一二 | | |
| 〃（第二） | JOAK | 一〇・〇 | 五九〇 | 昭六・四・六 | | |
| 〃長野 | JONK | 〇・五 | 九四〇 | 〃六・三・八 | 九二〇 | |
| 〃静岡 | JOPK | 〇・五 | 七八〇 | 〃六・三・二一 | 五〇三、一三一 | 六二七、三八六　三三・三 |
| 〃新潟 | JOQK | 〇・五 | 九二〇 | 〃六・二・一一 | | |
| 〃前橋 | JGBG | 〇・五 | 九七〇 | 〃八・六・二三 | | |
| 關西 大阪中央 | JOBK | 一〇・〇 | 七五〇 | 大一五・一二・一 | | |
| 〃（第二） | JOBK | 一〇・〇 | 一、〇八五 | （豫定） | | |
| 〃岡山 | JOKK | 〇・五 | 七〇〇 | 昭六・二・二 | 四、九六四 | 三六六、七四〇　四六八、九七〇　三八・二 |
| 〃京都 | JOOK | 〇・三 | 九六〇 | 〃七・六・二四 | | |
| 〃徳島 | JOXK | 〇・五 | 九八〇 | 〃八・七・二三 | | |
| 名古屋中央 | JOCK | 一〇・〇 | 八一〇 | 大一四・七・一五 | | |
| 〃（第二） | JOCK | 一〇・〇 | 一、一五五 | （豫定） | | |
| 東海 金澤 | JOJK | 三・〇 | 七一〇 | 昭五・四・一五 | 九四三 | 一三〇、六〇八　一六五、四一七　二一・二 |
| 〃濱松 | JODG | 〇・五 | 六三五 | 〃八・七・一九 | | |
| 〃福井 | JOFG | 〇・三 | 九九〇 | 〃八・七・一三 | | |
| 廣島 | JOFK | 一〇・〇 | 八五〇 | 〃 | | |
| 中國 松江 | JOTK | 〇・五 | 六二五 | 〃七・三・七 | 三、三四五 | 四九、六三四　六七、八六八　一〇・九 |
| 高知 | JORK | 〇・五 | 七二〇 | 〃七・三・二二 | | |
| 熊本 | JOGK | 一〇・〇 | 七九〇 | 〃三・六・一六 | | |
| 福岡 | JOLK | 〇・五 | 六八〇 | 〃五・一二・六 | 一、九三四 | 五七、五二九　七七、三一五　八・〇 |
| 九州 小倉 | JOSK | 一・〇 | 七三五 | 〃六・二・二二 | | |
| 長崎 | JOAG | 〇・五 | 九三〇 | （豫定） | | |
| 東北 仙臺 | JOHK | 一〇・〇 | 七七〇 | 〃三・六・一六 | 三、二二一 | 三九、九五九　五一、一三〇　七・八 |
| 秋田 | JOUK | 〇・三 | 六四五 | 〃七・二・二六 | | |
| 北海道 札幌 | JOIK | 一〇・〇 | 八三〇 | 〃三・六・五 | | |
| 函館 | JOVK | 〇・五 | 六八〇 | 〃七・二・六 | 一、八〇六 | 二九、七一二　三四、五八七　一一・二 |
| 旭川 | JOCG | 〇・三 | 六六五 | 〃八・九・四 | | |
| 合計 | — | — | — | — | 一、一七七、三一三 | 一、五〇二、六七三　二三・二 |

日本放送協會は、本部並技術研究所、及び上記七支部の事務所及各局より組織さる。

## 指導の過程

◎配當時間—八時間

### 第一時限

1　本時は主として、日本全體から觀たる主要なる山脈、及び之等を總括する山系と、さうした山系

によつて形成される我が國の地形の概要、並にその周圍の海洋に就て指導し、更に火山脈の分布の狀況及び火山とその附近の景勝等に就て指導したい。

2　無論玆では、日本全體に亘つて指導するのであるから、細說すればきりがない。故に餘り詳述することは避けて、大所高所から眺めて、極く大觀的に、從來分節的に指導して來た事柄を、系統づけて學習せしめる樣にしたい。而して區々たる事柄に就ては、兒童の復習的自學に任せるがよい。之は本課の全敎材の取扱ひに於ても、同樣に言ひ得る事である。

3　尙ほ本課の敎材は、すべて新たな指導と言ふ形式を取らないで、學習作業を第一步の仕事として、進みたい。例へば前記の山脈にしても、日本列島の白地圖を與へ、それに主要なる、夫れ等の山脈の分布を記入させるがよいし、而して夫れ等を基として、山系の說明も、亦地形の說明も營み得るし、更にその周圍の海洋名を記入せしめ、火山脈や溫泉などの分布をも、敎師と兒童との問答の進むに連れて、記入せしめる樣にするならば、兒童の學習效果と興味は、又一段と擴充するであらう。兒童にそうした作業を課すと同時に、敎師も亦板上に、同一作業を、兒童と共に問答しながら、行つてゆくと一層效果的である。

4　尙ほ指導の時間の配當は、便宜上その標準を示したもので、必ずしも、一時間に山だけを、乃至は川・平地のみを、と言ふ風に限定する要はない。山に就て指導して、時間に餘裕を生ずれば次時の川の取扱ひをなすもよいし、時間不足すれば、次時に殘しておいても一向差支へない。唯本課全體の指導時間が、所定の時間で完了出來る樣には、あらしめたいと思ふ。



**第二時限**

1　本時は、日本全體から觀たる、主要なる川及び平野に就て指導したい。その指導內容は、大體日本列島の大分水嶺と、それ等によつて分れてゐる川の流向、並にその性質及び人生との關係に就て知らしめ、更にそれ等の川の、沿岸地域に開けたる平地と、人生との關係を、極く大觀的に考察せしめ、是等に關する既有智識を系統づけたい。

2　而して、本時に於て特に留意したいことは、最も主要なる都邑の分布をも、指導するといふ事である。本課には都邑の項は設けてないが、平野と關係的に記載してある。固より一々の都邑に就て、その發達理由等に到るまで詳說の要はないが、之等も總括的、大觀的に、日本全體に於けるその分布が、主として何に起因するかを明かにしておくことが大切である。

3　尙ほ本時に於ても、作業化する事を忘れてはならない。卽ち白地圖（新たなるものでもよいし又前時のものに記入せしめてもよい）に、主要なる川を、その位置に描かしめ、之に記入させる事や、その沿岸に開けた平野並に大都邑の分布圖、又は川の性質並に人生との關係に於て、當然觸れる筈の、水力發電所等の分布圖等をも作製させる。或は又、兒童の創作能力に應じて、夫れ等の事柄を

簡單に要約して、表解させる作業を課す等もその一方法である。斯くすることによつて、兒童の知識は、最も整理されたる形式に於て、彼等の腦裏に印銘づけられるであらう。

4　併しながら、無論如上（第一時及本時の）の作業だけで能事終れりとする事は出來ない。之は第一期の學習であつて、之を根基として、更に學習を發展せしめなければならぬ。即ち、山脈の分布、河川の分布、並に平地の分布等の間に存する、有機的な關係をも、讀みとらせなければならない。又夫れ等と氣候・產業・交通その他の諸文化との、相關々係と言つた樣な諸點に就ても、注意を拂はせる必要がある。勿論夫れも、前述第一期の作業に基いて、或は質し、或は研究問題を提出せしめて、なる可く兒童各自に考察させる樣にしたい。

5　尙ほ說話に際して、各種直觀方便物を用ひることの肝要なることは多言を要しない。

**第三時限**

1　本時は、日本全體から觀たる農業及び養蠶業に就て、大局的立場から指導したい。但し時間に餘裕があれば、第四時限の「牧畜」に多少でも入つておきたい。

2　指導上留意す可き點は、大體吟味の項にも記述したやうに、農業教材では、耕地面積・最主要の農產物の種類及び大體の分布狀況・用途・輸出入關係・農產物と國家及び國民との關係等に就て、その大要を理解させる事である。

3　又養蠶業に於ては、本邦の養蠶國としての世界に於ける地位（蠶の產額等から）及び主な養蠶業地・生絲の貿易關係・主要絹織物業地とその貿易關係等を明かにす可きである。

4　如上の取扱に於ても、やはり作業化し、直觀化することを忘れてはならない。即ち耕地面積等も、單に我が國の面積は、是々であるとのみでは不充分である。矢張り各地方別の耕地面積比較圖表（時間があれば兒童に作製させるが一番よい）などを提示して直觀させたい。

5　尙ほ主要の農產物（例へば米・麥・豆・さつまいも等の如き）に就ては、日本全體の白地圖上に示現されたるドットマップ、又は地方別產額比較圖等を用ひて適當に說明し、氣候圖等を併用する事によつて、さうした分布を招來せる理由等をも、綜合的に考察せしめたい。

6　如上のドットマップ、產額比較圖表等も、なる可く兒童自身に作製させるがよいのであるが、短時間では困難であるから、是等の作業は省略するとしても、前記主要農產物の、種類別產額表位は作製させて見たい。幸ひ教科書（六十七頁）に昭和三年の夫れが、矩形グラフで出してあるから、教師は、最近の數字を提示して、同樣の矩形グラフを作製せしめ、之れと比較させて見ると一層面白いであらう。

7　尙ほ本邦の世界に於ける養蠶國としての地位等も、矢張り主要なる養蠶國の、繭の產額比較乃至は、生絲・絹織物等の貿易關係等を、適當のグラフに現して、直觀せしめることによつて、はじめて明

瞭するであらう。

**第四時限**

1　本時は、日本全體から觀たる牧畜・林業・水產業等に就て、前時に於けると同樣の觀點から指導したい。但し本時の敎材は、幾分多量に過ぎる嫌ひがあるから、第三時限の最初に斷つておいた樣に多少でも前時に、本時敎材の「牧畜」のところに這入つてあれば幸ひであるが、若しさもない場合には、本時最後の「水產業」の一部を、次時に殘すか、或は作業等を、家庭課題とするか、適當に考慮されたい。

2　扨て牧畜の指導に於て、特に留意したい點は、本邦は、世界的對比關係に於ては、牧畜は餘り盛でない事實を明かにして、其の由つて來たる理由を、氣候・地味・地勢等の綜合的關係の上から、理解させておきたいことである。勿論我が國に於ても、牛・馬等は局所的には相當發達してゐる所もある。故にさうした事實は、前に敎材の敷衍の項に揭げておいた樣な、家畜（牛・馬）の各地方別頭數比較のグラフ等の如きを、直觀せしめる事によつて、明かにすべきであつて、敎科書の所謂「牧畜はあまり振はない」とあるのも、實は日本を一單元とした、大局的立場からの話であることを附言しておくがよい。

3　次に同じく牧畜でも、特に羊の牧養に適しない事實、並にその結果として、羊毛（殆んど全部）や毛織物（一部）を外國から、輸入しつゝある事實に就いても、理解させておかねばならぬ。

4　次にまた林業に就ては、その林地面積（全國の）及び主な木材とその分布に就いて明かにし、又夫れ等の用途、需給關係等に就いて、問答的に、既習の事柄を想起せしめつゝ學習させたい。

5　主な木材の分布や、主要製材所、製紙工場等の分布圖なども、提示して說明すると最も理想的であるが、更に時間に餘裕があつたら、兒童にさうした分布圖を作製させると一層效果的である。

6　次に水產業であるが、此處では、我が國が世界第一の水產國たるに到つた理由に就いて、自然的な方面からと、人爲的な方面から、充分推究考察させ、殊に近年に於ける漁撈法の進步に就いて、挿繪等に基き說明しておきたい。

7　尙ほ主な水產漁獲物とその主產地及び集散地、主な水產製造物と、その貿易關係等に就ても、日本全體觀の上から、系統的に指導しておきたい。而して特に製鹽業に就ては、その主產地を復習的に問答し、且つその需給關係を、量的に明かにしておくがよい。

**第五時限**

1　本時は、日本全體から觀たる我が國の鑛業に就て、大局的立場から、系統的に指導する。而して我が國の鑛產物中、最も重要なものは、石炭と鐵であるから、此の兩鑛物に就いては、特に留意して指導せなければならない。

2　即ち石炭に就ては、その總産出量を明かにし、又主なる採掘地及び夫れ等の積出港等を、新たな指導と言ふ形式でなく、總括的に指導する。此の際、主要炭坑の年産出額比較を示したるグラフか、或はドットマップ等を活用すると一層適切である。

3　次に鐵に就いても、我が國に於ける主要鐵山の分布と、その産額を示し、之を我が國の鐵の需要量と比較して、遙かに需要額に滿たない事を、直觀的に理解せしめて、然る後鐵鑛を海外から輸入して製錬したり、又は鐵や鐵材そのものをも、多く輸入してゐる事實を知解させるがよい。

4　尙ほ石炭・鐵に次ぐ主な鑛産物は、銅・金・石油等であるから、之等の鑛物に就ても、その分布（産地）、生産高、需給關係等に就て、大所高所から指導しておきたい。

5　若し時間が許すならば、上記の石炭・鐵・銅・金・石油等の各鑛山（製錬所を含む）の分布圖を描かしめて、夫々の年産額を、表圖させて見ると一層効果的であらう。

6　尙ほ又、教科書（七十五頁）には、我が國の主要鑛産物の産額比較、並に銅及び金の産地の、産額比較を示したる矩形グラフが出てゐるから、是等も對照的に活用するがよい。但し教科書のものは、昭和三年のものであるから、同様のグラフの最近のものを作製させて、比較させて見るのも面白いであらう。

**第六時限**

1　本時は、我が國の工業に就て、前時同樣、日本全體の上から、大局的、系統的に指導する。即ち我が國に近年著しく工業の發達した理由、主なる工業地區及び工業品等に就て、兒童の既有知識を想起せしめつゝ、大觀的に指導するがよい。

2　我が國の工業品は可なり豐富であるが、就中生絲・絹織物・綿絲・綿織物は、最重要のものであるから、尠くとも之等に就てだけでも、其のドットマップなり、或は各府縣別産額比較なりのグラフを提示して、說明しておかねばならぬ。尙ほ此の外の工業品に就ても、その主要なるものは各々の年産總額を、類別に比較したグラフ等を示して說明するがよい。

3　尙ほ時間的に許されるならば、如上のドットマップ乃至は各種グラフ等は、出來る限り、作業として兒童に作製させると、一層敎育的効果を大ならしめるであらう。

**第七時限**

1　本時は、我が國と海外諸國との、貿易狀況を、その最も主なるものに就いて指導するのであるが、先づ第一には、年貿易の總額に就いて明かにし、その今昔を對照して、海外貿易に於て、我が國が、非常なる發達を遂げたる事實を明かにしたい。

2　次に主な輸出入品名をあげて、その貿易額による順位をつけさせて見るがよい。そのためには、敎科書（七十八頁）に出てゐる如き、比較グラフを直觀させるが、一等よいが、敎科書に出てゐるの

は、昭和三年の統計で、稍々舊いから、本書の教材の敷衍の項に、同じ形式で昭和七年の統計の夫れを出してある。教科書の夫れと比較させて見るがよい。

3　尙ほ主な貿易取引先、並に主な開港場の貿易額の比較、及び主な開港場の輸出入額の比較等も、昭和七年度の統計グラフを出してあるから、教科書の昭和三年のものと對比的に直觀させるがよい。因みに、教科書七十八頁に出てゐる支那の貿易額は、滿洲の獨立以前のものであるから、その積りで取扱はねばならぬ。

4　以上の取扱ひに於ては、固より貿易額が、取扱ひの主眼になるわけではあるが、夫れと同時に、主要取引國乃至は主要開港場そのものに就いても、復習的に問答しておくことを忘れてはならない。否寧ろ夫れ等の復習的問答を經た後に、之等の直觀物を提示するのが順序であらう。

5　本書に揭載せるグラフ（昭和七年）は、直ちに提示することをせず、教科書のグラフで一應取扱つてから、數字だけを提示し、兒童に對して「教科書に做つて、昭和七年のグラフを作つて御覽なさい」と言つて、各自に作製させて見ると、相當興味深く有效な作業が行はれるであらう。

**第八時限**

1　本時は、日本全體から觀たる、我が國の交通、即ち航空路・鐵道・航路・通信等の大要に就て指導する。而して指導上、特に留意したいと思惟する事柄は、凡そ次の如き諸點である。

2　既授の地勢・産業等と聯關して、交通の發達が、夫れ等の地理的要素と、常に相關々係にある事實を大局的見地から知解せしめること。

3　特に鐵道の敷設に就ては、我が國の最も長き隧道・鐵橋等を知らしめ、或はまたループ線・アプト式線・スキッチバック線等に就て敷衍し、人類の文化施設の一端を明かにすること。

4　次にまた本邦の主要鐵道幹線に就ては、此の際系統的に、且つ確實に知解させること。夫れには、日本地圖の略圖を描かしめ、夫れに鐵道線路、並に線路名を記入せしめる如き作業を課すのも一方法である。同時に夫れ等の鐵道沿線に發達せる主要都市を記入させると、一層効果的である。

5　海運に就ても、其の近年の著しき發展に就て、其の原因及び現狀を明かにし、殊にその主要航路に就ては、今後世界地理を說く場合の、豫備知識を授くる意味から言つても、是非その寄港地及び終航地を明かにしておきたい。

6　更に航空路に就ても、特に插繪を入れ、經濟航空路を明かにした程であるから、未だ充分の發達を遂げてゐないとは言へ、是非一通りの理解を與へておきたい。同樣の意味に於て無線電話（ラヂオ）に就ても簡單に補足しておくがよい。

# 第八　アジヤ洲（亞細亞洲）

## 一　總　論

### 指導の主眼

先づ本洲の位置並に境域を明かにし、世界六大洲の中で、最も廣大なる地域と、最も多數の住民とを擁してゐるのは、此のアジヤ洲なることを知らしめ、更に本洲内に於ける山脈・河川等の分布、平地・海岸線等の概況、氣候の大要等を明かにして、是等と相關々係にある、住民の分布狀態・産業・交通の發達程度の概要を授け、且つ洲内に於ける各國勢力の分野を明かにして、東亞に於ける我が國民の使命の、益々重大なることを、自覺せしめなければならぬ。

### 環境の整理

地球儀・世界全圖―アジヤ洲圖―世界六大洲面積比較圖―アジヤ洲内主要諸國の面積比較圖―アジヤ洲地勢圖―同人種分布圖―世界人口密度比較圖―アジヤ洲主要産業分布圖―海流圖―等溫線圖―雨量圖―交通全圖―パミル高原・ヒマラヤ山脈・エベレスト山・中アジヤの草原、其の他著名山岳及び河川・湖沼等の實況、各地動植物並に人種の風俗等を示せる繪畫又は寫眞の類。

### 指導事項の吟味

**一　概況**

1　世界の陸地を六大洲に分つ
2　アジヤ洲の面積……世界陸地の約三分の一
3　住民の總數……十一億二千萬餘……世界人口の半分以上
4　獨立國……日本・滿洲・支那・シヤム等

**二　山地と産業**

1　山脈……パミル高原を起點とし、ヒマラヤ其の他の大山脈が諸方に走つて主な分水嶺となる
2　高原と畜産及び住民

**三　低地と産業**

1　大平地は、主に中央部の高地と海岸との間にある
2　世界最大の平地（シベリヤの平地／中アジヤの平地）
3　シベリヤ平地の氣候と畜産・住民
4　中アジヤの氣候と畜産及び内陸河
5　裏海……世界最大の湖。水面は海洋の水面より低い
6　支那平野……揚子江・黄河に灌漑される
7　印度平野……ガンジス川・インダス河に灌漑される

8　支那・印度南平野の産業及び住民の概況
9　右兩平野に次いで開けてゐる地域

**四　交通**

1　鐵道……印度・ジヤワ・滿洲・支那の東部に發達、―歐亞連絡鐵道
2　河川の交通……揚子江・ガンジス河等
3　海上交通……太平洋及び印度洋は世界海上交通の要路
4　主要港……橫濱・神戸・上海・香港・シンガポール・コロンボ等

## 教材の敷衍

### 一　位置・境域

世界の陸地は、地球表面積の約三割に相當してゐるが、其の陸地は更に大體の地理的關係から、アジヤ洲・アフリカ洲・北アメリカ洲・南アメリカ洲・ヨーロッパ洲・大洋洲の六大洲に區分されてゐる。而して是等の陸地を除いた他の部分は、すべて海洋に屬する一帶の水面であるが、此の水面はまた其の地理的關係から太平洋・大西洋・印度洋の三大洋と、北極海・南極海の二海に分たれてゐる。

尙ほまた地球も之を東西の大陸によつて二大別し、即ち南北兩アメリカ洲を西半球とし、他のすべての洲を合して東半球と言ふ風にも呼んでゐる。アジヤ洲は即ち其の東半球の北東部にあつて、太平洋を隔てゝ遠く西半球即ち北アメリカ洲と相對してゐる。而して北は北極海、南は印度洋に臨み、西はヨーロッパ洲つゞき、又僅かにスエズ運河によつてアフリカ洲とつらなつてゐる。

【備考】アジヤ洲とヨーロッパ洲とは、共に同一地勢上にある大陸なるが故に、之を別個の大陸として考ふることは不自然であるとなし、多くの地理學者間に於ては、此の二大洲を合して、ユーラシヤ大陸と呼ばれてゐる。而してユーラシヤに於ける歐・亞二大洲の境界は、普通スエズ地峽、地中海、マルモラ海、黑海、マニッチ海、裏海、ウラル川、ウラル山脈等を以て定められてゐる。

### 二　面積・人口

アジヤ洲の面積は、世界陸地の約三分の一、其の住民の總數は約十一億二千四百四十萬（帝國統計年鑑）で、世界人口（約二十億九百萬）の半分以上を占めてゐる。斯樣に本洲は、其の面積に於ても、人口に於ても、遙かに他の大陸に勝つてゐるが、併しながら、其の總面積の六割と、總人口の四割四分とは、歐米諸國（英・佛・露・米・蘭等）に領せられ、獨立國は極めて少く、僅かに我が國・滿洲・支那・シャム・アフガニスタン・ペルシヤ・トルコ・イラク・ネジド等があるのみである。

**參考附說**

1　**六大洲の面積と人口**（帝國統計年鑑、括弧内は、タツセンアトラス）（＊印はサハラ沙漠除外）

| | （大陸） | （面積） | （人口） | 人口密度 |
|---|---|---|---|---|
| アジヤ | | 四二〇〇、〇〇〇方粁（四四〇〇、〇〇〇方粁） | 一一、二四四、〇〇〇、〇〇〇（一〇、〇三〇、〇〇〇、〇〇〇） | 二七（一方粁） |
| ヨーロツパ | | 九五〇、〇〇〇（一〇〇〇、〇〇〇） | 四、八四八、〇〇〇、〇〇〇（四、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇） | 五一 |
| アフリカ | | ＊一、四一二〇、〇〇〇（三〇〇〇、〇〇〇） | ＊一、四〇〇、〇〇〇（一、四〇〇、〇〇〇） | ＊五 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 北アメリカ | 二一八〇、〇〇〇 | （二四〇〇、〇〇〇） | 八 |
| 南アメリカ | 一八八〇、〇〇〇 | （一八〇〇、〇〇〇） | 四 |
| 大洋洲 | 九〇〇、〇〇〇 | （九〇〇、〇〇〇） | 一 |
| 南極洋 | 一 | （一四〇〇、〇〇〇） | （〇） |
| 計 | 一、二九九〇、〇〇〇 | （一、四九〇〇、〇〇〇） | 二〇、〇九〇〇、〇〇〇 |

**2　アジヤ洲の諸國領土の面積・人口**

| 獨立國 | 面積（萬方粁） | 人口（百萬） | 一方粁の人口 | 屬領 | 面積（萬方粁） | 人口（百萬） | 一方粁の人口 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本 | 六七 | 九〇 | 一三四 | 露領 | 一七二八 | 三五 | 二 |
| 滿洲 | 一一九 | 三四 | 二八 | 英領 | 五五〇 | 三三二 | 六〇 |
| 支那 | 一一〇八 | 四四〇 | 四〇 | 佛領 | 七四 | 二一 | 二八 |
| シヤム | 五二 | 一二 | 一四 | 蘭領 | 一九〇 | 五三 | 二八 |
| アフガニスタン | 七三 | 一〇 | 一四 | 米領 | 三〇 | 一三 | 四一 |
| ペルシヤ | 一六五 | 九 | 五 | 葡領 | 二 | 一 | 五三 |
| トルコ | 七六 | 一四 | 一八 | | | | |
| イラク | 三七 | 二・八四 | 八 | | | | |
| ネジド | 一五八 | 二 | 一 | | | | |

## 三　山地と産業

アジヤ洲は其の面積に於て他の五大洲に冠たると同時に、地勢の高峻なることに於ても亦、第一位にある。就中中央部及び其の以南の地に於て土地が一般に高く、山脈にも高原にも高大なるものが尠くない。而して是等の山脈の殆どすべては、『世界の屋根』と稱せられてゐる所のパミル高原を中心として四方に走り、本大陸の主なる分水嶺をなしてゐる。

**ヒマラヤ山脈**　ヒマラヤ山脈は、パミル高原から南東に弓形をなして走り、印度北方の大隔牆となつてゐる世界第一の大山脈にして、其の縱の延長約二千四百粁餘、幅員は平均凡そ二百二十粁に達してゐる。此の山脈中に聳ゆるエベレスト山（八八四〇米）は世界に於ける最高峯にして、之についでカンチンヂヤンガ（八五八五米）等、約四十八の大連峯が皆雪線 Snow Line 以上に及んでゐる。此の雪線について面白いのは、暖かいであらうと思惟されるところの南斜面が、却つて雪線が低く、寒いであらうと思惟されるところの山脈の北斜面は雪線が高いのである。

卽ち北側は四千六七百米のところに於て雪線に達するに對して、南側は約四千米餘で雪線に達してゐるからである。此の理由は、ヒマラヤ山脈によつて、印度洋よりもたらせる濕氣が遮ぎられるがために、山脈の南に於ては降水量の多い割合に、北斜面に於ては、其の量の尠きことを物語るものである。兎に角ヒマラヤ山脈とは、印度語の所謂雪山の謂であるから、其の名の起原に背かず、本山脈中の高峯には四時雪の絕えることがない。殊に雪で被はれたる山頂の下に懸れる氷河の偉觀は、實に言語に絕してゐる。エベレスト山中には長さ六十四粁以上に及ぶ世界最大の氷河がある。

ヒマラヤ山脈

◎挿繪の解說

**ヒマラヤ山脈**　圖はヒマラヤ山脈の東部と、山脈中にある避暑地ダージリンの景觀を示したものである。即ち圖の前面に家屋の立並んでゐる山地がダージリンで、其の後方に聳びゆる山脈がヒマラヤ山脈の遠望である。山脈中に見える最高峰は、ヒマラヤ山脈第二の高峰たるカンチンヂヤンガ山であらう。尙ほダージリンは、ヒマラヤ山脈の前山をなすもので、カルカッタの北方、海拔二千百八十五米の所にあつて、我が國に於ける輕井澤の如く、著名な避暑地である。此の地には寺院・醫院・植物園等があり、人口は二萬に近く、茶の栽培等が行はれてゐる。

**トランス・ヒマラヤ山脈**　ヒマラヤ山脈の姉妹山脈とも稱す可きものであつて、ヒマラヤ山脈の北側を、これと並行して走つてゐる。ヒマラヤ山脈について高峻なる山脈にて、此の中にも萬年雪で被はれたる高山が尠くない。此の山脈は久しく世に知られなかつたものであるが、瑞典人スウエンヘヂンが前後數回に亘つてアジヤ内部の探險を試みた結果、其の

第五回目の探險（一九〇六―一九〇八）によつて、初めて發見し、ヒマラヤの奥にあると言ふことからトランス・ヒマラヤと命名したものである。尙ほ此のトランス・ヒマラヤ山脈の北西部に、殆ど同一線上にあつて、パミル高原に接續するものに、カラコルム、ーステン（ダブサン）はエベレスト山に次ぎ、世界山岳の副王と言はれてゐる。

**コンロン山脈**　コンロン山脈は、パミル高原から東に向つて即ちカラコルム、トランス・ヒマラヤ兩山脈との間に、彼の荒凉たる西藏高原（平均高度四千米）を挾んで東西に走つてゐる大小幾多の山脈の總稱である。而して此の山脈は大別して、南嶺と北嶺とに分けてゐる。即ち南嶺・北嶺共に支那本部の中央を東西に横ぎる支脈にして、揚子江の南北を走り、東支那海に於て一時海中に沒するが、南嶺は再び我が九州島に現はれ、我が國土の背梁山脈をなし、北嶺は朝鮮の長白山脈として現はれてゐる。

**其の他**　以上は何れも世界屈指の大山脈であるが、尙ほ此の外高峻なる山脈・高原が尠くない。即ちパミル高原に發して崑崙山脈の北部を北東に走る天山山脈。天山山脈の北部を殆んど之と平行して走つてゐるアルタイ山脈。アルタイ山脈の分脈たるサヤン山脈。パミル高原から西方に延び、アフガニスタンの北境を限つてゐるヒンヅークシ山脈。此の山脈の西端に續いて裏海の南岸を稍々北西に走るエルブール山脈。更に又、パミル高原から南西に向つて走るスリマン山脈等がある。スリマン山脈はペルチスタンを過ぎ、波斯灣岸に沿うて走れるイラン山脈に連なるもので、ヒンヅークシ、エルブ

ールズ兩山脈との間に、所謂イラン高原をつゝんでゐる。斯の如く本地方の山地は頗る高峻なる山脈をなし、其の間に多くの高原や沙漠がはる〳〵と連なつてゐて、寒暑の差も甚だしい。隨つて住民は極めて尠く、其の生業は多く水草を追うて遊牧を業としてゐる。

中アジヤの草原

◎挿繪の解說

**中アジヤの草原**　本圖は露領の中アジヤの草原の有樣を示したものである。草原と言つても、草が密生してゐるわけでは無く、諸處に群をなして疎生してゐるのみで、多くは不毛の地である。北緯四十度以北の地では、春季稍々濕潤の頃には、野草が全面に發生するが、夫れも夏になると降雨なく、暑さが激しいので忽ち枯れ果てゝ仕舞つて、滿目荒涼たる景觀を呈する。圖中に見える列車は、外裏海鐵道の夫れであらう。

**四　低地と産業**

本洲の山脈は前述の樣に、中央のパミル高原を中心として四方に走つてゐるから、諸川も亦自ら是等の山脈を分水界として四方の低地に向つて流れ、一部内陸湖に注ぐ外は、すべて北極海、太平洋及び印度洋に流入してゐる。隨つて平地も、是等の河川の流域に開け、北部にシベリヤ、東部に支那、南部に印度、西部に中アジヤの諸平地がある。就中、此のシベリヤの平地と、西部の中アジヤの平地とは、相連つて世界最大の平地をなしてゐるが、シベリヤの平地は、大部分は寒氣が極めて激げしいので、産業が盛でなく、隨つて住民も尠い。唯、オビ川、エニセー川等の上流地域に、農業・牧畜が發達してゐる。

次に中アジヤの平地は、雨量が少いので草原が多い。隨つて一般に牧畜が主な産業となつてゐるが、只裏海及びその他の湖の沿岸や、是等の湖に流れ込む、諸川の沿岸地域に於て、農業が營まれてゐる。裏海（カスピ海）は、世界で最も大きな湖で、タッセンアトラスに據ると、その水面高度は、マイナス二十六米で、海洋の水面よりも低い。尙その面積は、四十三萬八千方粁と稱されて居り、水深は、最も深い處で、九百四十六米と言はれてゐる。

次に東部太平洋方面にある支那平野、並に南部印度洋方面にある印度平野は、何と言つても、本洲に於ける最主要産業地域で、支那平野は、揚子江・黄河等に灌漑され、印度平野は、ガンジス川・インダス川等に灌漑されてゐる。斯樣な次第であるから、本地域にはまた、人口も頗る稠密で、アジヤ洲の住民の半分は、この兩平野に居住してゐる。

支那・印度の二大平野に次いで開けてゐる處は、太平洋及び印度洋に注いでゐる諸川の沿岸の平地

黄河の鐵橋

や、又本洲の南東部のマレー諸島等である。

**五　交通**

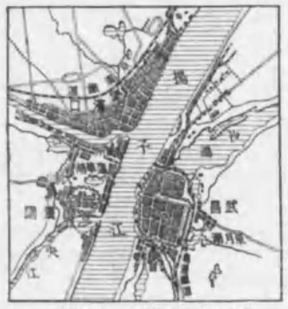
**陸上交通**　鐵道の發達は歐米の諸國に較べると遙かに劣つてゐるが、併し東部及び南部の沿海地方は各種の産業が發達し、人口も稠密であるから、交通もよく發達してゐる。殊に印度は鐵道網の密なること我が國の如く、其の總延長は我が國よりも長い。印度についでジャワ・滿洲・支那等に於ても相當に發達し、又シベリヤの南部には歐亞を連絡する鐵道の大幹線がある。尙ほ此の外、中アジヤ・西部アジヤ等にも鐵道が敷設され漸次發達しつゝある。

◎挿繪の解說

**黄河の鐵橋**　黄河にかゝつてゐる鐵橋は、平漢線と津浦線の二つであるが、本圖の夫れは平漢線の鐵橋である。鐵道省編纂の「朝鮮滿洲支那案内」を見ると、次の如く出てゐる。

「黄河大鐵橋は全長三〇一〇米、滎澤口渡より右岸高武山（圖の左方に見える小山）脚に向つて架せらる。西紀一九〇三年之を起工し、最も精良なる材料及最新の學術を應用して築造せられしもの、し。夜間之を過ぐれば、橋上の電燈燦爛として河水に反映し、頗る偉觀を呈す。」云々。尙ほ圖中、河上に浮んでゐる數多の船は戎克である。

漢口と揚子江




漢口・武昌・漢陽の市街圖

◎挿繪の解說

**漢口と揚子江**　漢口（人口一五八萬）は揚子江と其の支流漢江との會合する地點にあり、其の對岸（揚子江の右岸）には武昌（人口五〇萬）の都市を控へてゐる。揚子江の川口から約一千粁の上流に位してはゐるが、江の水量豐富で、海洋を航行する大船巨舶も自由に出入する事が出來、港の設備も亦整つてゐるので、上海に次ぐ大貿易港である。本港から積出す主なる輸出品は、茶を第一とし、其の外、綿・麻・穀類・牛皮・大豆等である。尙ほ輸入品の主なるものは綿織物・銅・水產物・雜貨等である。我が邦人の在留する者も多く、我が總領事館、日清汽船會社の支店等がある。圖には今船

船の輻湊してゐる有樣を示したもので、前方が下流にあたり、後方が上流である。川幅は此の附近で凡そ一千六百碼に及んでゐる。

**河川交通**　次に河川を交通路として利用せるものも尠くないが、就中揚子江・ガンジス川等は水量が豐富で、流れが緩やかであるから、水運の便が多い。殊に揚子江は、川口から約一〇〇〇粁）までは海洋を航行する汽船も、自由に往來する事が出來る。尙ほシベリヤ方面にも長大なる河川があるが、是等は何れも氣候寒烈なる地域にあつて、其の下流は凍土帶を成してゐるので、水運の便に用ひられることは極めて尠い。

**海上交通**　北極海の沿岸は、殆んど無人の地と言つてもよい位であつて、海岸は夏季の短期間を除く外は、年中結氷してゐるので、港として利用されてゐる所はないが、之に反して太平洋及び印度洋は、世界海上交通の要路に當り、且つ日本・支那・印度等、產業の盛な國が此の方面に多いから、沿岸には良港が尠くない。其の主なるものを擧げると、橫濱・神戶・大阪・門司・長崎・浦鹽斯德・大連・營口・天津・靑島・上海・香港・廣東・西貢・シンガポール（以上太平洋方面）・カルカッタ・コロンボ（以上印度洋方面）等である。

是等の港からは、何れも歐洲・南北兩アメリカ洲・大洋洲等の各洲の諸港に相通じてゐて、我が國及び歐米諸國の汽船が絕えず其の間を往來してゐる。中でも我が國の橫濱、神戶、支那の上海、英領の香港・シンガポール及びコロンボ等は、本洲に於ける海上交通及び貿易の中心地である。

◎插繪の解說

上海港

上海の市街の圖

**上海港**　上海港は支那第一の大貿易港にして、揚子江の支流黃浦江を遡る事約二十六粁の地點にある。人口は近時著しく增大して其の數百五十萬に達し、此處より輸出する主なる物產には、生絲・絹織物・綿・茶等があり、又海外より輸入する主なるものとしては、綿布・綿絲・石油・砂糖・鐵製品・阿片等がある。而して其の最も主なる取引先は、日本及び英國・印度等である。尙ほ上海には近時次第に各種の工業起り、就中紡績、造船等の工業が頗る盛である。殊に造船業は我が長崎、及び英領香港と共に東洋に於ける三大造船地として知られてゐる。

上海が、開港以來未だ

八十年の歳月しか經ないに拘らず、斯樣に急速な發展を遂げたる所以は、全く其の位置的關係によるものである。卽ち支那南北の中央部にあつて、而も海洋に近く、支那第一の大動脈たる揚子江の川口（全くの川口ではないが、黃埔江によつて川口と相通じ、洋船・江船の連絡點となつてゐるから川口と言つても差支はない）に位することが、其の發展を促せる第一の要件である。上海に於ける各國居留地は、市街整然として、公園等の設備もよく整ひ、歐米諸國の都市に比して、何等遜色がない。圖は上海港の稅關棧橋附近を、上流の方から眺めた光景を示したもので、圖の左端に見える小蒸汽船は船客送迎用のものである。尙ほ圖には現はれてゐないが本港内の棧橋は、全部で三十九箇所（上海側に十二箇所・對岸浦東側に二十七箇所）あつて、其の江岸延長距離は、五萬二千三百九十呎である。

**指導の過程**

◎配當時間—三時間

**第一時限**

1　本時は、世界の洲別區分、アジヤ洲の面積・人口の大要、主要諸國の分野等に就て指導し、又山地と產業の大要に就て、大體吟味の項に記載せる如く、アジヤ洲を一單元として、概觀的に指導する。

2　世界陸地の、約三分の一を有すると言はれる大陸を、單元にとつての指導であるから、詳說すれば際限がない。併しながら、どうせ後で各論的に指導するのであるから、茲では單に教科書記載の事柄に就てのみ、稍々之を敷衍すると言ふ程度でよいであらう。

3　併しながら只玆で大切な事は、本洲に於ける主要國（特に獨立國）の分野だけは、關係的に、その位置を理解させておくと言ふことである。出來れば白地圖を與へて、各國別に着色せしめて、それに記名させる等の方法をとれば、最も效果的である。

4　尙ほ本洲の各獨立國に就ては、簡單にその國勢を比較し、以て我が國は、本洲の最新文明國として全亞民族の先導者たる地位にある事に想到せしめて、其の責任の重且つ大なる事を、自覺させることが肝要である。

5　尙ほ此の際、本洲は、他洲に比し、面積・人口何れも大であり、且つ洲内には支那や印度等の如く世界の中で、最も早く文化開け、歷史的由緒のある國があるにも拘らず、何が故に今日の樣に不振の狀態にあるのか、此の點に就ても豫め想察せしめたい。

6　次に本洲全體の位置は、やがて他洲の夫れを授ける場合の基準ともなる可きものであるから、その地球上に於ける位置に就ては、充分理解させておくことを忘れてはならぬ。そのためには、若し時間が許すならば、此の際世界地圖の略圖を描かしめ、或は又白地圖を與へて、大洲別に着色せしめることの作業を課す等もよい。

7　次にまた本洲の主要なる山脈及び山岳等に就て、適當に敷衍しておくことも大切である。わけて

も、世界の最高峰と言はれるエベレスト山や、ヒマラヤ山脈等に就いては、直觀方便物を用ひたり或はまた我が國の新高山や、飛驒山脈等と對比したりして、なる可く興味的に指導しておきたい。

8　如上の取扱ひは、充分の用意のもとに行はねば、時間に多くの不足を來すであらう、否、相當用意した結果行つても、配當教材全部を終る事は無理かも知れない、不足を來した場合は、隨時第二時限に繰延べるがよい。

**第二時限**

1　前時に配當した教材が、幾分本時に繰越されることを豫想し得るから、本時には、幾らか餘裕のある樣に考慮してあるが、是とても、敷衍の程度如何では、或は又不足するかも知れない。併し不足するやうにあらしめたくないと思ふ。

2　扨て本時に於ては、低地と產業に就て指導するのであるが、その主要なる着眼點は、大平地の地理的分布を知らしめ、夫々の平地の特質（特に產業上に現はれる）を明かにすると言ふことである。

3　而して、如上の事實を說話するに際しては、當然各地域の氣候に就ても言及しなくてはならない。無論前時の、山地と產業の場合に於ても、氣候と產業の關係に觸れるのであるが、前時の場合はどちらかと言ふと、立體的に現はれる氣候の變化であつて、本時のは、平面的な變化である。

4　斯樣な氣候の變化が、何に起因するかも考察せしめる要があるであらうし、夫れと共に又、さうした氣候の適否が、直ちに其の地方の盛衰消長に、重大なる關係の存するものである事も、明かな地理的事實によつて、兒童に充分わからせておかねばならぬ。

5　兎に角、山地にしろ、低地にしろ、其の地の產業の如何は、先づ人口分布圖等を直觀せしめることによつて、略々察知出來るであらうし、夫れに、氣候圖や、交通圖等を活用させることによつて、その由つて來たる理由等も、自ら想察させ得られるものであるから、本時はまた、斯うした觀點からの、指導も營まる可きである。

6　產業に就ての說明は、本課では唯概況の指導であるから、細かな產物等の分布を云々する要はないのみならず、夫れは寧ろ本課の取扱ひの指標するところではない。

**第三時限**

1　本時に於ては、本洲の交通狀況の一般を明かにするのであるが、そのためには、先づ本洲の交通を、陸上と、河川と、海上との三方面から眺めなければならない。

2　陸上交通に於ては、主として鐵道の分布概況と、主要幹線（世界交通上の）を知らしめ、河上交通に於ては、楊子江・ガンジス川等の如き、著名なるものゝみを知解せしめればよい。而して、夫れ等の河川に就ても、玆で詳說しなくても、何れ後から、各論のところでも出て來るわけであるから、時間の都合で、適宜案配したらよからう。

3　次に海上交通に就ては、言ふまでも無く、吟味の項に記載しておいた主要港を、夫々その位置に於て指示し、歐米諸國との航路關係等に就いても、說話しておきたい。若し第一時に要求しておいた樣な白地圖作業が行はれてあるならば、その白地圖上に、主要港を記入させ、歐米との航路系統なども記入させるがよい。尙ほまた第一時の作業が行つてないならば、玆で同時に課すがよい。

4　斯くて全課が終つたならば、敎科書を通讀せしめ、兒童の質問に答へつゝ、不充分であつた點等を補足して、本課の學習を終る。

## 參考附說

### 1　アジヤ洲の三大氣候區

アジヤ洲は前記の如く其の面積廣大であるから、寒帶・溫帶・熱帶の三帶に擴ボリ、其の土地形複雜を極めてゐるがために、各地の氣候は其の所によつて著しく相違を來してゐる。範圍狹少なる日本內地のみに於てさへ、地勢の如何によつて、尙ほ若干の氣候の變異がある程であるから、アジヤ大陸の氣候に就いては、之を仔細に見れば、幾多の氣候區を限らなければならぬ事は言ふ迄も無いが、廣く大別すると大體左の三大氣候區に分けて考へる事が出來るであらう。

**季節風帶**　季節風帶とは、每年季節風が規則正しく去來する範圍の區域を言ふのである。卽ち日本列島は固より、朝鮮・滿洲・支那本部・印度支那半島並に印度半島其の他海洋中に散在する島々はすべて此の區域に屬するものである。

季節風の起因は今更こゝに記述するまでも無く、夏期は太陽の北上によつて、アジヤ大陸の內部が漸次熱せられて來るがために低氣壓が生じ、其の結果印度洋及び太平洋上の濕潤なる空氣は、自ら南東或は南の風となつてこゝに集中するに至るもので、尙ほまた冬期は之に反して、太陽の南下につれてアジヤ大陸の內部の氣溫が次第に下降するを以て、其の大陸上の寒冷なる空氣が、比較的低氣壓の狀態にある洋上の空氣中に流入するものであつて、卽ち斯の如く季節によつて風をもたらす所のものを、季節風と名づけるのである。

而して此の季節風の通過する區域に屬する所の、前記の地帶を總稱して季節風帶と呼ぶ所以である。因より同一季節風帶に屬する地域に於ても、其の位置により寒暑の差の生ずるものであることは言ふまでもない。

**內陸流域地帶**　アジヤ洲は廣大なる地域を有し、殊に幾多の高峻なる山脈によつて、東及び南に面せる外洋からもたらせる濕風を遮ぎるために、其の北西卽ち內陸に面せる方面には降水量が極めて尠く、自ら外洋流域と全然水系を異にする流域を形成し、大いなる湖沼等を生じることの尠くないことは旣に記述せる如くであるが、是等の外洋流域と全然水系を異にする、卽ち內陸流域地帶も亦大體同一なる氣候區域と見ることが出來る。

卽ち此の地域に於ては、前記の如く高峻なる山脈によつて、外洋から吹き來れる濕風を遮ぎられるがために、雨量が極めて尠く、年に二百五十粍にも及ばぬ部分が大部分に行きわたつてゐる。されば此の地帶を稱して乾燥地帶とも呼んでゐる。

**寒極地帶**　北部シベリヤの地方は、緯度高く地勢も亦大體北に傾ける關係により、一年中を通じて太陽熱を受けること尠く、內陸流域地帶に同じく、南方は山脈に閉されて暖風を遮ぎり、北方は北極海の寒風に吹き晒されて、且つまた海水の氣候を調節する影響を受けることが少いがために、冬季こゝには世界の寒極地帶が最も廣く現はれるのである。北緯六十八度のヤナ川の流域にあるベルホヤンスクは、年平均氣溫零下十七度にして、嘗つては一月の溫度が氷點下七十度にまで下つたことさへあり、世界の寒極として知られてゐる所である。尙ほ之より以北は寒氣の爲めに地面が年中凍結して、所謂ツンドラを爲してゐる。

降水量は、イルクーツク・トムスクに於ては年々三百粍乃至四百粍を算するが故に、前記內陸流域地帶に比較すると幾らか多量となつて居る。

### 2　アジヤ洲の生物・產物の分布

生物及び產物の分布は、氣候の影響を受けることが大であるから、所によつて大いに其の趣きを異にしてゐる。いま本大陸を南

部・中部・北部の三部に分けて、主なる動植物並に農産物に就いて、大體の分布狀態を明かにして見よう。

**南部**　南部より南東部にかけては、土地肥沃なる上に前記の如き氣候の好影響をうけるからして、濕潤の便もよく、隨つて植物の成長が盛である。其の主なるものをあげれば、椰子・榕樹・チーク・ビンラウ樹・リューガン・竹・籐等の熱帶植物に富み、また農產物としては、米・茶・綿・珈琲・甘蔗・藍・煙草等が多く、尙また此の地方の動物としては、象・鰐々・鸚・孔雀・犀・虎・鹿・大蛇等が棲息してゐる。

**中部**　中部と云ふのは所謂前記の乾燥地帶にして、多く草地帶であるが故に、動物には馬・駱駝・山羊・羊・黎牛等があり、產物は餘でない。

**北部**　北方に至るに從つて生物も次第に其の種類を減じ、極北部に至つては僅かに矮小なる樹木及び苔の類が生じてゐるに過ぎないが、比較的南部には、蝦夷松・とど松・から松・はえ松・樺等が生育してゐる。尙動物には、馴鹿・白熊・羆虎・腹胎獸・狐・貂等が棲息してゐる。

## 二　滿洲

### 指導の主眼

滿洲國の自然及び人文地理の大要と、日滿兩國の密接なる關係（政治的・經濟的・軍事的）を理解せしめるのが本課指導の主眼であるが、わけても、滿洲事變が何故に起つたか、その遠因・近因の大要、並に滿洲が我が國の生命線たる所以に就て、充分理解せしめると共に、今後益々我が國は、此の國と親善を加へて行かねばならぬことを敎へ、又現在此の地にある皇軍並に在留邦人の活動狀況などに就ても、一通り敷衍し、之に對して感謝の念を喚起せしめると共に、更に國民的發奮の資となすやう心掛く可きである。

### 環境の整理

世界全圖—東亞の交通圖—滿洲行政區分圖—世界主要諸國の面積並に人口比較圖—滿洲國地圖—氣候圖—主要物產の年產額比較圖及びその分布圖—滿洲交通（特に連京鐵道を中心としたる）圖—新京及び奉天・ハルピン等の市街圖—敎科書揷繪の擴大圖—滿洲國族—滿洲民族の風俗習慣等を示せる繪畫・繪葉書・寫眞の類—主なる物產の標本等。

### 指導事項の吟味

**一　區域・面積・人口**

1　滿洲國の自然的並に關係的位置

2　成立及び面積（約一二〇萬平方粁）と人口（約三五〇〇萬）の大要

3　滿洲國の政治區分……奉天・吉林・黑龍江・興安・熱河の五省

**二　地勢**

1　滿洲平野……中央部にある廣い平地

2　東西兩面の山地とその特相

3　主要なる河川とその人文的價値

**三　氣候**

1　大陸的である
2　夏季雨量が多い

**四　産業**

1　農業……諸川の流域、特に南部の遼河の流域に盛
　主なる農産物｛大豆……世界的農産物―主産地は北滿洲―その儘輸出される外、又豆粕・豆油としても輸出される
　　小麥……主産地は南滿洲―ハルビンで製粉される―麥粉として輸出される額が多い
　　高粱……主産地は南滿洲―滿洲人の常食｝
2　牧畜……豚・羊・馬の飼養が盛―殊に北滿(蒙古方面)には、皮類・羊毛の産出が多い
3　鑛産……南滿には鑛産地多く、將來を嘱望されてゐる
　　撫順……東洋屈指の大炭坑。南滿鐵道會社の經營。大連から外國にも積出す
　主なる鑛山｛本溪湖……奉天の南東にある炭坑―製鐵所もある
　　鞍山……奉天の南西にある鐵山―大規模の製鐵所がある
4　林業……東部から南東部にかけて處々に大森林がある
　鴨綠江流域の森林……日滿兩國人協同の會社が木材を伐出し鴨綠江を下してゐる。集散地は安東、玆では製材業も盛
　其の他の木材市場……吉林(安東と共に著名)・ハルビン・新京・奉天・大連
5　水産業｛製鹽業……天日を利用する
　　漁獲物……主なるものは、たひ・たら等｝

**五　交通**

1　主な鐵道……連京線(大連―新京間)。安奉線(安東―奉天間)。奉山鐵道(奉天―山海關間)。北滿鐵道南部線(新京―ハルビン間)。同上東部線(ハルビン―ウラヂボストック方面)。同上西部線(ハルビン―滿洲里間)。吉京鐵道(吉林―新京間)。吉會線(吉林―會寧間)。
2　水上交通……遼河・松花江・黑龍江は何れも、滿洲の主な交通路―沿岸處々に港がある。―冬期は結氷するので船の往來は不能となり車馬之に代る。

**六　都邑**

　主なる都邑｛新京……滿洲の首府―政治交通の中心地―大豆・木材の集散地
　　奉天……滿洲第一の都會―陸上交通の中心地―我が關東軍司令部の所在地
　　ハルビン……滿洲第二の都會―北滿の商業・交通の一中心地―近郊に沖・橫川二烈士の記念碑がある
　　營口……遼河の河口にあり。河海兩交通の連絡地。滿洲の門戸
　　安東……營口と共に大連に次ぐ滿洲の主な門戸

**七　我が國と滿洲國との關係**

# 教材の敷衍

## 一　區域・面積・人口

**位置**　滿洲は支那の河北省及び察哈爾省の北東に位する地域にあり、南東部は、我が朝鮮半島に連なり、更に南方に於ては、遼東半島が突出して、黃海と支那渤海灣に臨み、またその北及び北東部に於ては、シベリヤ地方と相接してゐる。而してその數理上の位置から言ふと、大體我が國の岩手縣乃至樺太と同緯度上にある。滿州の四周關係を、圖によつて示すと凡そ次の如きものである。

滿洲の四周關係を示す圖

**面積・人口**　滿洲國の總面積は、約百十九萬二千三百五十一平方粁で、我が國の一倍七分餘に相當し、人口は約三千四百二十萬（大約三五〇〇萬）餘である。此の國は、昭和七年三月一日、獨立を中外に宣言して、共和國を創成したのであるが、その後、我が國の絶對なる援助に依つて、國内の秩序大いに整ふに至り、遂ひに昭和九年（滿洲國の大同三年）三月一日に、帝制を實施し、此の日を以つて、康德元年三月一日とするに到つたのである。

**政治區分**　滿洲國は、行政上之を奉天・吉林・黑龍江・興安・熱河の五省に分けられてゐるが、此の五省の中、最も文化の進んでゐる地域は、奉天省であつて、隨つて人口密度も、亦此の地域が最も大である。次に是等五省の面積・人口を示して見よう。

**◇滿洲各省の面積・人口**

| 省名 | 面積（方粁） | 人口（萬） | 一方粁の人口 |
|---|---|---|---|
| 奉天省 | 一一、九五五九 | 一四五〇 | 一二五 |
| 吉林省 | 二六、七七四三 | 九一九 | 三四 |
| 黑龍江省 | 三二、四一四五 | 五一一 | 一六 |
| 熱河省 | 一五、六八二一 | 四五〇 | 二九 |
| 興安省 | 三二、四〇八三 | 三一 | 〇・九 |
| 合計 | 一一九、二三五一 | 三四一〇 | 二九 |

## 參考附說

**◇滿洲の國號及國旗**

**國號**　國號は勿論「滿洲國」と稱するのであるが、之が決定までには、或は「大同國」「大中國」「滿蒙自由國」「滿蒙自治國」「明光國」等々……、種々なる國名が噂さに上つたのであるが、結局從來用ひられた名稱を襲用して「滿洲國」と決定したものである。此の滿洲の語原に就ては、滿鐵調査課發行の「滿蒙要覽」に次の如く記してある。

「滿洲なる名稱沿革には、其の說種々あり定說がない。其の中、淸の太祖の尊稱を滿住と云ひ、太祖が一六三六年に國號を大淸と改め、舊稱金國に代ふるに滿洲と稱せりとの說もある」云々。

倘また支那の商務印書館發行の辭源には、次の通り記してある。

「滿洲」國名。本日滿住。乃文殊之音轉。以佛名爲名也。明之中葉。有建州衞酋長李滿住者。由朝鮮咸鏡道移居興京其後淸太祖統其部落。以滿住爲尊號。是爲滿洲汗。至太宗始以滿洲爲部族之名。旋又用爲國號。世人因東三省爲太祖太宗所經略。遂稱其他爲滿洲焉。

要するに其の起源は實に古いものであるが、是れを一々詮議するにも當るまい。

**國旗**　滿洲國の國旗は、四分の三を黃色とし、左肩の四分の一に赤、青、白、黑の四色が橫にひかれてゐる。地色の黃は東亞滿洲を表はすもので、左肩の赤色は淸熱熱誠を、青色は青春發溂を、白色は純眞公平を、また黑色は堅忍不拔の意を夫々シンボルするものである。なほ滿洲國側では、この新國旗を紅藍白黑滿地黃旗と呼んでゐる。

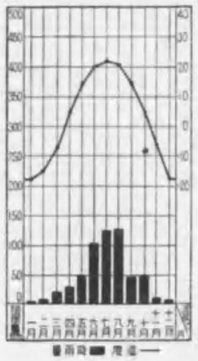
## 二　地　勢

滿洲の東部には長白山脈が連り、西部には興安嶺があり、又北には小興安嶺、南には陰山山脈の一端を存してゐるが、其の中央部は宏大なる滿洲平野を形成してゐる。日露戰爭當時、山地を進んだ我が兵士は、滿洲は山地のみだと考へ、又平地を進んだ者は、平地のみだと思つたと言はれてゐる。滿洲平野の北部に、黑龍江の大支流松花江（全長二四〇〇粁）がある。此の川は、吉林省の南部に發する牡丹江及び興安嶺の東側の諸水を集むる嫩江等、幾多の支流を合して、北滿洲の平地を灌漑するもので、其の灌漑區域は滿洲の殆んど四分の三を占め、南滿洲の平地を灌漑して渤海灣に注ぐ遼河（全長二二〇〇粁）と共に、本地方の交通・運輸に頗る便益を與へてゐる。因みにハルビンは松花江汽船交通の中心地となつており、吃水淺い小蒸汽船は吉林まで上り、又遼河は、營口から約八百八十粁の地點にある鄭家屯まで、六噸乃至三十噸の小船が上下してゐる。

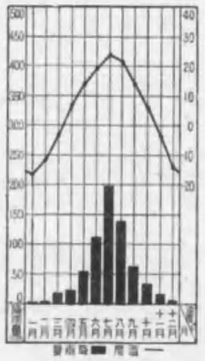
## 三　氣　候

上記の如く滿洲平野は、灌漑の便を有し、諸川の流域には沃野が開けてゐるが、併し氣候は概ね大陸性であつて、寒暑共に烈しく、晝夜の溫度の變化が尠くない。殊に北部に至る程寒氣益々酷烈となり、黑龍江省及び吉林省の大部、卽ち松花江の流域地方は十月中旬から、又遼河の下流地域は十一月下旬から、河湖悉く凍結して、人馬の其の上を往來することが出來る位である。雨量も一般に少なく年七百粍に達せざる有樣であるが、併しながら南部遼河の流域地方には屢々豪雨があつて、道路全く泥濘を極めることがある。斯樣な有樣であるから、地味肥沃なる滿洲の平野も、北部に至るに從つて、未開墾地が多く、殊に黑龍江省の如きには、至る處に廣々たる原野が連なつてゐる有樣である。

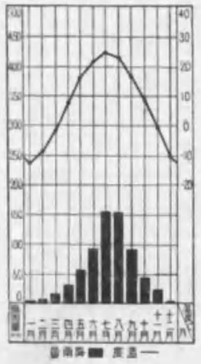
ハルビンの氣候



新京の氣候



奉天の氣候



## 四　産　業

**【農　業】** 滿洲の氣候は、前記の如く一般に大陸性で、冬は寒氣激げしく、乾燥してゐるが、夏は相當暑くて、雨量が多いので、農業に適してゐる。農業は、滿洲の最も主要な產業であつて、主な產物としては、大豆・小麥・高粱・粟・玉蜀黍・米等がある。

**大豆**　滿洲大豆の最近に於ける推定生產額は約四千萬石と言はれ、その中一千七百萬石內外が油房原料となり、一千二百萬石內外が大豆の儘輸出され、殘りの一千萬石內外が、地方農家に消費されてゐる。主產地は、北滿洲であるが、南滿洲でも多量に產する。併し何と言つても、產額の最も多い地

新京に於ける大豆の野積み

方は、よく開拓された鐵道沿線地帶で、連京線・北滿鐵道及び呼海鐵道に沿ふた諸縣が主である。

◎挿繪の解說

**新京に於ける大豆の野積み**　本圖は連京線の終點、新京驛附近の大豆の野積の光景を示したものである。新京は南滿地方に於ける農産物の一大集散地で大豆の收穫期になると、此の附近一帶から新京驛に運搬して來る大豆の貨物は、到底驛内の倉庫に入れる事が出來ないから、圖の如く麻袋に入れた儘、驛附近の露天に野積みにして置き、連京線によつて、段々と之を大連其の他に運搬するのである。見渡す限り大豆の山で、荷馬車で更に續々と到着してゐる。

**小麥**　小麥は北滿洲が主産地であつて、全滿の生産高は一千萬石内外と推定せられ、その大部分は製粉原料に用ひられてゐる。製粉業の中心地は、ハルピンで、その他北滿鐵道並に南滿鐵道沿線の主要都市には、大規模の新式製粉工場があり、大豆搾油工業に次ぐ一大工業をなしてゐる。

**高粱**　高粮・紅粮等とも稱し、蜀黍の俗語である。大別して、糯及び粳の二とするが、粳は更に品種が多い。その生産高は大豆に次ぎ、約三千七百萬石内外と推定せられてゐるが、近年支那及び我が國に輸出される額も、次第に多くなつて來た。高粱の主産地は、大豆と趣を異にし、北滿よりも、南滿に多く栽培されて居り、その産額の比は一對二の割合を示してゐる。

◎挿繪の解說

**高粱畑**　本圖は、奉天附近の高粱畑の有樣を示したものであるが、高粱は、莖稈長く、凡そ五米位に達し、恰かも一大密林の如き狀を呈する。（圖の左側に立てる人と比較して、その大體の大いさを知ることが出來る）故に大なるものは、莖稈を竹或は木材の代りに用ひ、又燃料等に供せられ、特に近年製紙の原料に用ひられる樣になつて、需要が著しく增加するに至つた。實は食料として用ひられ、更に高粱酒（燒酒）等の原料ともなる。

高粱畑

**玉蜀黍**　玉蜀黍は南滿の南部、北滿の一部に栽培せられ、重要なる食料品で、年產額は一千三百萬石と稱せられ、昭和四年の南滿三港からの輸移出高は、十萬米噸、（四〇〇萬テール）を算へ、多く支那への輸出となつてゐる。

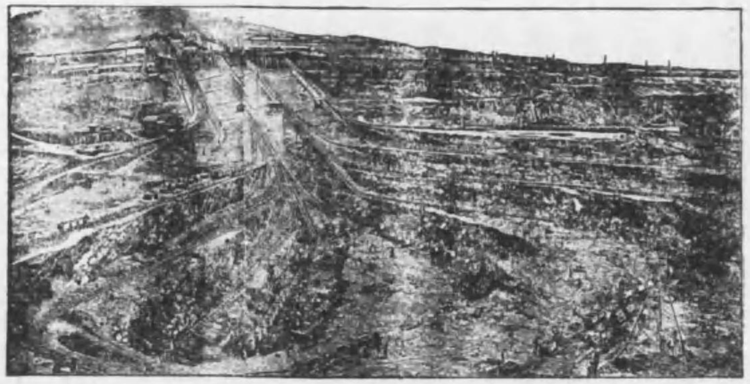
**粟**　粟は前記高粱と並んで、重要な滿洲國人の食料品であつて、大豆と共に各地に栽培せられ、其の年產額は二千八百萬石と註せられる。昭和四年に於ける南滿三港の輸移出總額は、約二十五萬米噸

（一五七〇萬テール）に達し、その過半は朝鮮に向つて輸出せられてゐる。

**米**　米は我が國に於ける如く、滿洲人にとつても、亦貴重な食料品である。現在陸稻粳、約百六十萬石、水稻粳、百五十萬石の生産があると言はれてゐるが、滿鐵の農事試驗の成績に徴すると、將來益々有望との事で、其の耕地の開拓は、主として移住鮮人の力に依ることが多い。現在の水田は、約九萬ヘクタールに過ぎないが、將來の可耕水田面積は、五十萬ヘクタール乃至百萬ヘクタールと推測せられてゐる。

**【牧　畜】**　滿洲に於ける牧畜は、古來頗る盛であるが、就中豚の飼養は最も盛で、殆んど豚を飼養せざる所はないと言つてもよい位である。尚ほ此の外、牛・馬・騾・山羊等の飼育が盛に行はれ、就中牛・馬・騾等は、主として耕作用並びに貨物の運搬用として使役されてゐる。併しながら之が飼養法に至つては、未だ頗る幼稚にして、何等文明的考慮は、拂はれてゐないと言つても、差支へない程である。

**【鑛　業】**　滿洲に於ける鑛産物は、其の種類の多きこと、埋藏量の豐富なる事によつて、頗る其の將來を嘱望されてゐるが、今日多く採掘せられてゐる鑛物は、石炭・鐵の外、金・銀・銅等であつて、石炭は撫順・本溪湖・煙臺等を主産地とし、鐵は鞍山、廟兒溝等を其の主産地としてゐる。次に是等の鑛山について簡單に說明して見よう。



撫順炭坑の露天掘

第八　アジヤ洲（亞細亞洲）

**撫順炭坑**　此の炭坑は、元露國の經營してゐたものであつたが、日露戰爭の結果、我が國が其採掘權を獲得し、明治四十年から南滿洲鐵道株式會社が、之を政府から繼承して各種の施設を行ひ、之が採掘をなしつゝある所にして、其の鑛區は東西十六粁、南北に四粁、而して、その面積は約六十四平方粁あり、炭層の厚さは平均約四十米（最も厚き處は、一三〇米）にして、鑛區の廣きと、炭層の厚きを以て有名である。其の採掘法は所謂露天掘で、年産額は逐年增加し、近時七百萬噸を算してゐる。尚ほ又近年炭層の全表面を蔽ふ油母頁岩から、原油・重油・粗蠟等を製造することが發見せられ、從來廢物となつてゐた油母頁岩が、世人の注目を惹く樣になつて來た。（參考附說參照）

◎挿繪の解說

**撫順炭坑の露天掘**　圖は撫順炭坑、古城子露天掘の景觀を示したもので、其採掘法は、最初土地を圓形に掘つて採炭し、斯くして次第に階段的に採掘擴大されて行くもので、各段層には

夫々レールを敷設し、各段にて採掘したる石炭は、トロッコを用ひ、傾斜捲上機に依つて坑外に搬出される裝置になつてゐる。圖中の中央深く層をなしてゐるのは露出せる石炭層である。現在撫順炭坑には、三十平方粁以上の大穴が二ヶ所穿たれ、尙ほ此の外、幾つも竪坑が穿たれてゐるが、中には地下四百米餘も掘り進んでゐるものがあると言ふ。

**本溪湖**　此の炭山は明治三十九年に、大倉組の手によつて開坑したものであるが、其の翌年から日支合辨（現在では日滿合辨）事業となり、本溪湖煤鐵公司の經營になつたものである。炭田は本溪湖を中心として約四十九平方粁に及び、年產額約五十八萬瓲（昭和五年）、製鐵用及びコークス製造等に用ひられ、殊に此の地には製鐵所があるから、其の動力として用ひられるものが尠くない。

**煙臺**　此の炭坑も、我が南滿洲鐵道株式會社の經營にかゝるものであつて、明治四十三年より開坑したものである。其の廣さは東西約一粁半、南北約五粁に亘り、年產額十七、八萬瓲を出してゐる。

**鞍山鐵山**　本鑛山は其の埋鐵量三億噸に達すると稱せられ、現在我が南滿洲鐵道株式會社と、日滿興鐵公司の手に依つて經營せられ、採掘したる鐵鑛は、現在多く南滿鐵道會社の經營する鞍山製鐵所に於て製鍊されつゝある。

◎挿繪の解說

**鞍山鐵山に於ける鐵鑛の積込み**　圖は鞍山鐵山にて採掘したる鐵鑛を高架トロッコで搬出し來り、

鞍山鐵山に於ける鐵鑛の積込み

其の下に待ち受けたる貨物列車に積込む所を見せたもので、前に小樽港及び室蘭港の高架棧橋から、石炭を直ちに汽船に積込んだ、あの裝置と大體同じである。

**【林　業】**　滿洲の北部には未開發の大森林があり、又東部から南東部にかけても、處々に大森林がある。今その分布を見ると、凡そ次の如きものである。

**◇森林の分布地域**

○　鴨綠江（右岸）及渾江の流域
○　松花江・豆滿江・牡丹江等の流域
○　拉林河流域一帶
○　北滿鐵道東部及び四部沿線
○　三姓地方（黑龍江と烏蘇利江との中間）
○　大興安嶺（北滿鐵道四部線以北の大興安嶺及び小興安嶺）

大體以上の如くであるが、其の總森林面積推定は、約三千六百五十萬ヘクタールに上り、之を我が內地の森林面積と比較すれば、二倍半、立木蓄積量に於ては約四倍に及んでゐる。而して是等の森林（主として東部及び南東部）は、或は日滿人協同して、或は滿洲獨自の經營によつて、是等の森林を伐

採し、木材の取引、製材業等が盛に行はれてゐる。特に鴨綠江上流地域には、カラ松・ベニ松・モミ松等樹木が多く、是等は卽ち日滿の採木公司によつて、伐採せられ、筏によつて鴨綠江を流下し、安東に送られて、こゝに於て製材せられ、或は木材として取引せられてゐるのである。又松花江沿岸の吉林も、主な集散地として知られてゐる。

**【水產業】** 滿洲は其の海岸線狹少なるため、其の面積の廣大さからすれば、水產業は未だ盛大であるとは言はれないが、此の地方には雨量少く、殊に夏季の候には氣溫が高いが故に、雙島灣、貔子窩等諸處の海濱には天日製鹽に適する所が多く、ために割合に製鹽業が盛にして、年產約六億斤（鹽田完成後の生產見込は九億一千斤）の鹽を產出してゐる。尙ほ又近海にては、鯛・鱈・太刀魚等の漁獲されるものも多く、海岸線の短い割合には水產の利に富んでゐる。

**【其の他】** 主要工業に就いては、各產業を說く場合に、言及してあるから改めて述べないが、只一つ附記したい事は、滿洲では柞蠶業（柞樹、卽ち櫟樹の葉を以つて蠶を飼育する）が相當盛に營まれてゐると言ふことである。柞蠶は普通の蠶と異なり、其の飼育も容易で、而も勞力を要することが甚だ少いから、割合に其の產出が多い。柞蠶絲からは、彼の北支那に有名な絹紬を織るので、我が國に於ては羽織等に賞用されてゐる。廣東・廣西等の地方で、樟樹の葉を以て養ふ樟蠶と共に、外國に向つて輸出される額が尠くない。

## 參考附說

**油母頁岩**　玆に滿洲鑛產物中留意す可きは、此の油母頁岩（ユボケツ）である。何となれば、我が國の工業原動力として、鐵・石炭は滿洲の供給その他によつて、大體需要を滿し得るが、石油は內地に多少の產あれども、將來を危まれてゐる。然るに此の油母頁岩は、少きは一%、多きは十四%、平均六%內外の含油量を有してゐる。大正十四年に內熱式乾餾法が案出せられ、昭和四年には工場も完成して、現に採油事業を開始してゐるのである。

而も此の油母頁岩は、撫順炭田の主要炭層を被つて居り、鑛量は同炭田全區域にて、五十四億噸と計算せられてゐる。同炭鑛の露天掘採炭計畫に基き、餘儀なく排除を要する油母頁岩の量のみにても、優に二億一千萬噸に達すると稱せられてゐる樣であるから、實に一擧兩得。石油の需要を滿し得ずに困つてゐる我が國に取つては、實に幸ひな事と言ふ可きである。

**天然曹達**　滿蒙の平野には、到る所に多少の天然曹達を產しないところはないと言つてもよい。唯採集し得る程度に露出してゐる所が尠いと言ふ迄である。而して此の天然曹達の最も多く產するのは、東部內蒙古で、世界的に有名である。併し天然曹達は何時でも露出してゐるのではない。一年中にて先づ十一月から翌年三月頃に至る間の、寒くて且つ乾期のみである。暖かくて且つ雨期には曹達は溶解してゐるが、段々雨期から乾期に移り、十一月頃になると、溶解した曹達は結晶析出し、同時に結晶水を失つて、風化するために白くなり、恰も地上に薄霜を置きたる樣に見える。此の現象は滿蒙の各所に見る事が出來るが、採集加工の最も盛なのは、哲里木（ヂヨウリモクメイ）盟で有名な、大布蘇（ダブソウ）と云ふ曹達湖・玻璃山（ハリサンジヨウ）・城子（チヨンヅ）と稱する四達河上流沿岸の曹達平原等で、此の外數多の產地がある。

橫濟高工校長鈴木達治氏は、曾つて大布蘇の湖水を探險せられ、當時未だ氷結してゐない湖水の水を分析せられた事がある。其の結果は、食鹽二・二七%、炭酸曹達一・三一%、硫酸曹達〇・六八%を含有してゐたと報告せられてゐる。故に假に此の湖水の深さを平均一米として計算すれば、無慮百二十五萬噸の曹達水が存在することになるのである。

## 五　交　通

**【陸上交通】** 滿洲は、その面積に比し、道路・鐵道等の發達が遲れてゐた。隨つて滿洲に於ける文化の開發も亦、遲々として進まなかつたことは言ふ迄もない。併しながら今やその鐵道總延長は、六千三百粁に及び年々新設線の增加を示し、頗る發達して來た。現在我が南滿鐵道會社は、滿洲國の國有線を全部委任經營してゐる。次に滿洲の主要鐵道線路に就て記して見よう。

**連京線**　大連を其の起點とし、奉天を經て新京に至り、新京から露國の經營になる北滿鐵道南部線に連絡するものにして、その延長は七百四・三粁に及び、支線としては、安奉線・旅順線・營口線・撫順線等があり、世界交通幹線の一部分をなしてゐる。本鐵道及び支線（安奉線を除く）は、元露支條約の締結により、鐵道運轉開始の日から八十年を經過すれば、無償にて支那に還附する契約のもとに、最初露國が敷設したものにして、尙ほ其の鐵道附屬地及び附近の炭坑も、同時に露國が其の權利を支那から得てゐたのであつたが、彼の明治三十七八年戰役の結果、其の權利の一切を我が國が獲得し、其の後大正四年五月の日支協約の結果、露支協約を更に改變して、營業期限を九十九ヶ年間に改め、此の期間内に於ては、我が國に於て之を經營するの權利を得たものである。

而して現在我が國に於ては、政府の監督のもとに、南滿洲鐵道株式會社が之を經營し、其の總裁及び副總裁は、政府の任命によつて之を定める規定になつてゐる。尙ほ同會社は是等の鐵道事業の外に、其の附帶事業として、船舶・港灣・鑛山・製鐵・工業・電氣・瓦斯・旅館・學校・病院等をも經營してゐる。

新京停車場

◎挿繪の解說

**新京停車場**　圖は新京停車場のプラットホームを、東方から眺めたもので、中央の建物が驛事務所並に待合所のある所、こゝから左に續いて、新京の町がある。線路は何れも廣軌鐵道（一米五二四の廣軌、連京・奉山其の他の鐵道も、多く廣軌であるが、皆一米四三五を採用してゐる）で、車幅も高さも內地のものより大である。圖に向つて左側は滿鐵列車、右側は北滿線の列車の到着場所である。

**北滿鐵道**　此の鐵道は、もと東淸鐵道・東支鐵道・中東鐵道等と呼ばれ、露國の敷設したもので、現在露・滿の共同經營になつてゐるが、露國は滿洲國に、その權利の全部を賣渡さんとし、目下露・滿兩國に於て、交涉中のものである。此の鐵道は、ハルビンにて三線に分れ、新京までは南部線・南東の方ウラヂボストックに向ふものは、東部線、北西の方興安嶺を過ぎ滿洲里に至つて、シベリヤの鐵道に接續するものを西部線と稱してゐる。

**安奉線**　南滿洲鐵道（連京線）の支線であるが、本線は露國の敷設せるものではなく、日露戰爭に際

して、我が陸軍の手によつて敷設されたものである。安東より奉天に至る延長約二六〇・二粁であつて、我が朝鮮と滿洲とを連結する重要なる交通機關である。本線も最初の日支協約に於ては、運轉開始後二十ヶ年を經れば、第三國の評價人の評價せる所によりて、代償を得て、我が國は之を支那に還附する定めであつたのであるが、大正四年五月の日支協約の結果は、滿鐵と同じく營業期間を九十九ヶ年間に改められたものである。

**奉山鐵道**　此の鐵道は、元北寧線と稱し、支那の北平から奉天まで、一系統の鐵道であつたが、滿洲國の獨立後、奉天から山海關までは、滿洲國々有線になつたので、之を奉山鐵道と呼ぶに至つたものである。

**吉京鐵道**　所謂吉長鐵道で、吉林から新京に到る區間の鐵道線名のことである。此の鐵道は、元支那が、滿鐵からの借款によつて建設したものである。

**吉會線**　吉林から南東の敦化を通り、朝鮮の會寧に達するもので、日本の投資により、滿鐵會社の請負事業として完成したものである。本線は、北滿の中心地と、日本海方面の港（羅津港その他）へ連絡せしめるもので、政治的にも、軍事的にも、極めて重要な線路である。併しながら、斷つておきたいことは、事實上吉會線は全通してはゐるが、敦化以東は、未だ營業線となつてゐない。隨つて、營業線としては、從前通り吉敦鐵道（吉林―敦化間）に就いて知らしめるより外はない。

一　輪　車

◎挿繪の解說

**一輪車**　一輪車は一名推車とも言ひ、支那に於ける特殊の貨車兼用の交通具で、車輪（直徑一米足らず）は一箇しかないから、どんな狹路も自由に通行することが出來る。其の貨物載積量は四百斤、乃至六百斤で、旅客は二人乘が普通である。

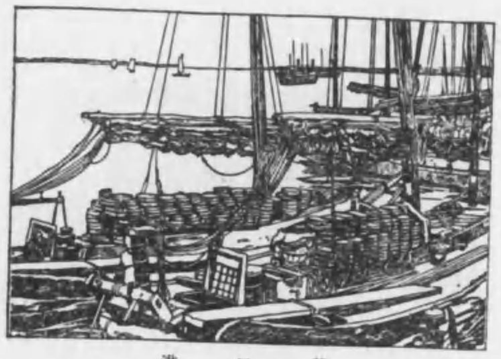
**【水上交通】**　滿洲の北部は黑龍江、中部は松花江、更に南部は遼河等の大河が流れ、共に交通運輸に多くの便益を與へつゝあることは、前に地勢のところでも簡單に記せる通りである。尤も北部は十月中旬より、南部は十一月下旬から、何れも氷結する慨みはあるが、氷結すればしたで、車馬が之に代つて、氷の上を盛に往來して、交通に便してゐる。次頁の挿繪の解說「營口港」を參照されたい。

## 六　都　邑

都邑は、勿論、鐵道の幹線及び支線の附近に多いが、殊に我が南滿洲鐵道の沿線には、多くの都邑が開けてゐて、我が內地人の居住するものが多い。次に是等の主なる都邑に就いて記して見よう。

**新京**　新京は、松花江・遼河の二流域にまたがつてゐる大沃野の中心地帶で、中部滿洲第一の經濟

都市であると共に、又政治都市（首府の所在地）でもある。我が南滿洲鐵道會社の連京線の終點にして、同時に北滿鐵道南部線の起點である。尙ほ此の地よりは、東部吉林・敦化を經て我が朝鮮の會寧に至る鐵道も通じ、交通の便もよく開けてゐるが故に、此の附近より産する大豆・麥・煙草等の、諸物貨の集散地となり、商工業の中心地をなしてゐる。人口約十八萬餘、我が國人のこゝに在留するものは、約一萬人餘ある。



營口港

◎挿繪の解說

**營口港**　圖は營口港から戎克船によつて、豆粕を積出す光景を見せたものである。水面は無論遼河であるが、此の川は、前記せる如く十一月下旬から凍結して、約四ヶ月間は水運の便は無くなり、氷上は車馬の往來する所となるのであるから、圖は恐らく夏季の景觀を示したものであらう。

**奉天**　奉天は遼河の支流渾河の北にあり、日露戰役最後の大會戰地として、且つ又、今時の事變の中心地として、我が國民の永久に忘れ得ざる所である。大連から三百九十六粁六分、遼陽から六十四粁三分、一名瀋陽或は穆古德音とも言ふ。舊政權の所在地たりし所で、現在では、我が關東軍司令部の所在地となつてゐる。人口は四十萬八千餘、此の中內地人二萬三千餘、朝鮮人四千餘を有してゐるが、今後內地人の此の地に到るもの、日を追ふて增大するものと見られてゐる。市街を分つて滿鐵附屬地、開埠地、及び城內の三區界となしてゐるが、滿鐵附屬地は、市の西部一帶を占めて略々長方形の一廓をなし、面積一千四十一ヘクタール、資本金百萬圓以上の銀行會社だけでも二十八を算し、南滿醫學堂、奉天中學及び女學校、ラヂオ放送局等を設置し、邦人經營の商業會議所、商品陳列館等もある。

**ハルビン**　ハルビンは新京から北二百四十粁の地點、松花江の右岸にあつて、一に濱江とも言はれてゐる。人口は、三十八萬五千餘に及び、滿洲人三十萬九千餘、內地人三千九百人、朝鮮人一千四百人、その外露國人等約七萬人と言はれてゐる。此の市の近郊には、日露戰爭當時、松花江鐵橋の爆破を企てゝ果さず、遂に此の地で、露軍のために銃殺された、沖、橫川二烈士の記念碑がある。

**營口**　遼河の川口より約二十粁の地點にある開港場にして、牛莊とも呼ばれてゐる。人口は約十萬餘、主として遼河の水運を利用し、大豆・豆粕・豆油・柞蠶絲等を積み出し、大連について滿洲の二大門戶である。我が國人も約三千近く此の地に居住し、其の多くは豆油の製造並に製粉事業・電氣事業等に從事してゐる。（挿繪「營口港」參照）

**安東**　鴨綠江の川口から約三十粁の上流に發達せる都にして、我が朝鮮の新義州と相對し、安奉線

と京義線との接續點に當つてゐる。附近の沃地より產する大豆・高粱・山繭等を積み出し、又日滿合辨による鴨綠江上流地方の木材集散地として知られてゐる。市街は新・舊の二區よりなり、舊市街は多く滿洲の官衙、商店等が連なり、新市街は卽ち安東縣と稱して、我が國の經營する所である。人口約九萬餘。

安東と新義州の市街の圖

## 七　我が國との關係

滿洲と我が國との關係に就ては、昭和七、八年の滿洲事變が、何故に起つたかと言ふ一事を考へて見ても、直ちに了解し得るであらう。卽ち滿洲は、我が朝鮮の北西にある地續きの國であつて、國防上から言つても、亦產業上（從前から我が國は滿洲に對して、產業經濟上に、色々特殊權益を持つてゐる）から言つても極めて密接な關係にある。その上我が國は、是れまで多年、人口食糧問題に惱み抜いて來てゐる。それと言ふのが、過剩なる我が國の人口の適當なる發展地がないからである。我が國は、世界の諸列强が、地理的發見をやつて、新領土をどん〳〵獲得してゐた時代には、徒らに桃源洞裏に安眠してゐたのである。そして漸くハット醒めた頃には、最早世界の主要なる地域は、他の諸强國、殊に英・米等の諸國が占有してゐて、我が國の進出する餘地は殆ど見出されなかつたのである。卽ち米國にして見ても、或はカナダにして見ても、濠洲にして見ても、ニユージーランドにして見ても、南阿の植民地にして見ても、他國人の自由に入國する事は禁ぜられて居り、唯今日なほ比較的、アジヤ人種の勞働移民をも歡迎してゐるのは、ラテン系統の國、卽ち南米及び南洋の一部の諸國のみである。

斯樣な次第であるから、本邦人の勞働移民による海外發展の土地は、自然、大陸に向つて行かなければならぬ。夫れには地續きの滿洲が第一である。斯く考へて來ると、滿洲はあらゆる意味に於て、實に我が國の生命線である。日淸・日露の兩戰役及び昭和七、八年の滿洲事變に於て、我が國が多大の犧牲を拂つたのも、皆そのためである。それ故滿洲が支那から獨立するや、我が國は直ちに之を承認し、次で國際聯盟をも脫退して、東洋の平和と、此の國の開發のために、非常な努力を爲しつゝあるのであつて、彼我の緊密なる關係に就ては、兩國の間に取り交はされたる日滿議定書が、よく夫れを物語つてゐる。

### 參考附說

**◇日滿議定書內容**

滿洲國政府國務院が同院佈告第五號によつて發表された日滿議定書の內容を示せば次ぎの如くである。

大同元年九月十五日午前九時十分執政府に於て國務總理鄭孝胥及日本帝國特命全權大使武藤信義の間に署名調印を了したる議定書は次の如くである。

議定書

日本國は滿洲國が其の住民の意思に基きて自由に成立し獨立の一國家を成すに至りたる事實を確認したるに因り

滿洲國は中華民國の有する國際約定は滿洲國に適用し得べき限り之を尊重すべきことを宣言せるに因り

日本國政府及滿洲國政府は日滿兩國間の善隣の關係を永遠に鞏固にし互に其の領土を尊重し東洋の平和を確保せんが爲左の如く協定せり。

1　滿洲國は將來日滿兩國間に別段の約定を締結せざる限り滿洲國領域内に於て日本國又は日本國臣民が從來の日支間に條約協定其の他の取極及公私の契約に依り有する一切の權利利益を確認尊重すべし。

2　日本國及滿洲國は締約國の一方の領土及治安に對する一切の脅威は同時に締約國の他方の安寧及存立に對する脅威たるの事實を確認し兩國協同して國家の防衛に當るべきことを約す。之が爲所要の日本國軍は滿洲國内に駐屯するものとす。

本議定書は署名の日より効力を生ずべし。本議定書は日本文及漢文を以て二通を作成す。

日本文本文と漢文本文との間に解釋を異にするときは日本文本文に據るものとす。

右證據として下名は各本國政府より正當の委任を受け本議定書に署名調印せり。

昭和七年九月十五日即ち大同元年九月十五日新京に於て立を作成す。

## 指導の過程

◎配當時間―四時間

### 第一時限

1　本時は先づ滿洲國は、何時から、如何にして出來たか、滿洲國の自然的位置並に關係的位置（特に我が國との）はどうか、と言つた樣な事柄及び面積・人口の大要並びに、其の政治區分等に就いて授け、地勢の概要を、理解せしめるための指導を營む。

2　勿論是等の指導は、兒童の既知事項に基き、又讀圖の結果によつて、問答的に行ふがよい。無論此の際は、各種の地圖その他による直觀方便物を、用ふ可きは言ふ迄も無いが、殊に滿洲國旗等は、出來れば實物を提示して、その由來などを語ると一層面白いであらう。

3　而して、滿洲國が支那から分離して、獨立するに到つたまでの大體の經過を說明するに際しては、當然支那の領土たりし頃の滿蒙、及びその當時から今日に到る間の我が國との關係等に就きても、簡單に言及せなければならぬ。隨つて、最後の我が國との關係に就ては、玆でも可なりまで指導する。

4　尙ほ、滿洲の政治區分又は地勢、卽ち山脈・河川の走向等の概略は、白地圖若しくは、模型白地圖を與へて兒童各自に記入させるがよい。出來れば時間中に、說話に連れて板上の白地圖に記入しながら、兒童にも記入せしめるがよい。時間に餘裕のない場合は課題としてもよい。

### 第二時限

1　本時は滿洲の氣候の大要並に產業の一部、卽ち農業・牧畜等に就て指導する。

2　順序としては、先づ前時の學習材料に對する復習的問答から這入り、滿洲の氣候及び產物等に對

する兒童の既有知識を發表せしめて、夫れ等を整理しつゝ進むがよい。

3　而して氣候教材の取扱ひにて注意す可き事は、何も敢へて事實を曲げる要はないが、併し滿洲の酷寒なる事實を、殊更らに誇大して傳へてはならぬと言ふ事である。それは徒らに滿洲發展の念慮を阻止するのみである。

4　次に農業及び牧畜に就ての指導であるが、農業は滿洲の主産業であるから、相當理解を與へておきたい。隨つて指導時間量は、農業に八として、牧畜は二の割合でよいであらう。

5　農産物に就て、特によく理解させておきたいのは、大豆・小麥・高粱等である。殊に大豆は、豆粕・豆油となつて我が國にも輸出されるものであるから、關東州で指導したることを、想起せしめながら、充分理解せしめたい。

6　尙ほ之等の農産物に就ては、その大體の分布も明かにしておくがよい。出來れば、前時に政治區分及び地勢の概要等を記せしめたる白地圖上に、其の分布を記入させて見たい。

**第三時限**

1　本時は前時に續いて、産業の一部卽ち鑛業・林業・水産業等に就て、その概要を明かにし、次いで滿洲の交通に就て理解せしめる。

2　而して、鑛業では、特に撫順炭坑―鞍山鐵山及び製鐵所―本溪湖の炭坑及び製鍊所等に就いて理解せしめるの事が肝要である。

3　林業に就いては、大體の森林の分布及びその集散地、並に主な樹種に就て知らしめる。而して、林業にしても、鑛業にしても、我が國及び國民の之に關係してゐるものが尠くないから、之等は滿洲に對する特殊權益の一として明かにしておく事が肝要である。

4　水産業は、海岸線が短いので大した事はないが、唯製鹽業に就ては、滿洲の主要な財源の一つとなつてゐるものであるから、關東州の夫れを想起せしめながら適當に指導しておくがよい。

5　交通教材に就いては、大體教科書記載の幹線だけ理解せしめればよいが、唯一つ吉會線に就いては、吉京線(吉長線)と共に是非說話しておきたい。現在營業線となつてゐるのは、敦化まで、敦化から會寧(朝鮮)までは、營業線になつてはゐないが、事實上開通してゐるのであり、將來我が日本海方面と北滿の中心を結ぶ重要線となるものであるから、教材價値は大である。

6　尙ほ交通の處で留意せしめたい事は、滿洲の國有鐵道は、その經營を、全部我が南滿鐵道會社に委任されてゐると言ふ事と、現在北滿鐵道は、滿・露間に讓渡交涉が行はれつゝあることを知解せしめると言ふ事である。

7　尙ほ教科書には記載してないが、最近開拓された、我が內地と滿洲を結ぶ航空路に就ても、簡單に附說しておくがよい。

**第四時限**

1　本時は、滿洲の主なる都邑の分布狀況並にその特色に就て指導し、更に我が國との歷史的・經濟的・軍事的・政治的の諸關係を中心主題として問答し、本課全體の總括整理を營む。

2　都邑の指導は、大體吟味の項に記載せる諸都邑に就て、之を敷衍する程度でよい。勿論各都邑の特色に就ては、はつきり認識させておきたい。

3　尙ほ滿洲の都邑は、多く鐵道沿線に發達してゐるから、前時の交通の作業を兼ねて、滿洲の主要鐵道幹線を、白地圖上に記入せしめながら、各都邑の分布をも描かしめる所の作業を課すがよい。勿論、指導案の立て方によつては、前時の交通教材と、本時の都邑とを一緒にして、各時ともに上記の如くして、作業的に指導して行くことも有效である。

4　更に又我が國、就中兒童の鄕里から、新京、奉天等の都邑に到る交通路（陸海共）に就いても、東亞の交通圖等によつて、說明し、之に要する大體の時間、賃金等も明かにすると一層有效である。

5　我が國との關係に就ては、既習の事項を總括的に、簡單な問答によつて、兒童に發表させ、不充分な點を補足すると言つた程度に指導するがよい。而して、日滿の關係に就いては、餘りに歷史的の事柄に多くの時間を費すことは考へものである。勿論夫れも多少は關係的に說話せねばならぬが、要は現在の事實に立脚して理解せしめることである。

# 三　支那

## 指導の主眼

先づ我が國の西隣國たる支那の位置、四周並に面積・人口等の大要を知らしめ、且つその行政上の區分及びその中心地を明らかにすべきである。而して支那本部は、政治的・經濟的に、最も我が國に密接なる關係の存する所であるから、特に留意して指導し、地勢・氣候の大要、並びに產業の狀況、都邑・交通・貿易等の概要に就て、我が國との關係事項を中心として、理解せしめることが大切である。

## 環境の整理

世界地圖—支那地圖—支那行政區分圖—支那本部の擴大圖—世界主要諸國の面積並に人口比較圖—氣候圖—海流圖—支那主要物產の分布圖—敎科書揷繪の擴大圖—絹紬・繻子・緞子その他主要物產の標本類—主要都市に於ける日本居留地及び支那住民の人情・風俗・產業狀態・日支貿易の狀況等を示せる繪畫・圖表類—支那の國旗等。

## 指導事項の吟味

### 一　區域

1 位置
- 經緯度上から觀たる世界的位置
- アジヤ洲の全局から觀たる自然的位置
- 四周（特に我が國との關係）から觀たる位置

2 支那の別名たる中華民國の意義

3 面積（九九一、〇〇〇方粁）・人口（四、五〇〇萬）の大要

4 區分……國内を支那本部・蒙古・新疆・青海・西藏等の數部に分つ

5 首府……南京（一名江寧とも云ふ）―北平はもとの首府である

## 二 支那本部

1 農業・工業・牧畜

(イ) 住民……支那本部の住民は支那の總人口の九割餘を占め、大部分は支那平野に居住し、農業を營む

(ロ) 支那平野の北部
- 氣候……雨量少く、寒暑の差が甚だしい
- 主な産物……麥・豆・高粱等

(ハ) 揚子江の流域
- 氣候……溫暖にして且つ雨量が多い
- 主な農産物……米・茶・繭・綿・麻等
- 主な工業……製絲・製茶の業、特に上海では綿絲紡績業盛

(ニ) 南方の珠江の流域
- 主なる産物……米・茶・繭等の産額が多い
- 主なる輸出品……生絲・絹織物・茶等
- 主な積出港……上海・廣東・香港
- 牧畜……主要家畜は豚・牛・馬・羊等である

2 鑛業……支那本部は種々の鑛物に富む、殊に北部・中部には鐵鑛と石炭が豐富、採掘されてゐるのはその一部分



(イ) 鐵鑛……漢口の南東にある大冶の鑛山で最も多量に採掘、我が八幡の製鐵所へも供給

(ロ) 石炭……主として天津の北東にある開平の炭坑と、大冶の南にある萍鄉の炭坑で採掘される

(ハ) 製鐵所……漢陽（漢口の對岸）にある製鐵所で、大冶の鐵鑛を原料とし、萍鄉の石炭を燃料として製鍊する

3 交通・貿易

(イ) 揚子江は自然の大交通路

(ロ) 漢口・上海……水陸交通の要地、商業甚だ盛

(ハ) 鐵道……幹線は大低南北に通じてゐる。―その理由

(ニ) 主要幹線……北寧線・平漢線・粵漢線・津浦線・膠濟線

(ホ) 海岸の主な港……北部の青島、南部の香港（英領）

(ヘ) 川を利用した港……天津・上海・漢口・廣東等の諸港

(ト) 交通・貿易の大中心地……上海と香港

## 三 蒙古

1 位置……支那本部の北部に位する廣大な高原

2 ゴビ沙漠……中央に存在し、内蒙古、外蒙古に分つ

3 土地……概ね沙漠か不毛の荒地

4 住民……水草を追うて轉住し、牧畜に從事する

## 四 我が國と支那との關係

# 教材の敷衍

## 【區　域】

**位置**　支那は一名中華民國と稱せられてゐる。之は支那國民自らが斯く號しつゝあるもので、卽ち

世界の最も中央に位置し、華の如き美しき人民主權の國との意味である。見ようによつては、正に世界の中央に位置するとも言ひ得るであらう。其の經緯度上の位置は、南は熱帶に入り北緯十八度に達し、北は北緯五十四度に至り、其の南北の緯度は三十六度に亘つてゐる。而して東は東經百二十五度より、西は同七十四度に至り、東西經度五十一度に及んでゐる。

**四周**　尙ほまた其の四周關係は北東部に於ては滿洲國に接續し、又黃海・東支那海等を隔てゝ日本列島と相對し、南東部は南支那海を隔てゝ、米領フイリピン群島に相對してゐる。又北部はシベリヤに接し、西部は中央アジヤ及び印度の北部地方に連なり、南部は印度の北東部、及佛領印度支那等に接續してゐる。

**面積・人口**　支那は頗る廣大なる地域に亘つてゐるからして、其の面積も廣く、約九百九十一萬方粁に達し、我が國の凡そ一四・三倍に當る大國である。尙人口に就ては、支那は今日尙内亂絶ゆる事なく、他の文明諸國の樣に嚴密なる調査の結果がないから、適確な事は言へないが、最も信ず可き調査によると、約四億五千萬餘である。

**區分**　支那は行政上國内を、支那本部・蒙古・新疆・青海・西藏等の數部に分劃してゐるが、最も開けてゐる處は、支那本部である。

**南京**　南京は一名江寧とも稱し、人口約二十萬餘、揚子江の下流々域に位する港市で中央政府の所在地であると共に、江蘇省の首府である。上海を距ること鐵路約三百三十八粁、揚子江の水路によれば約三百九十二粁で、水陸交通の要地である。市内は高さ十五米の城壁を以て圍まれ、明の古城址を始め、歷史上名高い名所舊蹟が多い。

◎挿繪の解說

**南京の埠頭**　南京の埠頭は下關と言つて、南京市街の北方凡そ八粁の地點にあつて、浦口と相對し、城内へは約十四粁の滬寧鐵道の便を有してゐる。圖の正面に見える洋風の建物は、招商局・稅關・滬寧鐵道の停車場である。尙ほ圖の左端に半ば見えてゐる船は古船でハルクと稱し、棧橋の代りに使用してゐるものである。此の附近は、川幅三千七百呎に面してゐるから、棧橋を用ひて差支へないのであるが、揚子江は季節によつて水量に變化があり、其の差が四米以上に及ぶので固定した棧橋を造ることが出來ない、故に古船を以て棧橋の代用となし、又倉庫の代りに用ひるのである。

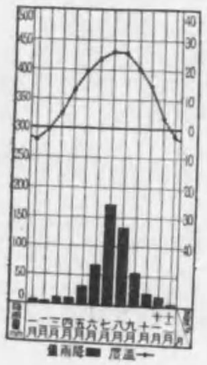
南京の埠頭

**北平**　北平は舊名を北京又は燕京と稱せられ、舊政府の所在地之は漢口其の他の港も皆同樣である。

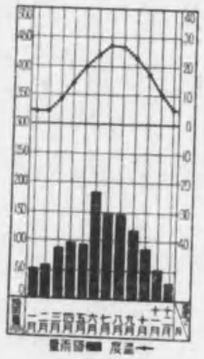
支那の人口の分布

たりし所である。人口は約百三十萬、北寧・京漢・京綏等の諸鐵道が輳集し、陸上交通の中心地をなしてゐる。市街は支那特殊の堅固な煉瓦の城壁を以て圍まれ、内外の二城から成つてゐる。内城は北部にあつて、略々正方形をなし、周回凡そ二十六粁餘、其の周圍は高さ約十五米の城壁を以て圍み、中央には明朝以來の壯大なる舊皇城（紫禁城）を始め諸官衙あり、外部と通ずる爲めには九箇の門がある。

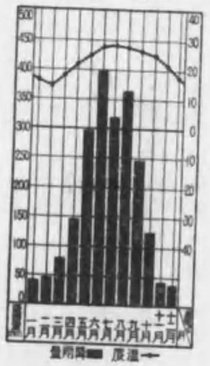
天津の氣候



上海の氣候



香港の氣候



次に外城は周回十八粁餘、内城の南に連なり略々長方形をなし、城壁（高さ七米）には七門を備へ、商業地區をなしてゐる。尚ほ外城の南方には元朝以來の皇帝の天を祭れる大理石造りの天壇、農業の神を祀つた先農壇の遺跡があり、更に其の北西部には圓明園・萬壽山等の名勝の地がある。

## 【支那本部】

### 一　農業・工業・牧畜

支那本部は人口分布圖によつても分るやうに、支那本土中、最も人口稠密なる地域にして、その人口總數四億を超え、支那の總人口の九割餘を占めてゐるが、其の大部分は支那平野に居住して、農業に從事してゐる。併しながら氣候が各地によつて相違するがために、其の農産物の分布も亦自ら相違してゐる。卽ち支那平野の北部、北平・天津等を中心とする地域は、雨少く寒暑の差が甚だしいので、主要農産物としては麥・豆・高粱等を多く産し、又平野の南部、揚子江及び珠江の流域附近は氣候が濕暖で、且つ雨量も多いので、米・茶・繭等の産額が多く、殊に揚

支那の米・高粱の分布

支那の小麥の分布

子江の流域からは、此の外、綿・麻等の產出も尠くない。

隨つて是等の各地には製絲・製茶等の工業が發達し、就中上海では綿絲紡績等が盛に行はれ、我が國人の紡績工場も其の數三十箇を超えてゐる。

輸出品の主なるものは、生絲・絹織物・茶・豆粕・豆類・棉花・胡麻・種子等で、中でも生絲・絹織物・茶等は支那の主要輸出品に數へられ、多く上海・廣東・香港等から積出される。

尙ほ牧畜業も盛で、殊に北部山地の方は、雨量少く、牧草の成長にも適し、其の上農耕不便であるところから、斯業に從事するものが多い。家畜の種類は所によつて異なるが、其の主なものは、豚・牛・馬・羊・駱駝・驢・騾・鷄等で、鷄卵は我が國にも澤山輸出されてゐる。

**香港**　香港は珠江の川口、廣東灣の入口にある周圍僅かに四十三粁（長さ十八粁、幅三粁乃至五粁）に過ぎない小島で、其の北岸に沿ふてビクトリヤと言ふ首府がある。（插繪參照）此の島は、元樹木もなき單なる一岸島に過ぎなかつたものであるが、一千八百八十三年阿片戰爭の結果、南京條約によつて英國の領地となり、其の直轄植民地となるに及んで、英國は此の島の開發に力を用ひ、樹木を植ゑ、山腹を破つて市街を設け、衞生の設備を整へ、各種の施設をなして、今日の如き活況を呈するに至らしめたのである。其後英國は、其の對岸なる九龍半島の南端に六方粁の地を得、その後更に之と隣接せる租借地を得るに至り、此の地にも、亦次第に繁華なる市街を形成しつゝある。

第八　アジヤ洲（亞細亞洲）

香　港

本港は歐亞・南洋航路の寄航點にして、英國の東亞に於ける軍事、貿易上の中心地をなしてゐる。主なる貿易品は、石炭・銅・燐寸・米・阿片・砂糖・綿絲・綿布・生絲・水產物等であるが、是等は殆んど仲繼貿易に依るものである。我が國の物產でも石炭・銅・燐寸・水產物等の如き、一旦此の地に送つて、再び各地に輸出せられてゐるものが尠くない。尙ほ近年此の地に於ても、紡績・造船・精糖・麥酒釀造等の各種の工業、が次第に盛大に向ひつゝある。

◎插繪の解說

**香港**　圖は香港島の北岸に沿ふて發達せるビクトリヤ市を、正面海上から眺めた光景を寫したもので、後方に見える山は、ビクトリヤ山と言ひ、高さ五百五十米餘あつて、此の山頂に至る爲には、ケーブルカーの設備がある。山の斜面に階段を有して、市街の發達せる有樣に留意させるがよい。本港は、面積十六方粁、水深九米乃至十六米で、世界最良港の一つであり、自由港である。尙ほ港の棧橋には、三萬噸級の大汽船を橫付けにすることが出來る。

## 二　鑛　業

鑛業は支那に於ける最も有望なる產業である。前世紀の中頃までは、支那は極めて鑛物の貧弱な國の如く考へられてゐたのであるが、前世紀の末頃から、其の埋藏量の極めて莫大なることを知られて來たので、世界の主要列國は、其の採掘權を得るために大に努力したものである。されば現在に於ても、其の採掘權の外國に歸屬してゐるものもある。而して支那全土に埋藏せる鑛物の種類は極めて豐富にして、殆んど其の凡てのものを埋藏してゐるが、就中鐵と石炭とは其の鑛量最も多く、其の埋藏量の如何に大なるかは、計り知ることが出來ぬと言はれてゐる程である。鐵・石炭の主なる產地は、主として支那本部にして、尙ほ此の外金・銀等は四川・西藏等の如き高地に產し、石油は陝西・四川・新疆地方に多く埋藏され、銅は雲南に多く產する。

併しながら是等の產地は、現在に於ける產地の代表的な地方をあげたものであつて、廣く他地方にまで擴がつてゐることは言ふまでも無く、又今後之が採掘の進むにつれ、其の鑛域の更に展開し、更にまた新しく發見されることのあるであらうことは、未成の大陸なる支那に於て想像するに難くない事柄である。此の意味から言つて支那の鑛業の前途は、尙ほ無限であると言ふことが出來る。

**鐵鑛**　支那は古くからよく鐵を採掘してゐたのであるが、其の採掘の方法が拙劣であつた爲め、清時代に於て一旦之を中止されるに至り、殆んど鐵鑛の所在さへ忘れられてゐたのであつたが、今日では再び鐵の採鑛に力を致し、殊に他の文明諸國に於て、此の事業に投資せるものも尠くない。今其の主なる鑛山を示せば、現在支那第一の鐵山なりと言はれてゐる湖北の大冶鐵山及び山東にある金嶺鎭鐵山。安徽の桃冲山鐵山等であるが、尙ほ此の外、山西・直隸・江蘇・湖南・四川・福建・廣東等の諸地方にも鑛山があつて、鐵鑛の埋藏量大なるものがある。

**大冶鐵山**　漢口の南東、揚子江の南にある鑛山にして、支那第一の鐵山である。鐵の埋藏量頗る豐富にして、毎年百萬噸宛採掘しても、尙ほ數百年間持續することが出來ると稱せられてゐる。含鐵量は六割五分で、良質である。我が國は明治三十二年に、大冶の鐵鑛との交換條約を協定し、毎年三十萬噸餘の鐵鑛を輸入して、八幡製鐵所で製鍊してゐたが、近年は餘り來ない。

**石炭**　石炭も其の埋藏量の大なる事に於ては世界第一であると言はれてゐる。多數にある炭坑の中其の主なるものは天津の北東にある開平炭坑と、大冶の南にある萍鄕の炭坑である。此の外山東省にある淄川の炭坑、山西の諸地方にも埋藏量が多いが、未だ充分に採掘されてゐない。

**製鐵業**　本地方には上記の如く、鐵・石炭等の產出が多いから、隨つて製鐵業が營まれて居る。中でも漢口の對岸にある漢陽の製鐵所に於ては、大冶の鐵鑛を原料とし、萍鄕の石炭を燃料として、盛に製鍊してゐる。

◎挿繪の解說

**漢陽にある製鐵所と漢口**　本圖は製鐵所の南方大別山の丘陵上から、製鐵所を見下した光景を示し

たものである。此の製鐵所は、漢冶萍煤鐵公司の經營になるもので、日支合辨である。圖の中央部に煙突の見える所は其の工場で、左方に見える川は漢江（揚子江の支流）である。尙ほ此の川の向ふに見える市街は、漢口の市街の一部で、漢陽の市街は製鐵所の手前にあるから、圖には現はれてゐない。

漢陽にある製鐵所と漢口

### 三　交通・貿易

**河川交通**　支那には「南船北馬」と言ふ言葉があるが、全くその通りで、北部一帶の高原地方は多く馬、駱駝等を用ひて交通の具となし、又南部大河の流域附近は、船によつて其の交通を助けつゝある。支那の河川交通の如何に便なるかは、教科書九十頁に出てゐる挿繪「漢口と揚子江」及び「上海港」並に百四頁の「揚子江の上流」等にても、自ら分明する通りである。

**揚子江**　揚子江は北米大陸に於けるミシシッピ川と共に、人文開發上に偉大なる貢獻をなすことに於て、世界の大双璧と稱せられてゐる。源はチベット高原内に發して幾多の支流を併合し、印度支那山系に沿ふて一旦南流し、更に支那本部に入つて東流し、東支那海に注ぐ大川にして、其の流程は約五千二百粁、流域面積は百七十七萬五千平方粁に及び、シベリヤのオビ川、エニセー川と共にアジヤ第一の長流として知られてゐる。本川は江口より約二千五百粁の上流まで汽船を通ずる事が出來、又江口から約一千粁の地點にある漢口までは、海洋を航行する汽船も自由に往來する事が出來る、故に此の川は支那の一大血管とも稱さる可き重要なる川である。

**運河**　支那の水路交通に於て、河川の交通以外に、大運河のあることにも注意す可きである。其の最も大なる運河は、浙江省の杭州府に起つて、揚子江竝びに黄河の下流地方を貫き、天津に至つて白河に通ずるものにして、長さ一千三百二十米、幅二十七米乃至百八十二米に及び、深さ三米餘に達し、其の長大なること世界第一と言はれてゐる。

此の大運河は、昔隋の煬帝が、其の帝都たりし長安（西安）から船を浮べて、南漢に遊ばんがために開鑿せるものなりと言はれてゐるが、必ずしも其の目的のみによつて計畫されたものなりと考へることとは出來ない。支那は斯樣に大なる運河を有するが故に、若し此の運河にして開鑿當時の如く、完全なる水路たらんか、實に平漢・津浦の二鐵道と共に、支那本部の南北を連絡する重要交通機關たることを得るのであるが、遺憾ながら現在は諸所河道塞がり、大船の通行し能はざる處が多いがために、

揚子江の上流

折角の斯うした大運河も自由に利用することを得ざる狀態である。

◎挿繪の解說

**揚子江の上流**　揚子江は既明の如く、江口より約一千粁の上流にある漢口までは、三千噸級の航洋汽船も自由に通ずることが出來るが、更に夫れから七百粁の上流にある宜昌迄は、千噸内外の汽船が溯航してゐる。而して宜昌の上流は有名なる三峽（宜昌峽・牛肝馬肺峽・米倉峽）となるので急に小蒸汽船は夫れを經て重慶に至り、更に叙州迄溯る事が出來る。現に一千九百十一年五月には我が伏見・鳥羽の二艦が此の峽流を經て叙州まで溯航したことがある。圖は卽ち其の三峽附近の景觀を示したものである。

**陸上交通**　支那の鐵道總延長は、一萬三千八百粁（列國々勢要覽）であるから、面積百方粁につき僅か百米に過ぎない。而して支那本部に於ける鐵道幹線は、揚子江及び其支流等によつて横の交通を助けてゐる關係もあつて、多くは南北に通じてゐる。其の中で北寧線（英國の出資）と、平漢線（日・英・白の出資）とは共に北平に起り、北寧線は山海關に於て、滿洲國の奉山線と連絡し、平漢線は漢口に至つて其の對岸の武昌を起點として南に向ふ粵漢線（英・米・佛の出資）と連絡を保つてゐる。此の粵漢線は將來漢口と廣東とを連絡する豫定のものである。又津浦線（英の出資）は北寧線の要驛天津に起つて南方に向ひ、揚子江下流の浦口に至つて、其の對岸の南京から上海に至る滬寧線（英國の出資）と連絡してゐる。

尙ほ此の外主なる鐵道は、膠州灣沿岸の靑島に起つて西方に向ひ、濟南に至つて津浦線に連絡してゐる膠濟線（元獨逸の資本で建設したもので、日獨戰爭の結果日本が之を占領し、支那に讓り渡したもの）、並に北平に起つて北西に向ひ、萬里の長城を過ぎて內蒙古に出で、綏遠に達する平綏線等がある。

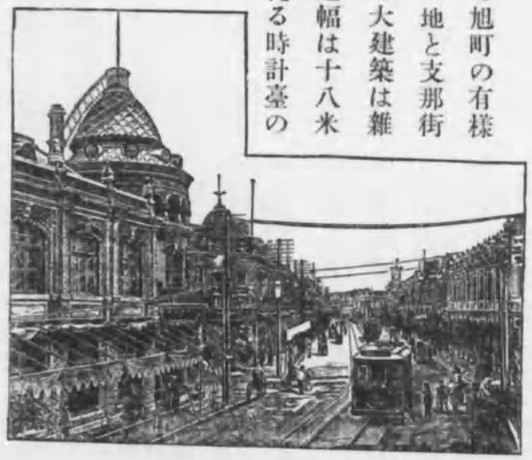
**天津**　天津は、北平の南方白河と大運河との會合する地點にあり、こゝより白河に添うて約七十四粁を下れば、白河の河口卽ち渤海灣に至ることが出來る。されば水運の便利なることは言ふまでも無く、また陸運に於ても、津浦線と北寧線との連結點に當れるが故に、南北交通の要路に當り、頗る發展的位置を占めてゐる。故に冬期白河の水が氷結して、約三ヶ月餘は舟楫の便を失ふこともあるが、それでも猶ほ北支那に於ける第一の貿易港である。

輸出品の主なるものは、豆粕・棉花・羊毛・駱駝毛・磚茶・石炭等にして、またこゝより輸入するもの

ゝ主なるものは、綿布・綿絲・砂糖・石油等である。而して其の取引國は日本及米國等が主なるものである。市街は北平と同じく、もと城壁を廻らしてゐたのであつたが、彼の明治三十三年に起つた、北清事變の際に破壞せられて、今日では僅かに其の跡を止めるだけである。人口は約八十萬（中本邦人は四千餘）である。

◎插繪の解說

**天津の日本居留地**　圖は天津に於ける我が日本居留地の旭町の有樣を見せたものである。我が專管居留地は英・佛・獨の居留地と支那街との間にあつて、通商上頗る便利な所である。圖の左側の大建築は雜貨店で、中央に電車があり、兩側が步道となつてゐて、道幅は十八米餘あり、內地の大都會と少しも變らない。圖中遙かに見える時計臺のある所は我が天津總領事館である。



天津の日本居留地

**海上交通**　支那本部は海岸線の出入に乏しく、爲めに良港が少い。海岸に面する主なる港として擧ぐ可きものには、北部の山東半島の南頸部にある青島と、南部の廣東灣にある香港があるのみで、其の他の良港と言はれる天津・上海・漢口・南京・廣東等は、何れも河港である。勿論此等の港は、河港とは言へ、海上航行の汽船も自由に出入するので、海上交通の要地たることは言ふ迄もない。中でも上海・香港の二港は、我が橫濱・神戶の二港と共に、本洲の太平洋方面に於ける交通及び貿易の一大中心地である。

【備考】漢口と上海に就ては、アジヤ洲總論の插繪の解說を又南京港に就ては、支那の區域、香港に就ては、支那本部の產業のところを各參照されたい。

**青島**　青島は山東半島の南岸に面する膠州灣頭にある。此の灣岸一帶の地域は、元獨逸が支那から租借してゐたものであつて、獨逸は此の地を東洋に於ける勢力發展の根據地としてゐたのである。卽ち獨逸は此の地を租借するや、先づ灣頭に青島市街を建設し、港灣を經營し、學校を建て、濟南との間に濟南線を布設し、其の沿線の鑛山權を收めて、之が採掘に從事する等、頗る力を盡したのであつたが、彼の世界大戰の結果、大正三年我が日本軍の攻略する所となり、後大正十一年に我が國は之を支那に還附し、濟南沿線に於ける鑛山は、日支合辨によつて採掘することになつたものである。現在人口は約十五萬（中、內地人は二萬餘）。邦人經營の小學校・中學校あり、大阪・神戶等からは直通の航路が開け、綿絲・綿織物等を輸入し、又我が國には落花生・牛等を輸出する。

青島の市街の圖

青島

◎挿繪の解說

**青島**　圖は、青島市街を、市の南東にある八幡山上から眺めた所を示したものであるが、甚だ不鮮明である。圖の中央に於て、道路の直角に交つてゐる附近に日本居留地があり、其の手前稍々右方に警察廳があり、更に其の向ふ道路を隔てゝ青島驛がある。左端の海は青島灣であるが、青島の棧橋は、今少し左にあるので圖には現はれてゐない。此の畫の原據は青島守備軍司令部に於て、大正七年に撮影されたものであつて、現今は、もつと家屋の數が増してゐる。

**廣東**　珠江の江口北岸に位して、香港から汽船で七、八時間の航程にある。一に廣州とも云ひ廣東省城のある所にして、我が國に於ける長崎の如く、支那の最も古き歴史を有する貿易港である。近時香港の發展と共に、其の貿易やゝ衰微せるの感はあるが、併しながら尚ほ南支那に於ける貿易の中心地にして、天津・漢口・上海と共に支那に於ける重要なる開港場である。殊に此の地方は氣候暖かく、土地肥沃にして、各種の産物に富むが故に、やがて粵漢線の全通するに至れば、香港の所謂中繼貿易を脅かすに至るのみならず、遠く上海の商域をまで侵すに至るであらうことは、今より考へ得らるる可きことである。

廣東

廣東の人口は約五十萬と言はれ、或はまた二百萬とも稱されてゐるが、最近の英國政府年鑑によると約九十萬なりと言はれてゐる。支那には確實なる統計が存しないのであるから、明確なことは分らないが、約百萬と見れば大體間違はなからう。輸出品の主なるものは、生絲・絹織物・茶・蓆等の如きものであるが、就中生絲は、其の大部分を占めてゐる。之は卽ち此の附近一帶の氣候が暖かく、且つ雨量が豐富であるから、蠶の發育に適し、其の飼育盛なのに原因するものである。尚ほ輸入品は、米・麥・綿絲等がその主要なるものである。本港に出入する船舶中最も多きを占めるものは、英國船であるが、尚ほ其の外、佛船・獨船等も其の多數を占めてゐる。

◎挿繪の解說

**廣東**　圖は主に廣東の沙面と稱する部分を現はしたもので、中

央の川は珠江である。珠江の右岸に見える市街が廣東であつて、左岸は河南である。水面には大小の船舶が輻輳してゐるが、中で無數に浮んでゐる小舟は支那の所謂ジャンク船で、廣東はジャンク船の多い事では支那第一と言はれてゐる。卽ち、廣東市民の約十分の一（拾萬餘）は此のジャンク船の中に起臥し、船中に家庭を營んでゐると言ふ事である。

**【蒙　古】**

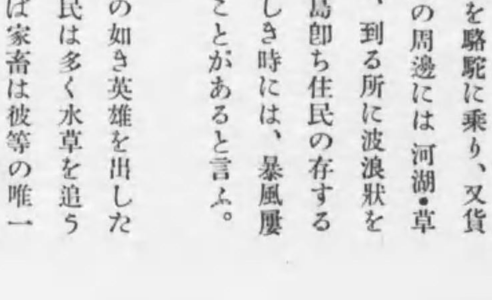
**一　區域・地勢**

蒙古は支那の最北部に位する廣大なる高原で、東は滿洲に接し、西は新疆省に續き、南は萬里の長城を以て支那本部と境し、北は露領シベリヤと相連つてゐる。其の地形は東西に長く、南北に短く、總面積は約三百五十四萬二千百方粁に及んでゐるが、人口は至つて尠く、僅かに百八十萬餘に過ぎない。

氣候は概ね大陸性で、東部は滿洲の氣候と大差はないが、興安嶺以西は寒暑共に激しく雨量が尠いので、其の中央部には、全地域の約三分の一を占めるゴビ沙漠が、東部から北西部に向つて長く横はつてゐる。蒙古は此の沙漠によつて二分され沙北を外蒙古・沙南を內蒙古と呼んでゐる。

◎挿繪の解說

**ゴビ沙漠と隊商**　圖は蒙古全地域の約三分の一を占めるゴビの大沙漠（蒙古人は之を戈壁と言つてゐる）の景觀を見せたもので、今隊商が此の沙漠中を駱駝に乘り、又貨物を載せて通行してゐる所である。此の沙漠は其の周邊には河湖・草木等があるが、內部に於ては殆んど之を見られず、到る所に波浪狀を呈する砂丘が連なつてゐる。但し支那人の所謂砂島卽ち住民の存する處も諸所に點在してゐる。秋冬の候寒暑の差甚だしき時には、暴風屢々起つて砂塵を卷き上げ、隊商を生き埋めにすることがあると言ふ。



ゴビ沙漠と隊商

**二　住民・產業**

住民の多くは蒙古族にして、嘗つては成吉思汗の如き英雄を出した事もあつたが、今は其の頃の面影は更になく、住民は多く水草を追うて轉住し、牧畜を其の主要生業としてゐる。されば家畜は彼等の唯一の財產で、人に逢へば先づ家畜の狀況を語る程であると言ふ。主に羊・牛・豚・馬・騾・驢等を飼育し、皮類・羊毛等が主な產物になつてゐる。併しながら內蒙古の東部及び南東部の地域には、近年漢人種の移住するものが次第に多くなり、定住して農業を營むものが增して來た。

◎挿繪の解說

**蒙古人の住家**　蒙古人は、支那人との雜居地では、滿洲地方と殆んど同樣の土藏又は煉瓦造の家屋に

蒙古人の住家

住んでゐるが、其の他は大抵蒙古包と稱する絨氈製の移動式のものを用ひてゐる。圖は半移動式の蒙古包を示めしたもので、繪に見る如く頗る簡單なものである。入口に立てるは蒙古人で、服裝は支那人の夫れに似てゐるが、其の色彩は紅・紫・黄・青等の華美のものを好んで用ひる。而して一度新調したものは、捨てるまで決して補修・洗濯等をなさないと言ふ事である。

**【我が國との關係】**

**一　文化關係**

我が國が學問・工藝其の他に就いて、古來支那文明の影響を受けてゐることの尠なからざる事は、一度歴史を繙けば、自ら明かなる所である。卽ち今日の如く、西洋文化を吸收する機會の無かつた時代に於ては、我が國は常に隣邦支那の文化を吸收して發展して來たのである。勿論現在に於ても皆無と言ふわけではないが、今日では日本文化の程度が高くなり、寧ろ却つて日本文化を以て支那を誘導するの優位にあることは、洵に喜ぶ可き現象と言はなければならぬ。

**二　貿易關係**

現在我が邦人の支那に在留するもの五萬餘を算し、山東省をはじめ、各地で商業・工業・海運業等に從事して居り、彼我の交通・貿易も益々發達し、我が國は支那から、豆粕・大豆・綿等を輸入し、我が國よりは、綿織物・砂糖等を輸出してゐる。輸出と輸入とを比較すると、我が國からの輸出が多くて彼からの輸入が少ない。而して我が國の取引先としては、その第一に位するのは、北米合衆國で、之に次ぐのは支那である。日本の總說の「貿易」のところに掲げたるグラフ「主な貿易取引先の貿易額の比較」を參照されたい。

**指導の過程**

◎配當時間―四時間

**第一時限**

1　兒童は、最近に於ける日支間の事變等と關聯して、又國史の學習などと結合して、支那に對しては、相當の智識を有してゐる筈であるから、本時は、先づさうした兒童の既有智識を整理する事が、一つの仕事でなくてはならない。

2　次に現在支那、卽ち中華民國と言はれてゐる地域は、どれだけの境域を言ふか、その位置、特に我が國との關係的位置はどうか、等に就て世界及び極東地圖を直觀せしめながら指導する。

3　次に世界主要諸國の面積、並に人口比較圖又は比較表等を提示して、支那の面積の廣大にして、人口の多數なる事實を知らしめ、國勢の强弱が、必ずしも面積・人口の大小に起因せざることを知解

せしむ可きである。

4　支那の行政區分圖により、行政區劃の大要を明かにし、且つその首府「南京」及び舊首府「北平」に就ては、支那に於ける南北の政治上の中心地として、挿繪並にその擴大圖、その他の直觀方便物を用ひて、說話しておくがよい。餘り詳說の要はないが、その發達理由・特色等の大要は、知解させなくてはならぬ。

5　次にまた既習のアジヤ洲の總論に於て、大觀的に學習せしめたる事項と關聯的に、支那本土の地勢・氣候・交通・都邑の分布狀況等を概觀的に讀圖せしめ、是等から綜合して、支那本部が、最もよく文化の開發されてゐることに想到させ、且つ自然と人文との密接なる相互關係を、想はせることが大切である。尙ほ此の際、等溫線圖・海流圖・雨量圖・產業分布圖等を活用すると、一層此の間の消息が明かになる。

6　尙ほ右によつて、支那の心臟部とも稱す可きは、支那本部なることを明かにし得たならば、此の地域が又我が國と、最も密接なる關係を有する處なることを、地理上から說明し、その故に此の地域に就て、特に調べる旨を語り、支那本部の擴大圖を提示して、更に第二段の學習に入る。

7　先づ支那の總人口の九割以上が、支那本部に居住してゐる事實を、本書に揭げたる如き支那の人口分布圖等によつて明かにし、その何故然るかを、前記第(5)項の學習と結合して、明かにす可きである。

8　斯くて、支那本部の農產物に就て北部黃河流域以北、及び中部揚子江流域附近、南部珠江流域附近等の三大別によつて、その分布狀況を、產業分布圖等によつて大觀させる。

9　右の學習の結果、農產物の分布が、各種類によつて、相異を來せるのは、何故なるかを、特に各地の氣候の上から、推究的に學習せしめる。

10　主要農產物の分布狀況は、白地圖を與へて、之に圖示させる所の作業を課すと、一層敎育効果は大である。

**第二時限**

1　本時は前時の繼續として、支那本部の工業・牧畜・鑛業等に就て學習せしめる。

2　元來支那の產業は、前時の學習によつても明かなる如く、農業が主であつて、未だ工業國ではない。寧ろ工業原料國と言つてよい。然し近時揚子江流域、及びその南方に於て、次第に製絲・製茶・綿絲紡績・絹織物業等が發達して來てゐる。——勿論是等も、外人の經營（我が國人も上海等に大いに活躍してゐることに留意させる）になるものが尠くないが——故に此の點に注意させ、天與の資源が如何に豐富でも、之を運用する人の力が微弱では、產業の發達は望まれないことを理解させると同時に、資源豐かな支那の工業の將來に對して、大いに注目させることが肝要である。

3　牧畜に就ては、各家畜の分布の狀況を、分布圖等によつて直觀させ、その飼養方法等に就ても、各地の樣相を知らせるがよい。殊に鷄卵など、我が國に澤山輸入されてゐるから、是等の事柄にも觸れておきたい。

4　尙ほ工業製品の積出港（上海・廣東・香港）に就ては、玆で敎科書の揷繪、その他の直觀物を用ひて、あらかじめ指導しておくがよい。

5　次に鑛業に就ても、工業と同樣、むしろ現狀よりも、その將來に注目させておきたい。種類の多きこと、埋藏量の豐富なることに於ては、現に世界人のひとしく注目しつゝある所である。今日採掘されてゐるのは、その一部分に過ぎないが、夫れでも尙ほ且つ著名なる鑛山が尠くない。是等の鑛山の分布・種別・現況等は、詳說の要はないが、尠くとも敎科書に出てゐるものぐらゐに就ては、無論明かにしておかなくてはならぬ。殊に我が國と、その經營上並に需給關係に於て、交涉を持つ鑛山に就ては、一層然りである。

**第三時限**

1　本時は支那の交通・貿易に就て指導する。而して支那の交通・貿易に於て、その大動脈をなせるものは、揚子江であるから、先づ揚子江を中心として、その沿岸の諸港市及び是等と北部・南部の主要都市を結ぶ鐵道線路を明かにするがよい。

2　支那の大動脈たる揚子江の利用價値は、如上の學習中に、自ら明かになるであらう。尙ほ揚子江の取扱ひには、國語讀本卷八、第五課「揚子江」を參照するがよい。

3　交通の指導に於て、忘れてならないことは、常に我が國と、關係的に考察させると言ふことである。而して、水陸交通の何れを問はず、その指導の內容は、餘り深入りしてはならぬ。

4　都邑に就ては、別に記載してはないが、敎科書に出てゐる（既習のもの以外）都邑に就ては、その實況を示す繪畫・寫眞等を利用して、簡單に說話しておきたい。

5　尙ほ若し時間が許すならば、支那の略圖を描かしめ、夫れに主なる河港並びに海港、又は運河・鐵道線名等を記入させ、我が國の航路のうち、支那の何れにか、直航乃至寄港するものを、航路案內等によつて調べさせ、凡そどれ程の時日を要すれば、支那の上海なり、或は漢口なりに到着し得るかを研究させて見るがよい。

6　尙ほ又貿易に就ても、殆んど敎科書には、記載してないが、產業の項と結合して、輸出入品の主なるもの、及びその輸出入港等を明かにするがよい。而して此の際、支那の貿易に關する最近の統計表を提示して、之を我が國の夫れと對比的に取扱ひ、同時に彼我の貿易關係を示す圖表を提示して、相互關係を明かにしておきたい。

**第四時限**

第八　アジヤ洲（亞細亞洲）

1　本時は、支那本部の北方にありて、又我が友邦滿洲國と、境を接する蒙古に就て、其の大體の地理を授け、且つ又我が國と支那との關係を、明かにする意圖に於て指導し、同時に本課の整理統括を營みたい。

2　蒙古については、挿繪の擴大圖等を用意して、夫れ等を中心として、說話するがよい。而して同じく蒙古でも、內蒙古は、特に我が國と關係深い處であるから注意を要する。又外蒙古が、ロシヤの勢力圈下にある事實も、何かの序に話しておいてもよからう。

3　日支の關係は、是を歷史的に觀ても、亦現在の事實から、政治的・經濟的に觀ても、頗る密接なる關係にある。是等の事實に就ては、旣に前時までの學習に於ても、或る程度まで觸れてある點もあるが、更に玆で一括して明かにしたい。

4　尙ほ最後に支那の國情、並にその國民性に就て簡單に言及し、內亂絕ゆる事なき、支那の現狀を招來せる、最も主なる原因は、那邊にあるかを考察せしめて見る可きである。

5　而して其處から延いて、明治維新以前に於ける我が國の有樣を想はしめ、且つ皇恩普ねき今日の我が國の有樣と比較して、聖代に生れたる我等國民の、如何に幸福なるかに想到させるがよい。

6　又支那の國民性に就ては、我が國民性と比較考察せしめ、彼の長を取り、我が短を補ひ、且つ彼の短所に就ては、我が國民の反省の資にするやう指導することも忘れてはならない。

【注意】　如上の取扱ひに於て、注意す可きは、人間の通弊として、弱國民は之を輕視する傾向の存するものであるから、さうした觀念を兒童の腦裡に植え付けないやうにすると言ふことである。寧ろ我が國民は、支那國民と共に相助けて、東洋平和のために努力す可き重任あることを、自覺せしむ可きである。

## 四　シベリヤ

### 指導の主眼

アジヤの北部に在るロシヤの大領地なることを明かにし、その面積・人口・地勢・氣候等の大要を授けて、該地域に開けたる產業・都邑・交通等の狀況を知らしめ、是等と我が國との政治的・經濟的・軍事的諸關係を理解せしめるのが、本課指導の主眼である。

### 環境の整理

世界全圖—東亞地圖—シベリヤ地勢圖—同交通圖—同產業並びに人口分布圖—等溫線圖・雨量圖—バイカル湖・凍原・馴鹿・ウラヂボストック・イルクーツク・ノボシビリスク・オムスク等の實況並にシベリヤ土人の風俗・習慣等を示す繪畫・寫眞・繪葉書の類。

### 指導事項の吟味

#### 一　總說

1　所屬……ロシヤ(ソビエト聯邦)に屬する
　第八　アジヤ洲(亞細亞洲)

2　面積……我が國の十九倍（約二二〇〇萬方粁）人口は七分の一（凡そ一〇〇〇萬）

**二　地勢・産業**

1　山……大體南が高く、北に向つて次第に低い平地

2　川　北極海に入るもの……オビ・エニセー・レナ等
　　間宮海峽に入るもの……黒龍江

3　湖……バイカル湖―世界最深の湖

4　平地　北部……一年中大てい凍結してゐる凍原
　　中部……一帶の森林地で、未だ開けない
　　南部……平地の部分は地味が肥えて、夏の氣温が割合に高いので、移民次第に增加

5　南部の産業　平地……小麥の耕作、牛・羊等の牧畜盛
　　山地……金・銀の鑛產物が少くない

6　近海（太平洋方面）の水產業
　　世界の大漁場として名高く、夏季我が國人の出漁する者も多い
　　(イ)主な漁獲物……さけ・ます・たら・かに等
　　(ロ)沿海の川からも、さけ・ますがとれる
　　(ハ)

**三　都邑・交通**

1　ウラヂボストツク……日本海に臨むシベリヤの門戶、敦賀との間に定期航路

2　シベリヤ鐵道……ウラヂボストツクを起點とし、北滿鐵道に連絡し、シベリヤの南部を通り、歐洲の鐵道に接續する世界交通の幹線

3　其の他……シベリヤ鐵道に沿つて、イルクーツク・ノボシビリスク・オムスク等の都會がある

## 教材の敷衍

### 一　總說

本地方はソビエト聯邦卽ちロシヤの領土に屬するもので、アジヤ大陸の北部にある廣大なる地域を占め、南は黒龍江、アルタイ山脈等を以て支那と境し、北は北極海に面し、東は太平洋に臨み、西はウラル山脈によつて本國と連なつてゐる。其の面積は一千二百九十四萬方粁餘あり、支那より遙かに大きく、我が國の約十九倍にあたつてゐる。されど本地方は、位置北極に近く、極寒の地が多いから、生物の居住に適せざる所多く、また未開の地も尠くないから、其の人口は極めて少く、其の總數約一千八百五十萬と稱せられ、一方粁につき僅二人に滿たない有樣である。住民の多くはスラブ族・ギヤリーク族・ツングース族・フィン族・蒙古族・サモエード族等であるが、就中最も勢力を有するものはスラブ族である。スラブ族は人口七百萬を超え、多く南部のシベリヤ鐵道沿線、及び西部の地に居住してゐる。

### 二　地勢・産業

地勢は大體に於て、東部及び南東部が高く、北西に向ふに從つて次第に低くなり、遂に一帶の平地をなし、所謂シベリヤ平野をなしてゐる。されば川は何れも南から北に向つて流れ、北極海に注いでゐる。其の主なるものには、レナ川・エニセー川・オビ川等があるが、唯一つ黒龍江のみは東に流れて間

宮海峽に注いでゐる。又シベリヤ平地の西にはウラル山脈があつて、ヨーロッパとアジヤとの境界をなしてゐるが、傾斜が緩であるから、兩地の交通を妨げることは尠い。

尙ほシベリヤは、其の面積頗る廣域に亘つてゐるがために、地勢及び氣候等の關係から、之を高地帶・草原帶・森林帶・凍土帶の四帶に分けて考へることが出來る。次に其の各地帶に就いて簡單に說明して見よう。

**高地帶**　高地帶とは東部及び南東部の山岳又は高臺附近を言ふので、其の中にはアルタイ山脈・サヤン山脈・ヤブロノイ山脈・スタノボイ山脈等が相連なり、又世界最深湖の稱あるバイカル湖（面積三萬三千方粁に及ぶ淡水湖で、水深は一千五百二十三米）も本地帶内にある。本地域内には、金・銀・石炭等の鑛脈に富み、就中バイカル湖の北東にあるボタイボ、及び黑龍江の支流ゼーヤ川流域は、金産地として知られてゐる。尙ほ北樺太から石油及石炭を產し、東岸のオハ附近の油田、西岸のヅエ附近の炭田は、本邦でその採掘權を得てゐる。

**草原帶**　草原帶と言ふのは、オビ川、エニセー川等の上流地方、北緯五十五度以南の地に開けた廣大なる平原の事で、氣候溫暖にして地味肥え、農業・牧畜に適し、麥・大豆・馬鈴薯等の產多く、シベリヤの穀倉の稱ある所である。尙ほ此の附近の草原には、牛・馬・羊等の放牧が行はれ、羊毛・バター・皮革等の產出が多い。而してトムスク・オムスク等は是等農產物の中心市場になつてゐる。

**森林帶**　草原帶の北部卽ち北緯五十五度より六十五度に至る松・樅・落葉松等の、針葉樹の密林におほはれたる地域を言ふのであつて、未だ開發されず、人烟頗る稀である。冬季は寒氣頗る激しく、氷點下四十度乃至四十五度に下る事が少くない。されば殆ど、人類の住居としては適しないが、狐・貂等の毛皮獸が棲み、是等の狩獵を目的として、土人及びスラヴ人等の入り込む者が多い。

凍原ととなかい

**凍土帶**　北極海に面せる方面を言ふので、北緯六十五度以北の地である。其の海岸附近は、地下百數十米も凍結し、夏季に至れば、其の外面、僅かに一米足らずが氷解して、一面の沼澤となり、僅かに蘚苔の生ずる位に過ぎない。特にレナ川の下流附近は世界の極寒と稱せられてゐる。

尙ほ此の地域は斯樣に、地下百數十米も凍結する爲めに、往々彼のマンモス象の如き、前世紀の動物の遺骨が掘り出されることがあると言ふことである。之は恒久に地下が氷によつて鎖されてゐるがためである。

◎挿繪の解說

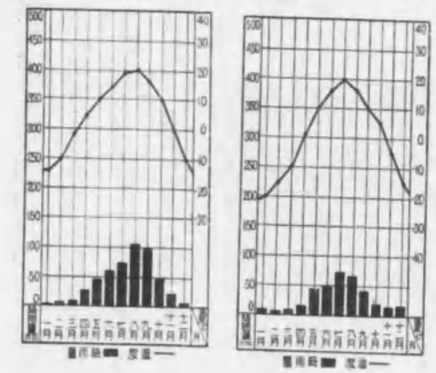
**凍原ととなかい**　圖は前述の凍土帶の景觀を示したもので、滿目荒

涼たる中に逍遙してゐるのは馴鹿である。馴鹿は夏季の候、僅かに生ずる蘚苔を食物として生存するもので、身長は一米七乃至二米、高さは一米一位のものである。

**水産業**　太平洋方面に面せる近海に、さけ・ます・たら・かに等の漁場多きことは、既に北海道竝に樺太地方・日本の總説等の項でも明かにした通りであるが、而も之が發展のためには、我が國人の力が預つて大である。卽ち現在我が國は、日露漁業協約に基いて、此の沿海附近の漁業を經營する權利を有してゐるが故に、我が國民の此の附近（主に西カムチヤッカ方面）に出漁するものが甚だ多い。又沿海の川からも、さけ・ます等の漁獲がある。

◎挿繪の解説

**イルクーツク**　イルクーツクはバイカル湖に發するアンガラ川の左岸にあつて、シベリヤ中部の政治・經濟・交通の中心地をなす都會である。圖は其の全景を示したもので、遙かに見える高塔はイルクーツク寺である。此の寺は一千六百九十三年に木材で建設されたもので、二百年前に石造に改築されたものである。市内の家屋は圖に見る如くすべて木造になつてゐるが、之は附近に木材の豐富なる森林帶を控へてゐるので、材料を得易い爲めであらう。



クツークルイ

## 三　都邑・交通

都邑は多くの場合、交通及び産業の發達と關聯して發達するものであるから、シベリヤ地方に於ても亦、多くシベリヤ鐵道の沿線、或は黒龍江の流域地方に發達してゐる。シベリヤ鐵道の沿線に發達せる主要なる都邑には、ハバロフスク・ポチカルオ・チタ・イルクーツク・クラスノヤルスク・タイガ・ノボシビリスク・オムスク等の都邑があり、又ポチカルオから支線を通ずるブラゴベシチエンスク、タイガから支線を通ずるトムスク等がある。更に黒龍江の川口に面しては、彼の有名なニコライエフスク（尼港）等がある。

右の中トムスク（人口九萬餘）はシベリヤ西部の政治の中心をなし、又イルクーツク（人口約十萬）はシベリヤ中部の政治・交通の中心地をなしてゐる。尚ほハバロフスク（人口約五萬）は黒龍江に臨み水陸交通の要地を占め、シベリヤ東部に於ける政治・交通・商業の中心地である。

尚ほまたシベリヤ鐵道の起點たるウラヂボストック（人口約十一萬）は日本海に面し、シベリヤに於

ける第一の開港場にして、露國の東洋に於ける重要なる軍港である。ウラヂボストックと我が敦賀港との間は、約九百三十粁餘にして、其の間に定期航路の開けてゐる事は既に知られてゐる事實である

ウラヂボストツク港

が、尙ほ我が長崎・小樽港等との間にも定期航路の便がある。

◎挿繪の解說

**ウラヂボストツク港**　圖はウラヂボストック港の市街を、其の南方の半島から見た光景を示したものである。此の地は元支那のものであつたが、一千八百六十年に、北京條約によつて、露國の領有する所となつたもので、露國の東洋に於ける唯一の良港（商港と軍港をかねる）であるが、冬季四ヶ月間結氷するために、碎氷船を用ひなければ船の出入の出來ない不便がある。併し東にムラビヨフ半島、西にアムールスキー半島が突出してゐて、其の中に東西約四粁、南北約一粁の金角港を抱き自然の良港である。圖に見える海は其の金角港である。金角港の中部から東は軍港になつてをり、商港は其の西部にある。

**指導の過程**

◎配當時間―一時間

1　先づ第一に、シベリヤに對する兒童の既有智識を發表させて見たい。最近、我が國及び滿洲と露國の關係は、可なり複雜化し、毎日の新聞紙上等にも、色々な問題が揭示されてゐる。而も、さうした問題の多くは、滿洲及びシベリヤの問題に關聯してゐる。兒童の中には、是等の問題に就て、或は此の他の問題に關しても、多少とも話などを聞いてゐる者があるであらう。

2　次に指導に際しては、シベリヤが軍事上・經濟上、我が國と頗る密接なる關係を存する地方なる事を、充分理解せしめるやう、指導することが肝要である。殊に最近の事態に於て一層その感を深くする。

3　殊に北方カムチヤッカ半島方面は、單にアジヤ大陸に對するのみならず、其の對岸卽ち北米合衆國に對する國防的見地からも、等閑視出來難い地域である。現に米國は、アリューシャン群島中の、ダッチハーバーに軍港を設け、航空隊をおいて、軍事上の根據地としてゐる程である。

4　シベリヤの太平洋方面の近海に於ては、日露漁業協約に基いて、我が國の得てゐる權益も尠くない。此の點に就ても、よき理解を與へておきたい。

5　氣候と産業乃至は人類生活との關係は、シベリヤに於て最も著しく現はれてゐる。平地であり、その中を河川が流れてさへゐれば、産業も發達し、隨つて都邑も交通も發達するものゝ如く說くこ

との、此の地に於て適合せざることに、注意して指導することが大切である。

6　次にシベリヤ鐵道の、本地方に及ぼしつゝある好影響、並びに我が國又は世界交通上に及ぼす影響等について、大體の考察をなさしめて見る事も大切である。

## 五　印　度

### 指導の主眼

印度の位置・面積・人口並にその地勢・氣候・産業狀態等の概要を明かにし、且つ主なる都邑・交通系統（主に海上）等に就て知らしめ、延いて印度が、其の本國（英國）にとつて、如何に重要なる地域に屬するかを想はしめ、同時に我が國との關係を理解せしめるのが、本課指導の主眼である。

### 環境の整理

世界全圖―アジヤ洲地圖―氣候圖―印度の地勢圖―同産業並に人口分布圖―印度棉の栽培・ゴム液の採集・デリー・カルカッタ・ボンベー・コロンボ・印度人の風俗等を示せる繪畫・繪葉書・寫眞の類―印度棉・ジユート麻・リプトン茶・印度藍等の標本―我が國との輸出入關係を示す統計類等。

### 指導事項の吟味

**一　總說**

1　印度の地理的價値と其の位置
2　形狀並に面積・人口の大要
3　首府……デリー（ガンジス川の上流地方にある）

**二　氣候**……大部分は熱帶性の氣候
(イ)　平野……氣温高く暑さが烈しい
(ロ)　山地……北部の山地は一般に氣候が温和

**三　産業**

1　農業……古來印度第一の産業で、住民の大部分は斯業に從事してゐる
主な農産物……米・小麥・綿・ジユート麻・茶・さたうきび
2　牧畜……牛や羊の飼養盛、特に牧牛は世界第一―牛皮の産額も多い
3　鑛業……主なる鑛産物は、石炭と鐵
4　工業……紡績業・織物業共にカルカッタとボンベーに於て盛

**四　都邑**

1　カルカッタ……印度の東部に於ける一大門戸―交通・貿易上の要地―ジユート麻・茶等の輸出が多い
2　ボンベー……印度の西部に於ける一大門戸―綿・小麥等の輸出が多い―陸海交通の要路
3　コロンボ……セーロン島の西海岸にあり、歐亞海上交通の要路―茶の輸出が多い

**五　交通**

1　交通……鐵道は北部の平野に最もよく發達し、川や運河の利用も盛、又航路は内外地に通じてゐる
2　貿易……英本國との間に最も盛、我が國との間も次第に盛になつて來た

## 六　我が國との關係

# 教材の敷衍

## 一　總　說

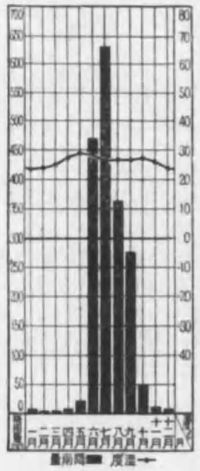
印度は、アジヤ洲の南部に位し、其の北東部はヒマラヤ山脈によつて支那と境し、北部は中央アジヤ、北西部はアフガニスタン・ベルチスタン等に接し、南部は半島狀をなして印度洋に臨み、之をベンガル灣・アラビヤ海に分つてゐる。面積は凡そ三百七十二萬方粁ありて、我が國の約五倍に當り、人口は約三億二千萬を算し、我が國の約三倍以上に達してゐる。斯の如き廣大なる地域と、人口を有し、而も後述の如き諸種の豐富なる物産を有するが故に、印度は英國の領土中最も重要なる國である。

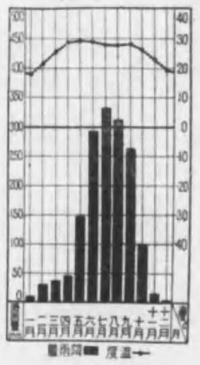
**デリー**　印度の首府にして、印度平野の北西、ガンジス川の上流地域にあり、人口約三十萬餘。鐵道交通の要地にあつて、附近の棉花、穀類の集散地であると共に、金銀細工・刺繍等の美術品を出すので名高い。又往時モゴル帝國の首府たりし所であるから、市の內外は史蹟に富んでゐる。因みに本都は、夏季には暑氣が甚だしいので、印度政府は、北方ヒマラヤ山地のシムラに移る。

## 二　氣　候

印度は地形上之を北部の山地と、中央部の平地・南部の高原（デカン高原）とに分けて考ふる事が出來る。此の中最も開けてゐるのは中央部の平地で、デカン高原も亦大切な印度棉の產地である。

氣候は印度の大部分が熱帶性の氣候に屬し、北部の山地を除くと、氣溫高く暑さが烈しい。雨量は概して豐富で、夏季南西季節風の吹く頃は、マラバル海岸やガンジス川の下流平野、特にアッサム丘陵地は世界最大の降水量を有してゐる。併し冬は反對の季節風が吹き、コロマンデル海岸の外は全印度の降水量が甚だ少い。而して雨季乾季ともに雨の極めて少いのは、インダス川の流域で、こゝにはタール沙漠と、バンジヤブの乾燥地とがある。




**參考附說**

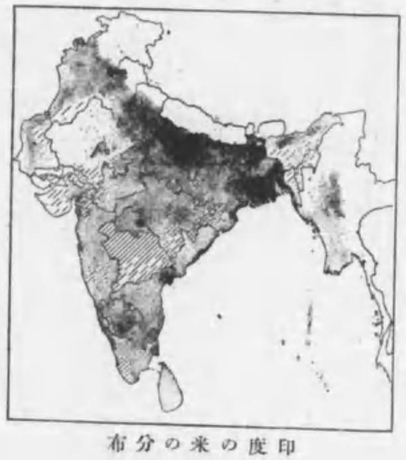
◇カルカツタ外四箇所の氣候

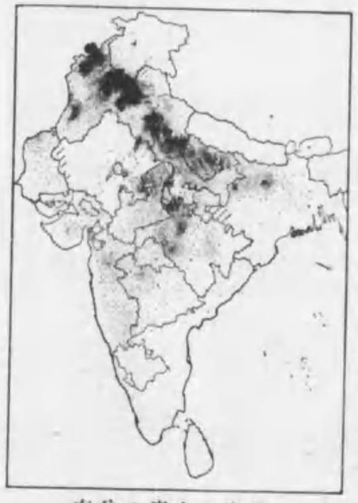
| 觀測地 | 月平均最低氣溫 | 月平均最高氣溫 | 年平均氣溫 | 年雨量（粍） | 六―九月雨量 |
|---|---|---|---|---|---|
| カルカツタ | 一九・二（一月）<br>（十二月） | 三〇・〇（五月） | 二五・九 | 一六一九 | 一二一四 |
| マドラス | 二四・三（十二月） | 三一・一（六月） | 二七・八 | 一二七九 | 三三七 |
| コロンボ | 二六・六（一月）<br>（十二月） | 二八・四（五月） | 二七・五 | 二一四七 | 五三一 |
| シムラ | 四・七（一月） | 一九・七（六月） | 一三・〇 | 一六〇三 | 一二一三 |

ボンベー　二四・〇（一月）　二九・九（五月）　二六・九　一六九〇　一六三九

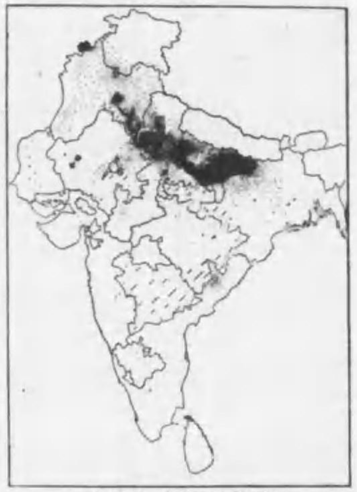
## 三　産業

**農業**　印度の産業中、農業は古來印度第一の産業であつて、住民の七割は之に從事してゐる。主なる農産物は、米・小麥・綿・ジュート麻・茶等である。米の主産地はガンジス川の流域竝びに大三角洲地方で、年三回の收穫があり、其の年産額は三千百萬噸（世界第一）に及んでゐる。次に小麥の主産地は、主に北西部の乾燥地で、其の年産額は一千萬噸以上に及び、世界第五の小麥産地となつてゐる。尙是等の地方では大麥の産出も尠くない。綿は南部のデカン高原を其の主産地として、年産額は五百二十六萬俵、北米合衆國についで、世界第二の産地として知られてゐる。次にジュート麻は主に北東部の卑濕な土地に栽培せられ、其の年産額は一千四十萬俵に上り、世界第一位を占めてゐる。


印度の米の分布


印度の小麥の分布

其の餘剩を海外に向つて輸出してゐる。


印度の大麥の分布

◎挿繪の解說

**茶摘**　本圖は、印度に於ける土人の茶摘みの有樣を示したものであつて、場所は、多分、印度の北東部（ビルマとの境）のアッサム地方の夫れを示したのであらう。土人は多く圖の如き服裝にて、夫々籠を肩にして茶園に到り、茶葉を手で摘み取つて籠に入れ、一杯になると製造場へ運んでは再び茶園に到るのである。此の地域の茶種は、大部分が紅茶であるから、隨つてそ

茶　摘

の製造法も綠茶の如く蒸すことなく、天日と醱酵とを以て製造するのである。卽ち圖の如くして、土人の摘み取つた茶葉は、生葉の儘、莚の如きもの〻上に擴げて、日に乾し、葉を萎凋せしめて、麻袋の如きものに入れて、搓揉し、其の液汁を搾出させて、壓扁して固塊となし、後之を日乾しつ〻醱酵せしめて、甘嗅と芳香を發する樣になつて止め、斯くして紅茶となるのである。

**牧畜**　牧畜は、特にインダス川下流地方に盛で、水牛・牛・山羊等の飼育が行はれ、殊に牧牛の如きは印度の全域に行はれて、其の飼養頭數は一億頭を超え、世界第一位を占めてゐる。隨つて牛皮の產額も尠くない。

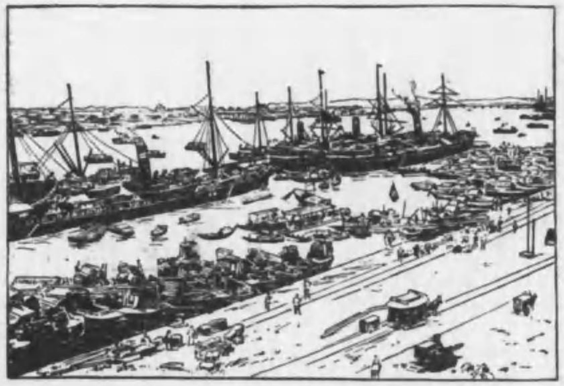
**鑛業**　鑛產物としては石炭・鐵の產額が多く、石炭が約二千百萬佛噸、銑鐵が約九十萬佛噸、鋼鐵が約六十萬佛噸と言ふ概數を示してゐる。而し是等は何れも我が國の年產額よりも尠い。

**工業**　カルカッタとボンベーとは、印度の東西の門戶で、交通や貿易が盛である上に、共に綿絲紡績業及び綿織物業が盛である。之は印度が棉の多產地であることに起因するのであるが、特に綿絲紡績業は、英・獨・佛に次いで盛である。

## 四　都　邑

都邑の中、首府デリーに就ては、前に「總說」の項で述べておいたから、此處には再記しない。又指導の實際に於ても、此處で取扱ふよりも、前に取扱つておく方が、萬事好都合である。て此處には夫れ以外の主なるものに就いて簡單に記述する。

**カルカッタ**　人口約百四十八萬五千餘（一九三一年調査）。ガンジス川の支流フーグリ川を遡ること約百四十粁の處にある印度第一の大都會にして、ガンジス川と海洋航路との連結點に當り、印度平野の大門戶をなしてゐる。市內には大學・博物館・植物園等があり、綿絲紡績・綿布・製麻・製糖等の諸工業が盛である。本港から積出される主なる輸出品は、ジュート麻・茶・米・阿片等で、輸入品の主なるものは綿織物・砂糖・雜貨等である。



カルカッタ港

◎挿繪の解說

**カルカツタ港**　圖はフーグリ川の埠頭から、川を距てゝ對岸のハウラーを望んだ所である。中央に浮ぶ船は外洋航行の汽船で、手前のレールの上を走つてゐるのは馬車鐵道、遙かに




カルカツタの市街圖

見える町はハウラー町である。尙ほ圖の右端、フーグリ川に架せられたる橋は、こゝからバトナ地方へ向ふ鐵橋である。

**ボンベー**　孟買は東岸のカルカッタ港と相對する良港であつて、西海岸の略々中央部、面積五十五方粁餘のボンベー島にある。人口は百十六萬一千（一九三一年調査）、港内水深くして大船の出入に便し、背後に豐富なる棉の産地デカン高原を控へてゐるので、綿絲・綿布の紡績業が盛で、日本郵船・大阪商船等の航路が通じてゐる。輸出品の主なるものは綿・小麥・阿片・菜種等で、輸入品の主なるものは、綿織物・砂糖・石炭等である。我が國に輸入する印度産の綿は多くこゝから積出されるのである。

**コロンボ**　印度の南方セイロン島の西海岸にあつて、歐亞の海上交通の要路に當り、我が國から、ボンベー・ヨーロッパ・アフリカ等に至る諸航路の汽船も此處に出入する。人口は約二十五萬餘。市街には歐風の建物多く、市の東部にあるヴイクトリヤ公園は、熱帶植物の美觀に蔽はれ、園内にある博物館は、印度の研究資料に富むので知られてゐる。主なる輸出品は、本島産のリプトン茶並に香料等であつて、輸入品の主なるものは綿織物・食料品等である。

## 五　交通

鐵道は北部の平野に最もよく發達し、總延長は凡そ六萬七千粁餘に達してゐて、我が國より遙かに多いが、面積百方粁に對する密度は一粁四で、我が國（四・三粁）に及ばない。又ガンジス川、インダス川等を始め、河川や運河を交通に利用することも盛に行はれてゐるが、其の外沿岸各地の諸港からは、内外各地に航路を通じて、海外との貿易も盛に行はれてゐる。

## 六　我が國との關係

**間接關係**　印度と我が國との關係は、間接的には可なり舊いものである。卽ち我が國民多數の信奉する佛敎は、此の地のガンジス川流域に於て、釋迦の開宗せるものにして、其の後、支那・朝鮮を經て、我が國に傳つたもので、直接的ではないが、此のため我が國民の受けた思想上の影響は古來大いなるものがあつた。

**貿易關係**　印度の貿易は、英本國との間に最も盛であるが、近年我が國との間にも、次第に盛になつて來た。卽ち我が國にとつては、米國・支那に次ぐ主な貿易取引先であつて、我が國の汽船は定期に、カルカッタ・ボンベー等の諸港に往來してゐる。

此の國から、我が國への主要輸入品は綿（一一、三二六萬圓）、銑鐵（三六三萬圓）、ゴム（三二一萬圓）等で、特に綿は、我が國に輸入する綿總額の殆んど四割（昭和六年）は、此の英領印度から輸入してゐる—尤も昭和八年四月には、英國は日印通商條約の廢棄を、我が國に通告したりして、日印貿易にも、多少の變動があつたが—尙ほ我が國から此の國への主要輸出品は、綿織物（四、九八七萬圓）、絹織物（二、一五三萬圓）、綿絲（五五九萬圓）等である。

## 指導の過程

◎配當時間―一時間

1　本課は、學習指導の時間を僅か一時間しか豫定出來ないから、餘り詳說するわけには行かない。故に大體吟味の項に記した樣な事柄に就て、その大要を理解せしめればよい。

2　尙ほ環境の整理の項に記せる如き、一切の直觀的方便物は、授業前から、自由に兒童に觀察させておき、指導時間中に、多くの觀察時間を要しないやうにしておきたい。

3　指導に際して、特に留意したいと思惟する事柄は、先づ第一に、印度が何故に、英國の領土中、最重要な國であるのかに就いて、その具體的內容を、なる程と頷ける程度にまで、明かにすることである。

4　そのためには、印度の地勢と雨量との關係、並びに雨量と農業との關係について說明し、印度がその北境の西藏や、北西部のイラン地方等と地續きであるに拘らず、夫れ等の地方とは、全く趣を異にしてゐる事實を明かにせなければならぬ。

5　而して印度各地から產する主要なる物產、及び夫れ等の產額の世界的地位に就いて明かにすべきである。

6　印度と我が國との關係に就ては、歷史的、政治的方面からの諸關係もあるが、是等に就ては、さう深く取扱ふ必要はない。卽ち彼我の貿易關係を中心主題として、延いて交通關係に及ぼすやうにするがよい。

7　尙ほ時間が許すならば、印度の沿革に就ても、簡單に說明し、現在に於ける英本國の印度統治策、並に印度國民（ガンヂーを以て代表されたる）の思想傾向等に就ても明かにしておきたい。

# 六　東南アジヤ

## 指導の主眼

東南アジヤの自然及び人文地理の大要を授け、且つ本地方に於ける各國勢力の分野を明かにし、本地域と我が國とは、軍事上並に經濟上、頗る密接なる關係を有する地方なることを知らしめるのが、本課指導の主眼である。

## 環境の整理

世界全圖―東南アジヤの詳細圖―本地方の氣候及び產業圖―主要物產の產額比較圖―ゴムの木及びゴム製品・マニラ麻・マニラ煙草・椰子の實・コプラ等の標本―その他敎科書揷繪の擴大圖―我が國との貿易比較圖表等。

## 指導事項の吟味

**一　印度支那半島の地理一般**

1　位置……四周關係から觀たる位置
2　面積・人口……印度支那半島の總計
3　政治區分……讀國による各國勢力分野の概觀
4　氣候・地勢（氣候……熱帶性季節風帶／地勢……山・川・平地・海岸の概要）
5　產業・貿易
（イ）米……ラングーン・バンコク・サイゴンの諸港から輸出され、我が國へ來る額も多い
（ロ）ゴムの木……マレー半島で盛に栽培され、我が邦人の斯業に從事する者も多い
（ハ）錫及び鐵鑛……我が國へも多量に送られる
6　シンガポール……世界交通上の要地。各國の船舶の出入多く、貿易頗る盛

**二　マレー諸島の地理一般**

1　位置……四周關係（特に本邦との）から觀たる位置
2　主島及び地勢の概要と氣候
3　產物及び主島と產物
（イ）產物……さたうきび・ゴム・マニラ麻・やし等の栽培盛
（ロ）ジヤワ島……世界での砂糖の主產地で、バタビヤ・スラバヤから多く輸出。我が國へも多く粗糖を輸出する
（ハ）ボルネオ島／スマトラ島……石油を產し、我が國にも澤山輸入されている
（ニ）フイリピン群島……マニラ麻・コプラが多く輸出される

4　マレー諸島と我が國との關係

## 教材の敷衍

### 一　印度支那半島

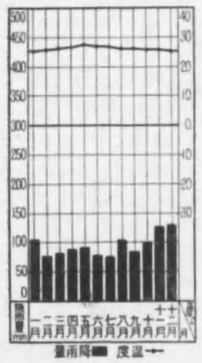
**位置**　東南アジヤとは、印度支那半島及びマレー諸島を總稱して言ふのである。其の中印度支那は、印度の東部にあるが故に、東印度とも稱せられる所である。北部は支那に接し、其の東部は南支那海に臨み、西は印度及びベンガル灣に臨んでゐる。而して其の南部に於ては、大小無數の島嶼からなれる馬來諸島と連つてゐる。

**面積・人口**　其の面積は約二百萬方粁あるから、我が國の約三倍に相當する廣さであり、又人口の總計は、五千萬人である。

**政治區分**　印度支那は政治上之を分つて、ビルマ（英領）・暹羅（王國）・佛領印度支那（佛領及び其の保護國）・馬來聯邦（英國の保護國）・海峽植民地（英領）とする。即ち獨立國としては、僅かに暹羅の一國あるのみである。

**氣候**　氣候は熱帶性季節風帶に屬し、四季の別なく、乾濕の二季に分れてゐる。即ち夏は、南西風卓越して雨季となり、雨量が極めて多いが、冬は北東風吹いて乾季となる。

シンガポールの氣候



**地勢**　本地域内には、遠く支那本部から南に延び來りたる印度支那山系が略々其中央を南北に連なり、遂に馬來半島を構成し、尙ほ此の山脈はヒマラヤ山脈の東端附近から幾多の支脈を分つてゐる。卽ち印度との界にアラカン山脈を、又イラワヂ川の東にペグ山脈を、更にトンキン灣に面せる佛領印度支那を南北に走れる安南山脈を、而して之等の諸山脈は皆、略々南北に連なつてゐるが故に、此の間を通じて、メナム川・メーコン川・イラワヂ川等の諸川が北より南に向つて流れ、本地方に灌漑交通の便を與へてゐる。

**産業・貿易**　されば是等河川の流域地方には、地味肥沃なる平野開けて、各種の農産物に富み、殊に米の産額が頗る多い。我が國にて外米と稱せられてゐるのは、主として此の附近から産出されたもので、其の輸出港は、佛領のサイゴン（人口約一三萬）・シヤムの首府盤谷（人口凡そ九三萬餘）・英領のラングーン（人口約三五萬餘）等である。

尙ほ本地方は高濕多濕なる地方なるが故に、植物がよく繁茂し、チーク・椰子・椰子樹・バナナ・鳳梨等の天産が多い。また動物の此の附近に棲息せるものには、象・犀・水牛・虎等がある。

次にマレー半島に於ては、ゴムの木の栽培が盛で、我が國人のゴム栽培に從事してゐるものも頗る多く、此の地域に居住する本邦人の殆ど三分の一は、ゴム林の經營又は其の勞働に從事してゐる者である。又本半島の馬來諸州は、世界第一の錫產地で、同じく半島から產する鐵鑛と共に、我が國にも

ゴムの液の採集

多量に輸出されてゐる。

◎挿繪の解說

**ゴム液の採集**　圖はマレー半島の護謨の植林地で、ゴムの採集をしてゐる光景を示したものである。立竝ぶはゴム林で、今其の樹皮に切付けをしてゐる所。切付けは毎日、日の出前に特殊の刀でY字形に樹皮を傷付け、樹液を流出せしめて、之を容器に流入せしめ、斯うして集めたる樹液を、一度コシて少量の酢を加へると、ゴムは沈澱する、其の沈澱したものに更に加工して精製するのである。

**シンガポール**　半島の南端に近い英領のシンガポールと言ふ小島にあつて、イギリスの有力なる海軍根據地であると共に、半島から產する錫・護謨・チーク・鐵鑛・コプラ等を輸出し、又東西交通の要衝に當り、各國の船舶の出入が多く、市況も頗る繁榮してゐる。我が國の諸汽船も此の港に寄航する。市內には各國人雜居し、人口は約三十萬餘。其の中我が內地人は二千人を超えてゐる。されば我が國では、此處に總領事館を置いてある。

## 二　マレー諸島

第八　アジヤ洲（亞細亞洲）

**位置**　マレー諸島とは、アジヤ大陸の南東部に散在せる大小無數の島嶼を總稱して言ふので、東は太平洋に臨み、西は南支那海及びマラッカ海峽を隔てゝ支那及東印度地方と相對し、北はバシー海峽を隔てゝ我が臺灣島と相望み、南は印度洋に面し、又其の南東部に於ては、大洋洲と隣りしてゐる。

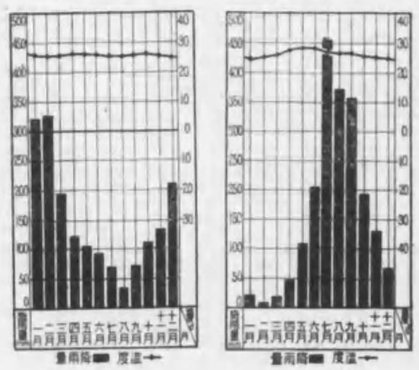
**主島**　マレー諸島中の主要なる島嶼は、ルソン島・ボルネオ島・スマトラ島・ジヤワ島・セレベス島・ミンダナオ島・ジロロ島・セラム島・チモル島等にして之等を中心として尙ほ多數の島嶼が、其の間に散點してゐる。

**地勢**　此等の各島嶼は、何れも山地及び丘陵が多くて、平地少く、又地形の關係上大川に乏しい。尙ほ本地方にはスマトラ・ジヤワの諸島を經てバブア島に至る火山脈、並びにモルッカ・セレベスよりフイリピン群島を經て我が臺灣島に至る火山脈等、其の他小火山脈を通ずるが故に、頗る火山に富み、殊にジヤワ島の如きは、火山の數百餘に達し、現に活動してゐる火山のみにても三十餘に上ると言ふことである。されば此の地方は噴火に伴つて起る地震の慘害を蒙ること多く、一千八百八十三年スンダ海峽中のクラカタオ火山の噴火せる際の如きは、島の大部分は飛散し、火山灰は一時全地表を覆ひ、ジヤワ・スマトラの沿岸には、大津波を起し、爲めに數萬の犧牲者を出した程である。

**氣候**　本諸島は、其の中央を赤道が貫いてゐて、全部熱帶地域内に屬するが故に、暑氣酷烈なる地方の如く思惟されるけれども、海洋の影響を受けるが故に、思つたよりも比較的冷涼である。殊に熱帶地方の島嶼に於ける、特有な現象として、午後は、殆ど毎日、驟雨があるから、空氣の乾燥に失する恐れもなく、割合に濕潤である。

**産物**　本地域は斯の如く氣候溫暖なる上に、地味も亦よく肥えてゐるから、熱帶性植物の發育に適し、各所に椰子・檳榔樹・護謨樹・チーク・竹等の森林多く、又農産物も豐かにして、甘蔗・米・茶・コブラ・マニラ麻・煙草・ゴム・珈琲・香料・籐等の産額が多い。又金・錫・寶石・石油・石炭等の産も尠くない。

◎挿繪の解說



やしの木

やしの實

**やしの實とやしの木**　下圖はココ椰子の實（右方は芽を吹いた實、左方は外果皮を縱斷した實）を示したもので、上圖は其の樹木の有樣を示したものである。椰子の利用に就いては「我が南洋委任統治地」の所で、參考附說として詳記してあるから、同項を參照されたし。

い。尙ほ椰子の實から製せられる「コプラ」に就いても、其の利用の一として同項に記してある。

**主島と産物**　マレー諸島の大部分（約七割餘）はオランダ領であつて、其の他は皆、米領・英領・葡領に屬し、獨立せる國家をなせるものは一島もない。卽ちスマトラ島・セレベス島・ジヤワ島・ボルネオ島の大部、モルッカ群島、其の他附近の小島は皆、オランダ領に屬し、フィリピン群島は米國領。ボルネオ島の北部は英國領。チモル島の一部は葡萄牙領に屬してゐる。今之等の諸島の中、主なるものに就いてのみ簡單に記述して見よう。

**ジヤワ島**　スマトラ島の南東に續く島嶼にして、面積は十二萬二千方粁弱に過ぎないが、人口は三千六百四十萬を算し、諸島中最も開けた所である。其の主要なる農産物としては、砂糖・珈琲・規那・米・茶・香料等があり、就中砂糖は、ジヤワ糖と稱し、我が國にも多く輸入せられてゐる。尙ほ林産物としては、チーク材、籐等の産出も多く、鑛産物としては石油・錫等を多く産出してゐる。

**バタビヤ**　ジヤワ島の北西岸にある主要なる港にして、人口約四十四萬餘、今から四百年前、オランダ人の創設せる港市にして、蘭領東印度總督の駐在地である。現在我が國と蘭領印度との貿易は、主として此のバタビヤを中心として行はれてゐるのであつて、我が邦人の在留する者も多く、我が國の汽船も絶えず出入してゐる。

**ボルネオ島**　ボルネオ島はジヤワ島の北部に位し、面積七十三萬四千方粁（或は七十四萬六千方粁



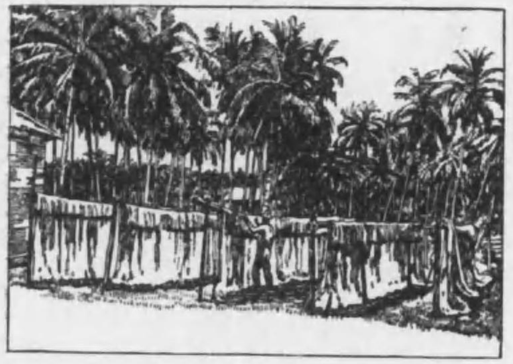
方粁弱との說もある。）アジヤ第一の大島である。此の中、南大半は蘭領に屬し、英領は其の北西に續いて約三分の一の地積である。人口は二百五十萬餘（中百五十萬は蘭領）に及び、北部（英領）に聳びゆるキニバル山は海拔四千百七十五米餘、我が新高山よりも高い。全島鑛物に富み、金・金剛石・石油・石炭等を出すが、中でも石油の産額多く、我が國へも澤山輸入されてゐる。

**スマトラ島**　マレー半島の南西に長く横たはつてゐる島にして、面積凡そ四十三萬方粁、屬島を加へると四十五萬方粁以上に上り、人口二百五十萬餘を算し、中に六十以上の火山がある。諸島中最も未開地にして、隨つて産業の發達せるものも少く、其の主なる産物は、石油・煙草・ゴム・甘蔗糖等である。就中石油は島の東海岸及び南部地方より多く産し、蘭領印度第一の産額を有し、我が國にも多く輸入されてゐる。

**フイリピン群島**　臺灣島の南方海上に散在せる大小幾多の島嶼からなり、其の總面積凡そ三十萬方粁餘、人口總數一千一百萬を超えてゐる。本群島の主なる産物としては、マニラ麻・砂糖・煙草・コプラ・米・棉・ゴム等の農産物があり、就中マニラ麻と砂糖及び煙草・コプラは、本地方の四大農産物と言はれてゐる。尙ほ其の將來を囑望されてゐるものに、金・石炭・石油等の鑛産物があるが、是等は未だ盛に採掘される迄に至つてゐない。

**マニラ**　ルソン（呂宋）島の西岸にある主要なる貿易港にして、人口約三十萬、本群島の首府にあた

り、フイリピン總督の駐在してゐる所である。南洋交通上の要衝にして、我が日本郵船濠洲航路の寄航地にあたり、マニラ麻・コプラ・砂糖・煙草等の輸出港として知られてゐる。此處に居住する本邦人は二千人を超え、我が領事館もある。尚また此の地は、太平洋横斷海底電線の出發點となつてゐる所である。



マニラ麻の乾場

◎挿繪の解說

**マニラ麻の乾場**　圖はフイリピン群島に於けるマニラ麻の乾場を見せたものであるが、今其の纖維を竿にかけて乾燥してゐる所である。其の用途は、主に眞田・綱・製紙原料等に用ひられる。附近に繁茂してゐるのは椰子の木である。

**三　我が國との關係**

**貿易**　東南アジヤ殊にマレー諸島には近來我が國人の渡航するものが、次第に多くなり、昭和元年には、約一萬五千人であつたものが、同五年には二萬七千三百人以上になつてゐる。此の中在留者の最も多いのは、フイリピンで殆ど二萬に近く、就中ルソン島が最も多い。又我が國の汽船が、マニラ・シンガポール・パタビヤ・スラバヤ等の諸港に定期に往來して、彼我の貿易の行はれてゐることは既に明かにした通りである。されば次に昭和二年及び七年度に於て、是等の諸地方と、我が國との間に行はれた輸出入貿易額を掲げて參考に供しよう。（單位萬圓）

| 國名 | | 昭和二年 | 同七年 |
|---|---|---|---|
| フイリピン | 輸出價格 | 三二・八 | 二二、三六・二 |
| | 佛領印度支那 | 五・九 | 二、三四・四 |
| | 海峽植民地 | 三六・七 | 二五、五四・九 |
| | 輸入價格 | 一七・八 | 九、七六・四 |
| | 佛領印度支那 | 三三・二 | 五、六九・二 |
| | 海峽植民地 | 三五・九 | 二五、三三・七 |

| 國名 | | 昭和二年 | 同七年 |
|---|---|---|---|
| 蘭領東印度 | 輸出價格 | 八二・六 | 一〇〇、二五・一 |
| | 邏羅 | 一一・一 | 八、五八・一 |
| | 輸入價格 | 一、〇三・八 | 四〇、四〇・九 |
| | 邏羅 | 二二・三 | 一一、一九・八 |

## 指導の過程

◎配當時間—一時間

1　先づ東南アジヤとは、どれだけの地域を言ふかを明かにし、その地域内に於ける各國勢力の分野を知らしめ（主に讀圖による）、然る後、大陸部に屬する印度支那半島及びマレー諸島に就て、吟味の項に記載せるが如き事項に就て敷衍する。

2　前課（印度）の指導の過程の處で第(1)(2)項に述べたる如き考慮は、當然本時に於ても必要である。

3　尙ほ教科書には掲げてないが、本地域内の氣候に就ても、その一般狀況を明かにしておくがよい。本地域は、赤道直下に當るが故に、稍々もすると暑熱さびしく、到底我等日本人の生活に、適しない地方かの如く思惟され易い傾向があつたが、斯うした謬念を除き、我が國人の發展に何等差支へなき事實を明かにし、海外發展の念慮を涵養することも忘れてはならぬ。

4　而してそのためには、現在我が國人の、此の地方に於て活動してゐる狀況、及び我が國との取引關係等を明かにし、又地圖上に於て、我が國と是等の地方との、航路關係を明かにすることが大切である。

# 第九　ヨーロッパ洲（歐羅巴洲）

## 指導の主眼

先づヨーロッパ洲の位置・面積・人口等の大要を明かにし、且つその中に分布せる主な諸國の境域を知らしめて、然る後本洲全體に亘る地勢・氣候・産業・交通・貿易等の概要を授け、本洲が他の大陸に比して、著しく文化の進んでゐる理由を、理解させると共に、特に我が國と、密接な關係の有る諸國に就て、その國勢並に特色を知らしめ、相互の關係を闡明することが、本課を指導する上に於ての、主要な着眼點である。

## 環境の整理

地圖類……世界全圖・地球儀・六大洲の面積及び人口比較圖・歐洲全圖・同地勢圖・同人種分布圖・海流圖・雨量圖・等溫線圖・各種産業の分布圖・交通圖・主要諸國と本邦との國勢比較表・同貿易關係一覽圖表等。

繪畫又は繪葉書・寫眞の類……アルプ山脈並にその登山鐵道・サンゴタルドの隧道・ジュネーブ湖・甜菜畑・オリーブ園・葡萄畑・ロシヤ南東部の牧場・スエーデン乃至ドイツの森林・スエーデンのパルプ

工場・ノールウエー近海の漁港・その他主要物産の栽培及び製造等の實況・主要都市及び漁港・名勝・舊跡等の景觀を示すもの等。

實物又は標本類……オリーブ油・ボルドー葡萄酒・牛酪・乾酪・板ガラス・英國製毛織物・同ペン先・スイス製時計・スエーデン製パルプ・アニリン染料・ロシヤ製更紗・同革・その他の主要物産・主要諸國の國旗等。

## 指導事項の吟味

### 一　區域

1　位置・形狀・面積・人口等の大要

2　政治區分……英・佛・獨・伊・露・和蘭・白耳義・西班牙・葡萄牙等、大小三十餘國

### 二　地勢

1　山地……本洲の南部及び南西部と、北部のスカンヂナビヤ半島に多い

2　平地……右の山地を除く部分は、大抵大きな平地で、殊に東部のロシヤから、中部のドイツへかけての平地は最も廣大

3　川……一般に緩流で、廣くて長い、運輸・灌漑に便、川と川とは運河によつて互に相通じ、航路が通つてゐる

### 三　氣候……アジヤ洲や北アメリカ洲の同緯度の地方に比して遙かに温暖―その理由

### 四　産業

1　農業……主要農産物と、その分布の概要

2　牧畜……廣く各地に行はれ、殊に羊・牛・馬の飼養が盛である

(イ)　ロシヤ……南東部に廣い草原があり、雨量が尠いので牧畜が殊に盛

(ロ)　オランダ・デンマーク……牛の飼養が盛で、バタ・チーズが多く製造され、外國にも多量に輸出

(ハ)　地中海方面……羊・山羊の飼養が盛

3　林業……中部から北部にかけて森林が多い

(イ)　天然林の多い國は……ロシヤ・フインランド・スエーデン・ノールウエー等

(ロ)(ハ)　人工林の發達せる國は……ドイツ・チエツコスロバキヤ・ポーランド・オーストリヤ等

(ハ)(ロ)　林産物……木材及び木材から製するパルプ、瑞典・諾威ではパルプの製造盛、パルプは我が國へも輸出される

4　水産業……本洲の西部海岸は水産業が極めて盛で、就中諾威の近海と北海とは、世界屈指の大漁場―其の主要漁獲物

5　鑛業・工業

(イ)　中部から西部にかけては、鐵鑛・石炭が豐富に産出する

(石炭……イギリス・ドイツに最も豐富
(鐵鑛……フランス・イギリス・ドイツに最も産額が多い、何れも世界の主産地

(ロ)　隨つて如上の諸國では、鐵の製錬・精製、機械の製造が甚だ盛

(ハ)(ニ)　又他の大陸から輸入した原料を用ひて種々の工業品を製する

(ホ)　他の主要工業品……綿絲・綿織物・毛織物・船・藥品・機械等、何れも各國に輸出

ベルギー・オランダにも各種の工業發達

### 五　交通・貿易

1　陸上交通……産業の進歩と共に、交通の便も大いに開け、鐵道は到る處に敷設

(イ)　鐵道密度の最も大なる國……ベルギー・スイス・ドイツ・デンマーク・オランダ・イギリス等

(ロ)　鐵道幹線……ロンドン・パリー・ベルリン・モスコー等を中心として四方に通ずる

(ハ) ロシヤを通ずる幹線は、シベリヤの鐵道の幹線に接續する
(ニ) バルカン半島を通ずる幹線は、西部アジヤの幹線と連絡してゐる
2 航空…近時航空事業が發達し、主な都會の間には、定期航空路が開かれてゐる
3 水上交通……水上交通は頗る便利である―其の理由
(イ) 世界に名高い港……ロンドン(英)・リバプール(英)・ハンブルグ(獨)・マルセーユ(佛)等
(ロ) 其他の主な港……アントワープ(白耳義)・ロッテルダム(和蘭)・サザンプトン(英)・ゼノア(伊)等
4 貿易……英・獨・佛・伊・諸國は、何れも世界の海運業に於て優勢、殊にイギリスは、最も優勢

## 六 イギリス(英吉利)

1 位置……四周關係から觀たる位置、並に緯度上から觀たる位置(我が國との對比)
2 面積・人口……本國は我が國より小さい島國、併し全領土の面積を合すれば世界無比―人口も亦本國のみでは、我が國より夥いが、全領土の人口は世界第一位
3 英國が今日の富强をなせる理由
4 英國の產業概說……鑛業・工業・其の他
5 主な都邑……ロンドン(首府・大貿易港)―リバプール(貿易港)―マンチエスター(工業市)

## 七 フランス(佛蘭西)

1 位置……自然的位置及び關係的位置
2 面積・人口……本國の面積は、我が國より狹いが、全領土の面積は、英・露に次いで世界第三位―人口は約四千二百萬
3 氣候……一般に溫和、殊に南部の地中海沿岸地方は特に溫暖
4 產業概說……農業・工業・鑛業等の概觀及主要產物



5 主な都邑……パリー(首府)―マルセーユ(大貿易港)

## 八 イタリヤ(伊太利)

1 位置……四周關係から觀たる位置
2 面積・人口……面積約三十一萬平方粁―人口四千一百萬(本國)
3 地勢……山地が多く、小山に富み、地震も多い、川と其の利用
4 產業概說……農業・牧畜・水產業・林業
5 主な都邑……ローマ(首府)―ゼノア(伊國第一の貿易港)―ネープルス(伊國第一の都邑)

## 九 ドイツ(獨逸)

1 ドイツ國勢の今昔……歐洲大戰の前と後のドイツの國勢の變化
2 隆盛に向ひつゝあるドイツの產業
3 ベルリン……獨逸の首府、人口約四百三十萬、歐洲大陸に於ける陸上・交通の要地、商工業盛

## 一〇 ロシヤ(露西亞)

1 地勢・氣候の概說
(イ) 一般に平地で大きな川多く、水運・灌漑共に便利
(ロ) 北の大部分は、寒氣激しく產業發達せず
2 產業概況……南部は割合に溫暖、農業・牧畜甚だ盛―主な農產物及び家畜
3 領土……本國の面積も大であるが、更に東亞に廣大な領地を有し、英國に次いで、世界第二の大國―シベリヤは本邦と特に關係が深い
4 モスコー……ロシヤの首府、世界陸上交通の要地

第九　ヨーロッパ洲(歐羅巴洲)